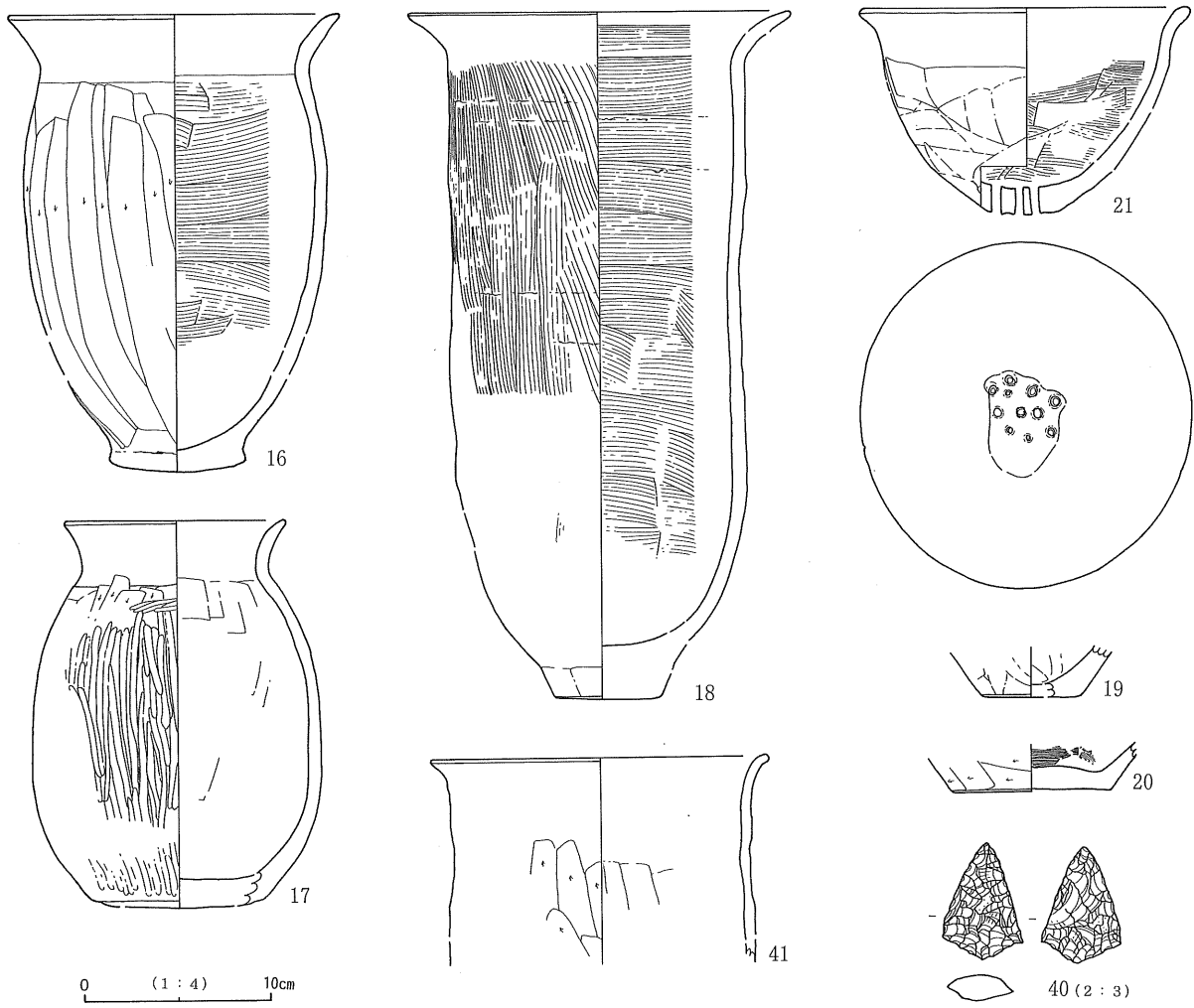


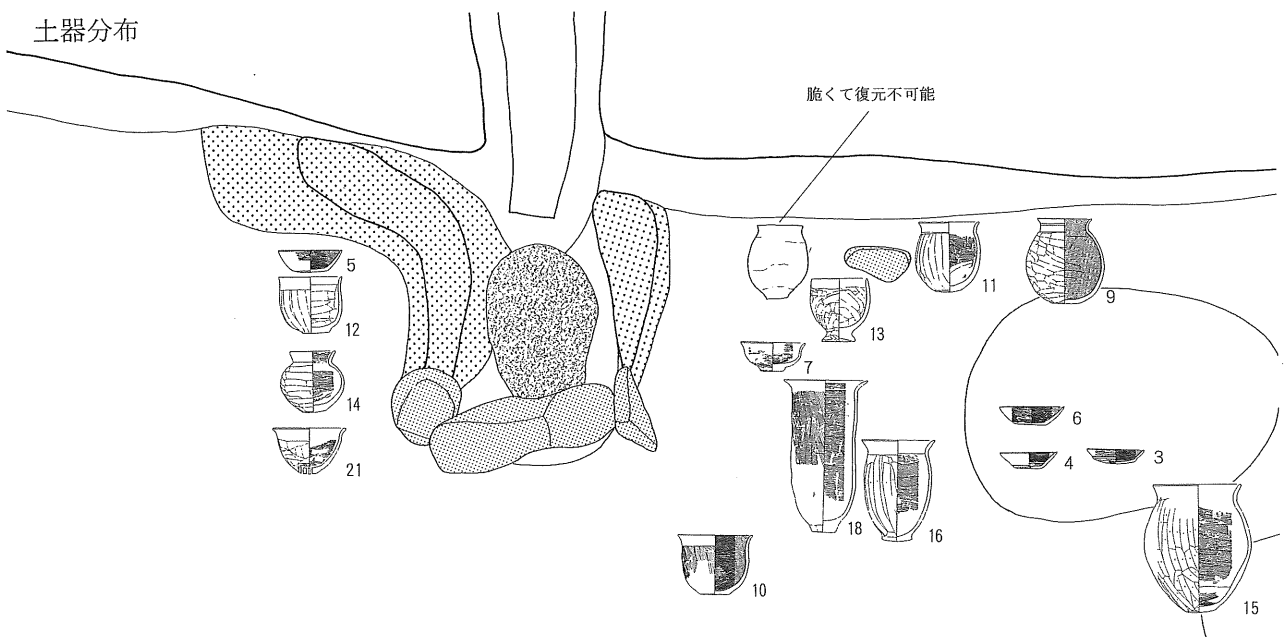
第63图 H54号住居址

0 (1:4) 10cm

1. 古墳時代



土器分布



第 64 図 H 54 号住居址

第38表 H54号住居址出土遺物一覧表(2)

10	土師器鉢	18.2 7.3 14.3	内外 ミガキ→黒色処理 胴部ハケナデ→ナデ→口縁部横ナデ	完形(摩耗) 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	I区
11	土師器甕	15.0 6.7 16.8	内 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ(→一部にナデ) 外 胴・底部ヘラナデ→口縁部横ナデ	口縁部5/8残存(内面剥離、外面摩耗) 2.5Y R7/4(淡赤橙)	2～8mmの赤色粒子を多く含む。1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。	
12	土師器鉢	15.3 6.3 13.6	内外 胴～底部ナデ→口縁部横ナデ 胴部縦位ナデ→口縁部横ナデ・底部ナデ	完形 10Y R8/4(浅黄橙)	4mm以下の赤色粒子、1mm以下の白色粒子を含む。	
13	土師器台付甕	13.6 8.2 15.2	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ・脚部ナデ 胴・脚部ヘラナデ→口縁部横ナデ	完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)・5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	
14	土師器壺	11.1 5.7 14.6	内外 (ナデ→)横位ミガキ 胴・底部横位ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部2/3残存頸部より下、完全に残る。(外面摩耗) 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子含む。小石含む。	
15	土師器丸胴甕	21.5 7.1 30.9	内外 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ 口縁部横ナデ→胴・底部縦位ヘラケズリ →口縁部ミガキ	底部完形、口縁部一部残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm～2mmの赤色粒子・黒色粒子含む。	I区
16	土師器甕	(17.6) (7.2) 24.4	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ・胴下半～ 底部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ・ 底部ヘラケズリ	口縁部3/4残存 2.5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。	I区
17	土師器甕	(12.0) (9.1) <20.4>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ→ 縦位ミガキ	口縁部1/2残存 5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	カマドI区
18	土師器甕	20.4 5.7 36.7	内 胴部ハケナデ・口縁部横ナデ・胴下半～ 底部ナデ 外 胴部縦位ハケナデ→口縁部横ナデ・ 底部ナデ	口縁部3/4残存、底部完形 5Y R7/4(にぶい橙)	1～3mmの白色粒子多量含む。 底部に木葉痕あり。	I区
19	土師器甕	— (5.4) <2.7>	内外 ナデ ナデ	底部1/2残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黒色粒子含む。	堀方
20	弥生土器壺	— 8.6 <2.5>	内外 ナデ(一部工具使用) ヘラケズリ	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	堀方
21	土師器甗	17.8 3.7 11.1	内 口縁部横ナデ・胴～底部ハケナデ→黒色 処理 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	ほぼ完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子、1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。緻密。11孔あり。	
41	鉢か甕	18.2 — <11.0>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁1/3 5Y R5/3(にぶい赤褐色)	3mm以下の白色粒子含む。	I区堀方

41) H55号住居址(第65・66図、第39表、図版二十七・五十七・五十八)

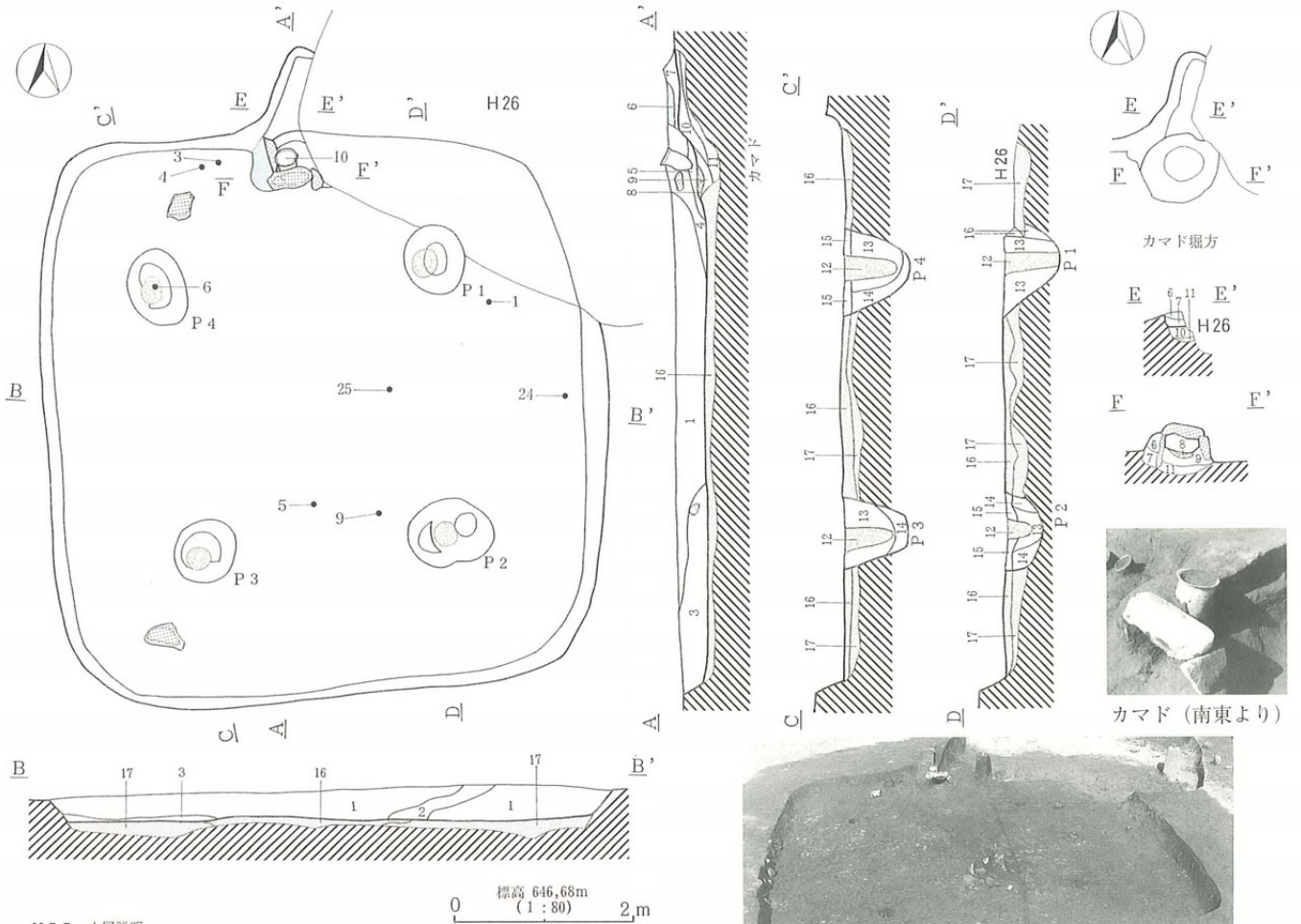
6お6グリットにあり、H26に切られ、D25を切る。南北596cm、東西581cm、深さ35cmの方形を呈す。カマドはH26に東袖を破壊されるが北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを指す。カマドは袖先に石を組み、カマドには10の長胴甕がセットされた状態で検出された。主柱穴はP1～P4で円ないし楕円形を呈し、短径64～68cm、深さ40～72cmを測り、24～28cmの柱痕が検出された。

掲載遺物には土師器杯(1)、椀(2・3)、甗(4)、丸胴甕(5)、長胴甕(6～11・14)、滑石製紡錘車(24・25)黒耀石製剥片(22)、黒耀石製石鏃(23)がある。1は須恵器蓋杯の模倣か底部は扁平である。内面はナデで黒色処理される。2・3は内面ミガキ黒色処理で、外面も黒色処理されている。丸胴甕は外面ハケ調整でミガキ調整がなされていない。10の長胴甕はカマドに置かれ、外面ミガキ調整され、最大径は口縁にある。他にハケナデ、ヘラケズリの甕がみられる。隣接するH54より、いくらか長胴甕の胴部器形などは古い。古墳時代後期の土器群であろう。

第39表 H55号住居址出土遺物一覧表(1)

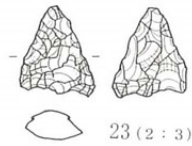
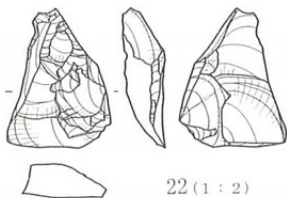
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	11.4 11.6 2.9	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ(わずかな ミガキ)→黒色処理 外 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ	完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mmの黒色粒子含む。	
2	土師器椀	11.9 — 6.6	内外 横位ミガキ→黒色処理 ミガキ	ほぼ完形(内外摩耗) 内 N2/0(黒) 外 5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子多量含む。	I区
3	土師器椀	12.5 6.1 6.2	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・体部～底部ヘラケズリ→ 黒色処理	完形(内面摩耗) 内 N2/0(黒) 外 10Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を多量、 1～2mmの赤色粒子を多量 含む。	

1. 古墳時代



H 55 土層説明

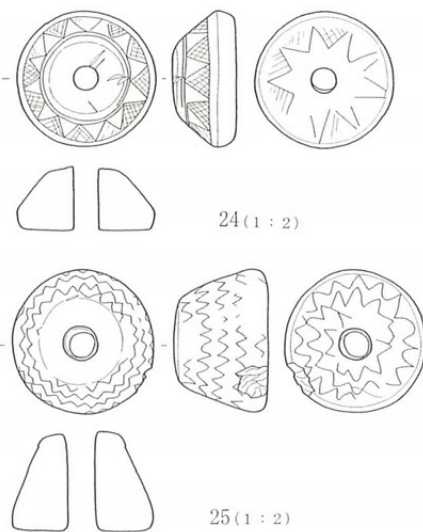
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) 砂ブロック・炭化物を含む。
2. 褐色土層 (10YR4/4) 砂粒子・砂ブロックを多量に含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・シルト質土粒子を含む。
4. 灰褐色土層 (5YR4/2) 粘土ブロック・焼土ブロックを含む。
5. 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 粘土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
6. にぶい褐色土層 (7.5YR5/4) 粘土主体。(カマド煙道構築土)
7. 褐色土層 (7.5YR4/3) 粘土ブロック、地山 (砂粒子) を含む。
8. 暗赤褐色土層 (5YR3/6) 焼土。
9. 黒褐色土層 (5YR2/1) 焼土粒子・炭化物・灰を含む。(カマド堀方)
10. 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土粒子・粘土ブロックを含む。(カマド堀方)
11. 灰褐色土層 (5YR5/2) 粘土ブロックを含む。地山 (砂粒子) を含む。(カマド堀方)
12. 柱痕。
13. 黒褐色土層 (10YR3/2) 黒色土 (10YR1.7/1) を帯状に含む。地山 (砂) ブロックを含む。(ピット堀方)
14. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 地山 (砂) 粒子を含む。砂のブロックを含む。(ピット堀方)
15. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土ブロックを含む。(ピット上の貼床)
16. 黒褐色土層 (10YR3/2) ・黒色土層 (10YR1.7/1) の混在土層。(貼床)
17. 黒色土層 (10YR1.7/1) 地山 (砂) を多量に含む。礫を含む。(堀方)

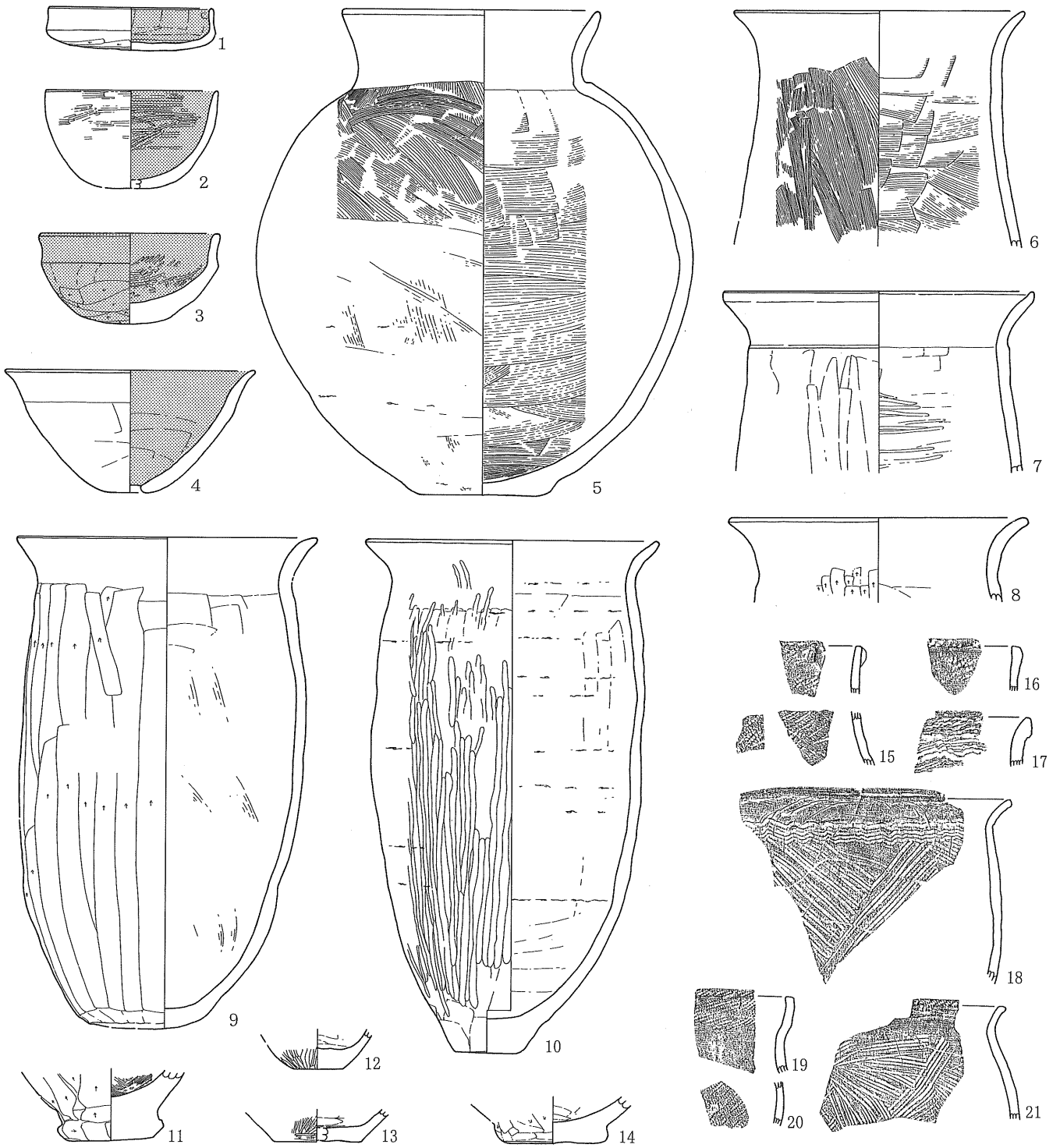


第 65 図 H 55 号住居址



H 55 号住居址 (南より)





第66图 H55号住居址

0 (1:4) 10cm

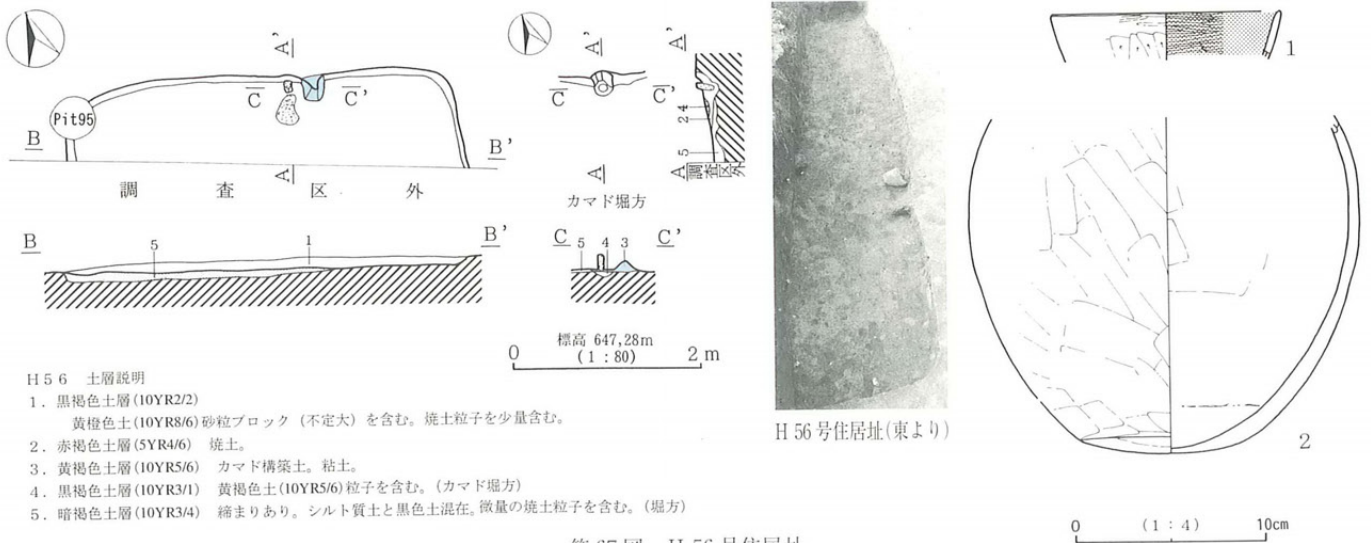
第 39 表 H 55 号住居址出土遺物一覧表 (2)

4	土師器 甌	(17.2) (3.2) 8.3	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ→黒色処理 胴部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	砂質。 1mmの白色粒子含む。 一孔。	
5	土師器 丸胴甌	17.7 8.9 34.9	内外 口縁部横ナデ→胴部～底部ハケメ 胴上半ハケナデ→胴中央～底部ナデ→ 口縁部横ナデ	ほぼ完形 5Y R8/3(淡橙)	3mm以下の赤色粒子を多量、 1mm以下の黒色粒子を少量 含む。	
6	土師器 甌	20.0 — <16.0>	内外 口縁部横ナデ・胴部横位ハケナデ・ナデ 胴部縦位ハケナデ→口縁部横ナデ	口縁部3/4残存 10Y R7/3(にぶい黄橙)	緻密。	P2
7	土師器 甌	(21.4) — <12.2>	内外 内 胴部横位ナデ→部分的にミガキ→口縁 部横ナデ 外 胴部縦位ナデ・口縁部横ナデ	口縁部1/8残存 5Y R7/4(にぶい橙)	緻密。 粉末質の胎土に1~4mm大 の小石含む。	II区
8	土師器 甌	(20.6) — <5.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子と1m mの赤色粒子を含む。	検出
9	土師器 甌	20.4 9.0 33.4	内外 内 口縁部横ナデ→胴部底部ヘラナデ(工具 使用) 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラケズリ・ 底部ナデ	口縁部、底部一部欠損 2.5Y R7/4(淡赤橙)	1mmの赤色粒子・小石を含 む。	
10	土師器 甌	20.0 4.3 35.0	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ 口縁部横ナデ・胴部底部ヘラケズリ→ 胴部縦位ミガキ	口縁部7/8残存、底部完形 5Y R6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子多量含む。	
11	土師器 甌	— 7.1 <4.8>	内外 ハケナデ ヘラケズリ	底部完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子多く含む。	III区
12	土師器 甌	— 3.3 <2.7>	内外 ナデ(ヘラ) ミガキ	底部完形 2.5Y R6/6(橙) 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	
13	弥生土器 壺	— (8.0) <2.2>	内外 ナデ ハケナデ→ミガキ	底部1/2残存 5Y R4/1(褐灰) 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	I区
14	土師器 甌	— 7.0 <3.2>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部完形 5Y R4/2(灰褐)	小石含む。	I区・堀方

42) H 56 号住居址 (第67図、第40表、図版二十八・五十八)

5く4グリットにあり、北端のみ調査し住居址の大半は調査区域外である。東西398cm、壁残高14cmを測る。カマドは北壁中央より東寄りにあり、わずかに粘土と焼土があった。主軸方位はN-10°-Eを指す。ピット等は検出されていない。

掲載土器には土師器杯か鉢(1)、丸胴甌(2)がある。古墳時代後期であろう。



第 67 図 H 56 号住居址

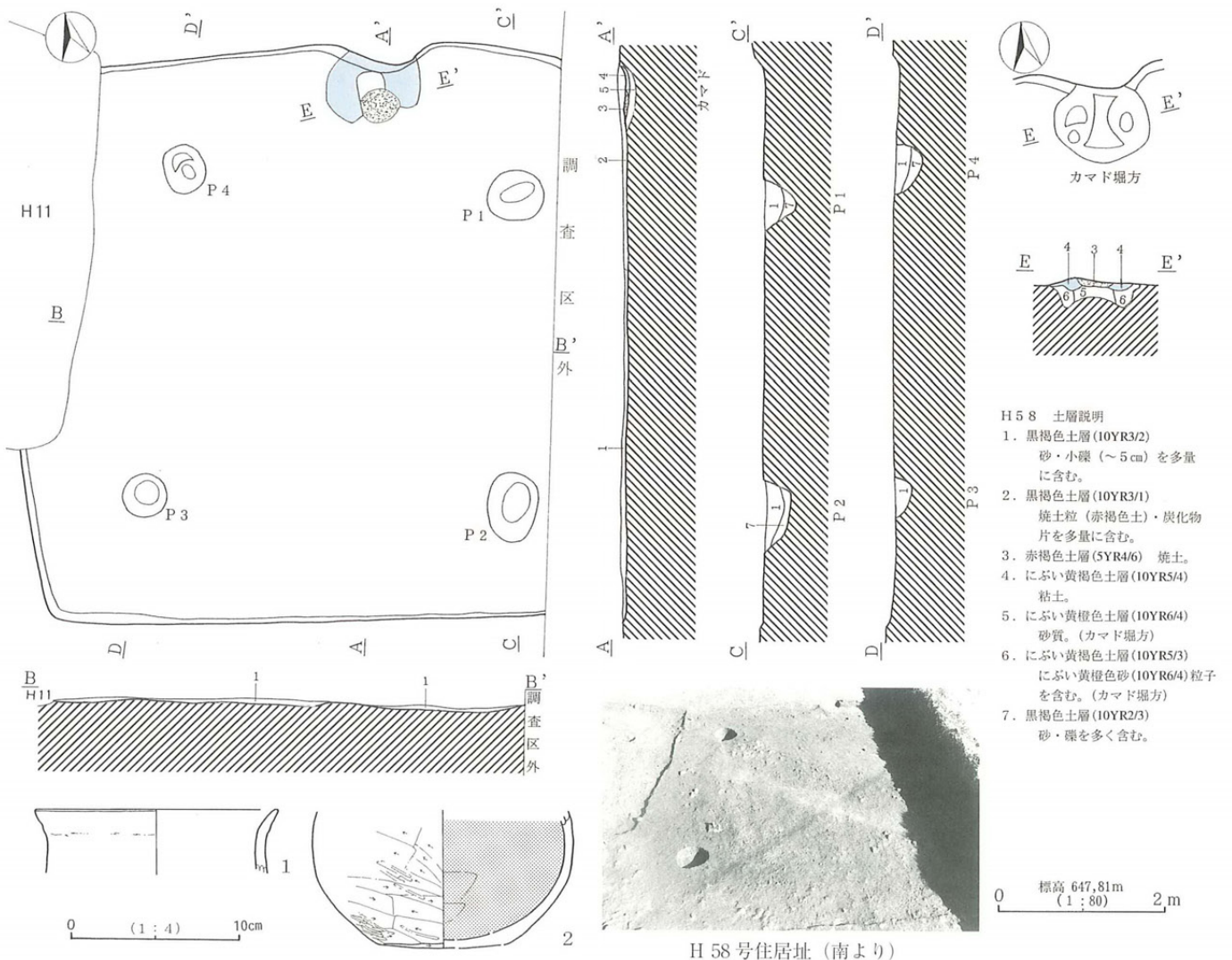
第40表 H 56号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯?	(12.2) — <2.5>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部ミガキ・体部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 N2/0(黒) 外 2.5Y8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子多量含む。	西
2	土師器 丸胴甕	— 9.6 <17.5>	内外 ナデ ナデ	底部3/4残存 2.5Y R 7/4(淡赤橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	東

43) H 58 号住居址 (第68図、第41表、図版二十八・五十八)

調査区東端の4け5グリットにあり、H11に切られる。南北668cm、壁残高8cmを測り形態は方形を呈すものと推測される。カマドは北壁中央にあり、焼土と袖の粘土が残っていた。主軸方位はN-10°-Eを指す。主柱穴はP1~P4で楕円ないし円形を呈し、短径で52~60cm、深さ24~40cmを測る。

掲載土器は土師器小型甕(1)、鉢(2)である。いずれも全器形は明らかでないが古墳時代後期のものである。



第68図 H 58号住居址

第41表 H 58号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 小型甕	(14.6) — <3.8>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部1/2残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子含む。	カマド 4こ5G
2	土師器 鉢	— (8.0) <8.1>	内外 ミガキ→黒色処理 ヘラケズリ→ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R 5/2(灰褐)	緻密。 1mm以下の白色粒子・小石 を含む。	カマド 5あ4G 4こ5G

44) H 61号住居址 (第69図、第42表、図版二十八・五十八)

5あ2グリットにあり、北側は調査区域外で調査できなかった。東西470cm、壁残高24cmを測る。カマドは検出されなかった。北端が調査されていないので、北壁にあるものと推測される。P1～P3が径16～30cm、深さ12～28cmの主柱穴かと推測されるが明確でない。北東には径52cm、深さ36cmを測る円形のピットがある。南西の床からは編物石が10個まとまって出土している。重さは300～475g、7が760gを測る。

掲載遺物には土師器杯(2)、小型丸底(3)、鉢(1)、小型の長胴甕(4)、土製円版(5)、磨製品の未製品(6)、編物石(7～16)がある。2の土師器杯は口縁部が浅い底から曖昧な内外の稜を持って外傾する。内面はミガキ黒色処理である。鉢は口縁部横ナデ、体部ナデ調整される。小型丸底は短い口縁にやや扁平な球形の体部で外面はミガキ、内面は底部付近がミガキ調整される。長胴甕は最大径が胴部にある。これらより、古墳時代後期の土器群であろう。

第42表 H 61号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 鉢	(15.0) — <8.5>	内外 胴部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→胴部ナデ	口縁部1/5残存 10Y R 3/1(黒褐)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅳ区
2	土師器 杯	— 6.2 <2.2>	内外 ミガキ→黒色処理 ナデ	底部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・小石含む。	Ⅱ区
3	土師器 小型丸底	5.2 4.7 6.6	内 口縁部横ナデ・胴～底部ナデ(底部一部 ミガキ) 外 ミガキ	ほぼ完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm大の白色粒子・黒色粒 子を多く含む。	Ⅱ区
4	土師器 甕	14.0 — <15.0>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 胴部縦位ヘラナデ→口縁部横ナデ	口縁部・胴部ほぼ完形 7.5Y R 8/4(浅黄橙)・2.5Y R 7/6(橙)	2mm以下の赤色粒子含む。	P3
5	土師器 土製円版	8.8 — 0.8	内外 ミガキ ヘラケズリ	7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。 杯の二次利用	Ⅳ区

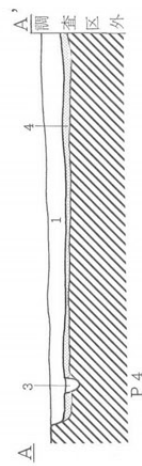
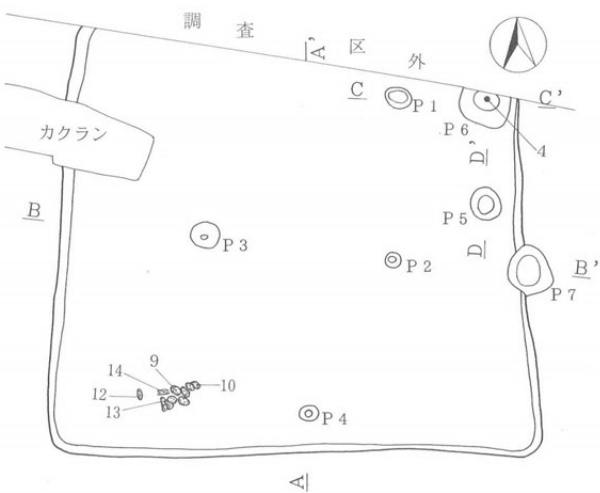
45) H 62号住居址 (第70図、第43表、図版二十八・五十九)

4け3グリットにあり、南北342cm、東西388cm、壁残高3cmを測る東西に長い長方形を呈す。床面でプラン確認しているの、壁のないところもある。カマド等の火処は検出されていない。主軸方位はN-7°-Eを指す。柱穴は中央にP1があり、短径で32cm、深さ60cmを測る。幅20cm、深さ6cmの間仕切り溝が西壁から中央のピットまである。他遺構は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1～3)、甕(4)がある。土師器杯は1が小型で、器台か高杯かもしれない。内外面ミガキ調整される。2・3は内面ミガキ黒色処理され、3は浅い丸底から、口縁が大きく外反気味に伸びている。4は外面にハケ目を残している。古墳時代後期の土器群であろう。

第43表 H 62号住居址出土遺物一覧表(1)

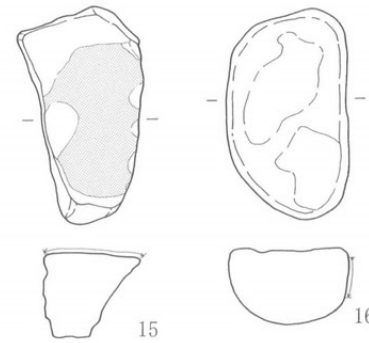
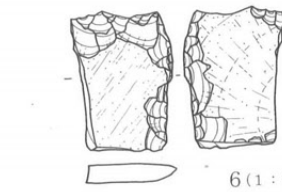
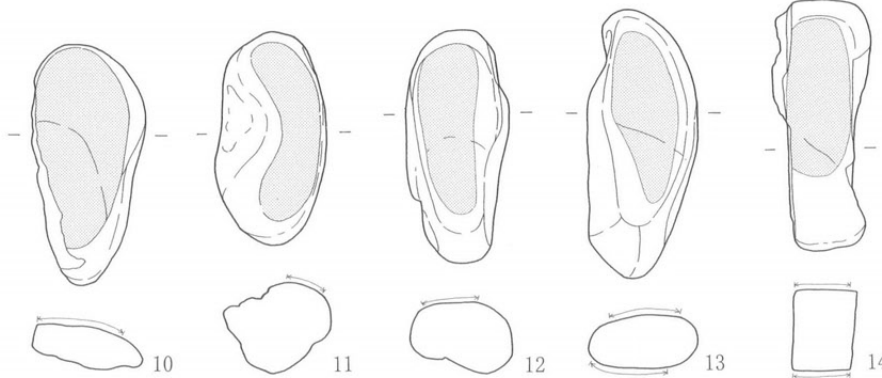
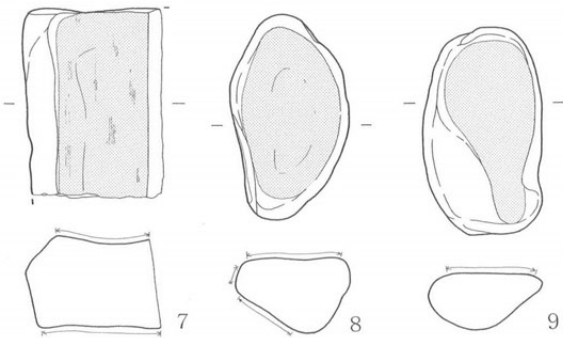
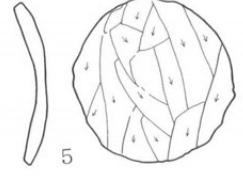
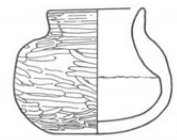
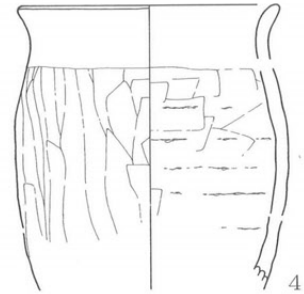
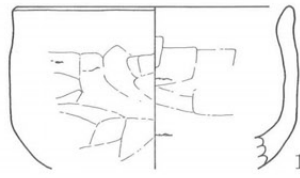
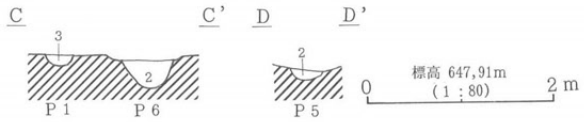
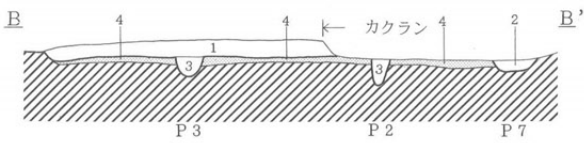
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(9.6) (8.2) <2.1>	内外 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ハケナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R 8/4(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	
2	土師器 杯	(14.0) (11.2) <3.2>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R 5/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子、 1mmの赤色粒子含む。	



H 61 号住居址 (西より)

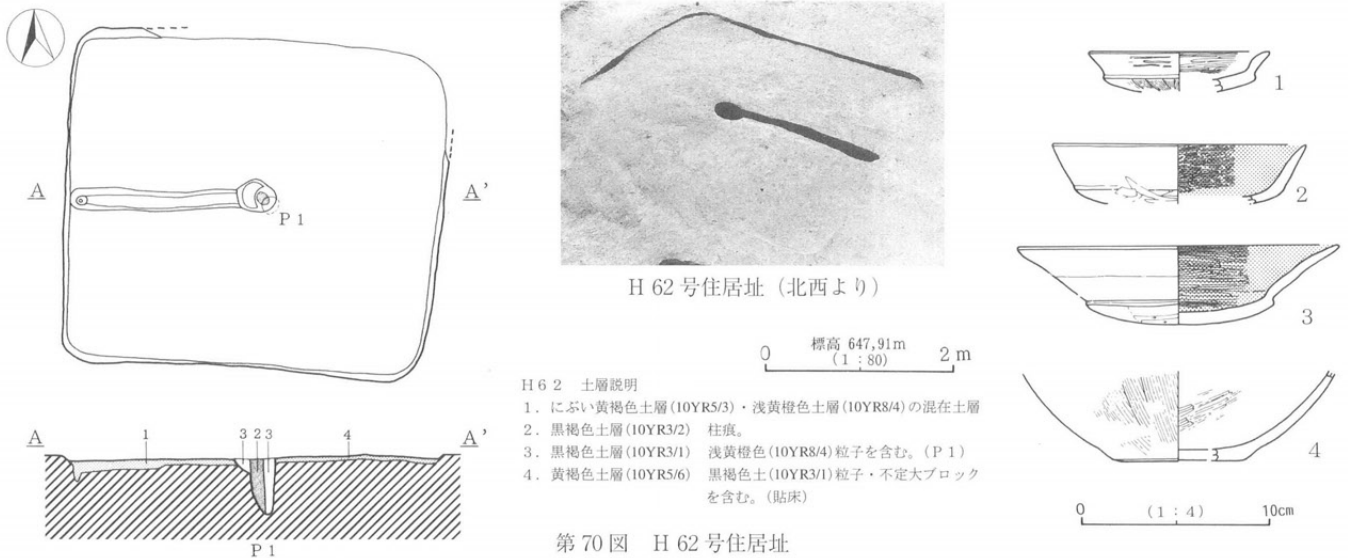
H 61 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) にぶい黄橙色 (10YR6/4) ・ にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質砂粒を含む。φ 1 cm のパミスを含む。
2. 灰褐色土層 (10YR5/2) にぶい黄橙色土 (10YR6/4) 粒子を含む。
3. 褐灰色土層 (10YR4/1) ・ にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) の混在土層
4. 黄褐色土層 (10YR5/6) 2次堆積。黒褐色土 (10YR3/1) 粒子、不定大ブロックを含む。(貼床)



0 (1:4) 10cm

第 69 図 H 61 号住居址



第43表 H 62号住居址出土遺物一覧表(2)

3	土師器 杯	17.1 5.0 4.2	内外 ミガキ→黒色処理 体部底部ナデ・口縁部横ナデ・底部ヘラ ケズリ→わずかにミガキ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	5あ4G
4	土師器 甕	(7.2) <4.7>	内外 ミガキ ハケナデ→底部ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R7/2(明褐灰)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	

2. 弥生時代

46) H 17号住居址 (第71図、第44表、図版二十九・五十九)

3か8グリットにあり、北西の半分は調査区域外である。南北618cm、調査域で東西440cmを測り、隅丸長方形を呈すものと推測される。壁残高12cmである。長軸方位はN-26°-Wを指す。主柱穴はP1の南西のみ検出され、他は区域外である。堀方では少し南にずれて旧ピットのP6が見つかる。火処は検出されていない。東壁沿いのP2~P5、P8は浅いピットである。他遺構の掘立柱建物址が重複していた可能性もある。

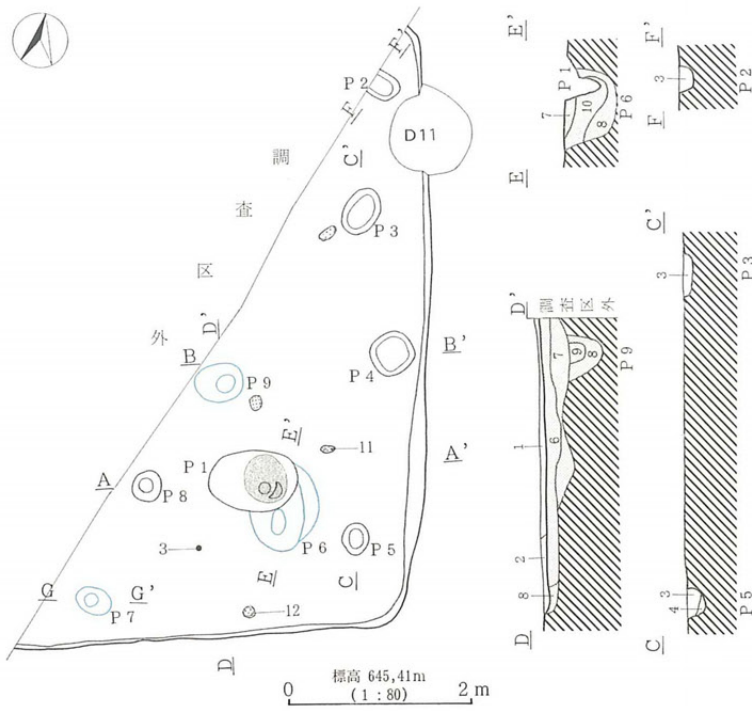
掲載遺物は弥生時代の甕(1・4・6~8)・壺(2・3・5・9)、安山岩製スリ石(10~12)、軽石製浮子(13)がある。

甕は受口状を呈し、端部と口縁上部外面に縄文を、胴部には縦に櫛描斜走文を施している。2は上部を欠損して、全器形がわからない。胴部内外面ミガキ赤色塗彩される。

これらより、弥生の中期後半の土器群であろう。

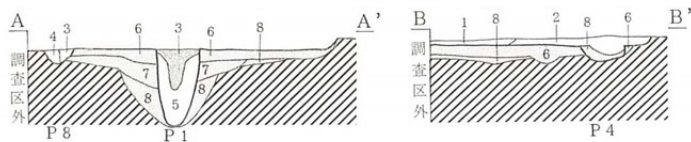
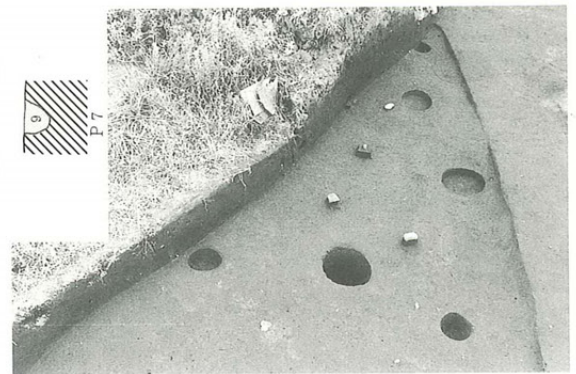
第44表 H 17号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(24.0) - <11.7>	内外 文 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ・ハケナデ 口縁部横ナデ→胴部ハケナデ 口唇部縄文 胴部5本1組とする櫛描斜 走文	口縁部1/6残存 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。	検出
2	弥生土器 鉢	(8.2) - <9.5>	内外 横位ミガキ→赤色塗彩 斜位ミガキ→赤色塗彩	底部1/4残存 濃い赤色塗彩	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を少量含む。	検出
3	弥生土器 壺	(10.0) - <4.1>	内外 胴部ハケナデ→底部ナデ 縦位ミガキ	底部約1/4残存 7.5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	

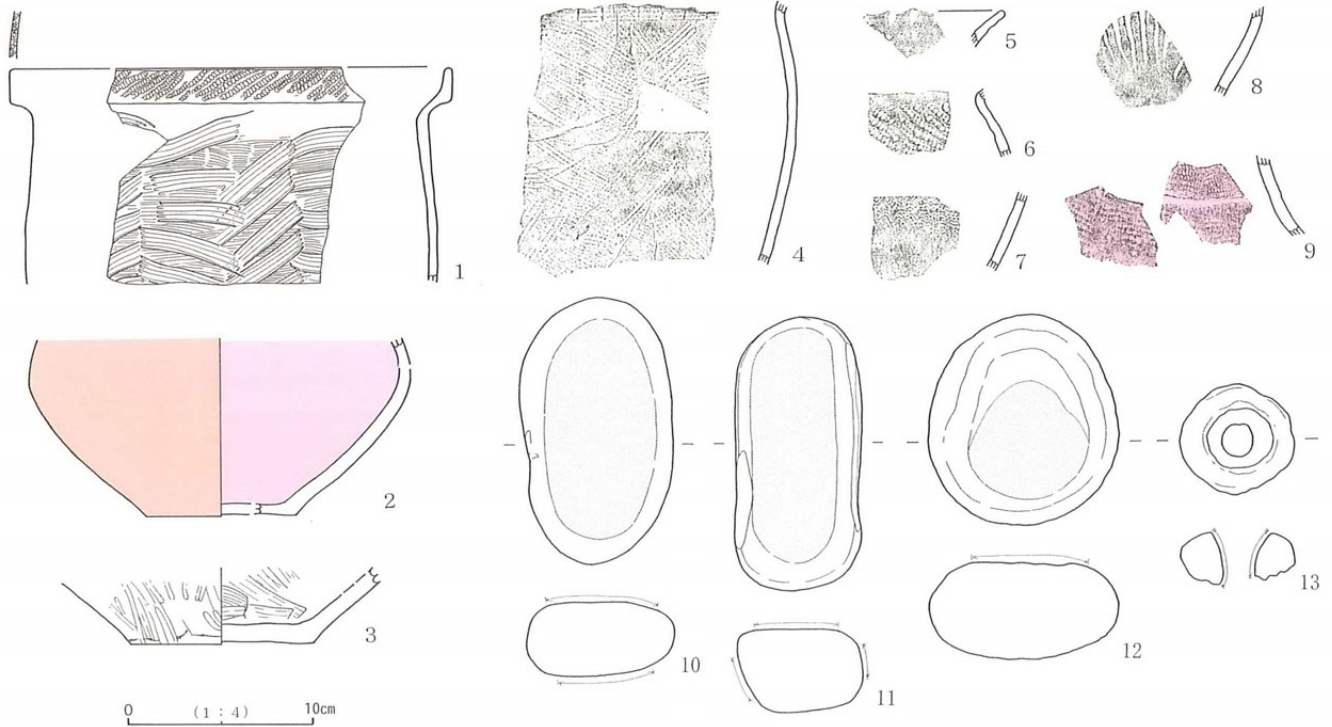


H 17 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) シルト質土を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3)
暗褐色砂 (10YR3/4) を含む。焼土粒子を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
暗褐色砂 (10YR3/4) を多く含む。(柱痕)
4. 暗褐色土層 (10YR3/4)
地山の砂主体。(ピット堀方埋土)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3)
にふい黄褐色 (10YR5/3) シルト質土ブロックを含む。
(ピット堀方埋土)
6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂質土。(貼床)
7. 黒褐色土層 (10YR3/2)
にふい黄褐色 (10YR4/3) シルト質土ブロックを含む。
(P 1 堀方埋土)
8. 暗褐色土層 (10YR3/3)
暗褐色 (10YR3/3) 砂質土主体。(床下ピット堀方埋土)
9. 暗褐色土層 (10YR3/3)
暗褐色 (10YR3/3) 砂質土主体。(床下ピット柱痕)
10. 暗褐色土層 (10YR3/4)
暗褐色 (10YR3/3) ブロックを含む。(P 6 埋土)



H 17 号住居址 (南より)



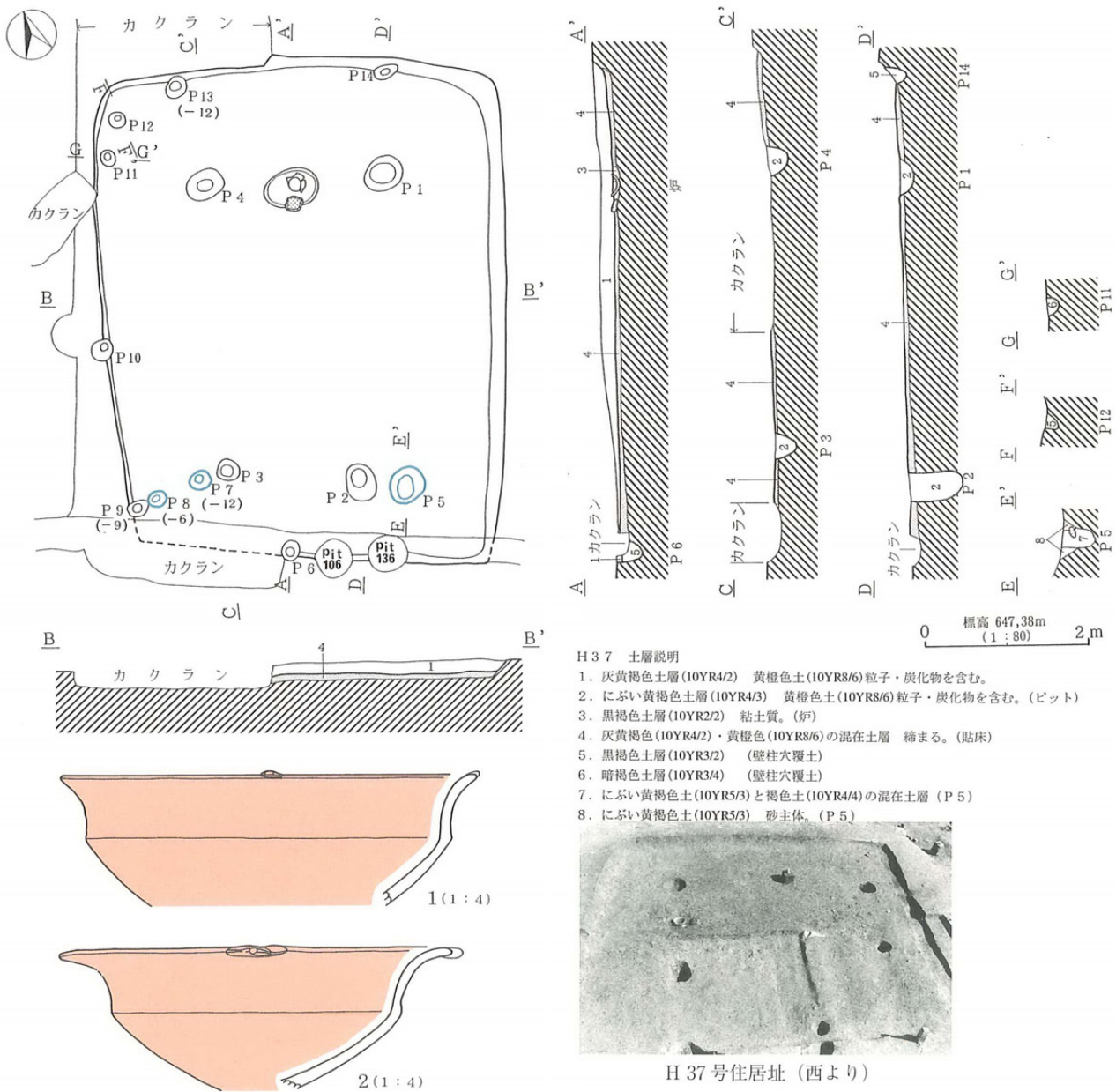
第 71 図 H 17 号住居址

47) H 37 号住居址 (第72図、第45表、図版二十九・五十九)

2 け10グリットにあり、西側遺構上面に帯状の攪乱が南北に入り、床面を壊しているが堀方でプランは確認できた。南北576cm、東西460cm、壁残高17cm の隅丸長方形を呈す。長軸方位N-15° - Eを指す。支柱穴はP 1 ~ P 4 の4本で北側の柱穴の間に炉がある。炉は高杯の杯部を置いて炉底とし南に長径20cm の川原石を置いて炉縁石としている。壁際には壁柱穴がある。周溝はみつからなかった。

掲載遺物は赤色塗彩された高杯杯部 (1・2) である。2は炉底として使用されていた。両者とも杯中位で外縁を持って外反外傾するもので端部には突起が付く。この他の土器破片は少なく、赤色塗彩の突起の付く杯、斜条痕の甕、無彩の頸部に櫛描横線文を施す壺片などがあるのみである。

高杯の器形などから弥生時代後期の土器群であろう。



第72図 H 37 号住居址

第45表 H 37号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	(25.0) — <8.0>	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/4残存 濃い赤色塗彩7.5R4/6(赤)	白色粒子を含む。	H37Ⅱ区堀方 H38床
2	弥生土器 高杯	23.6 — <8.7>	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩	杯部口縁部1/2残存 濃い赤色塗彩7.5R4/6(赤)	白色粒子を含む。 輪花?あり。	炉・床

48) H 44号住居址 (第73・74図、第46表、図版三十・五十九・六十)

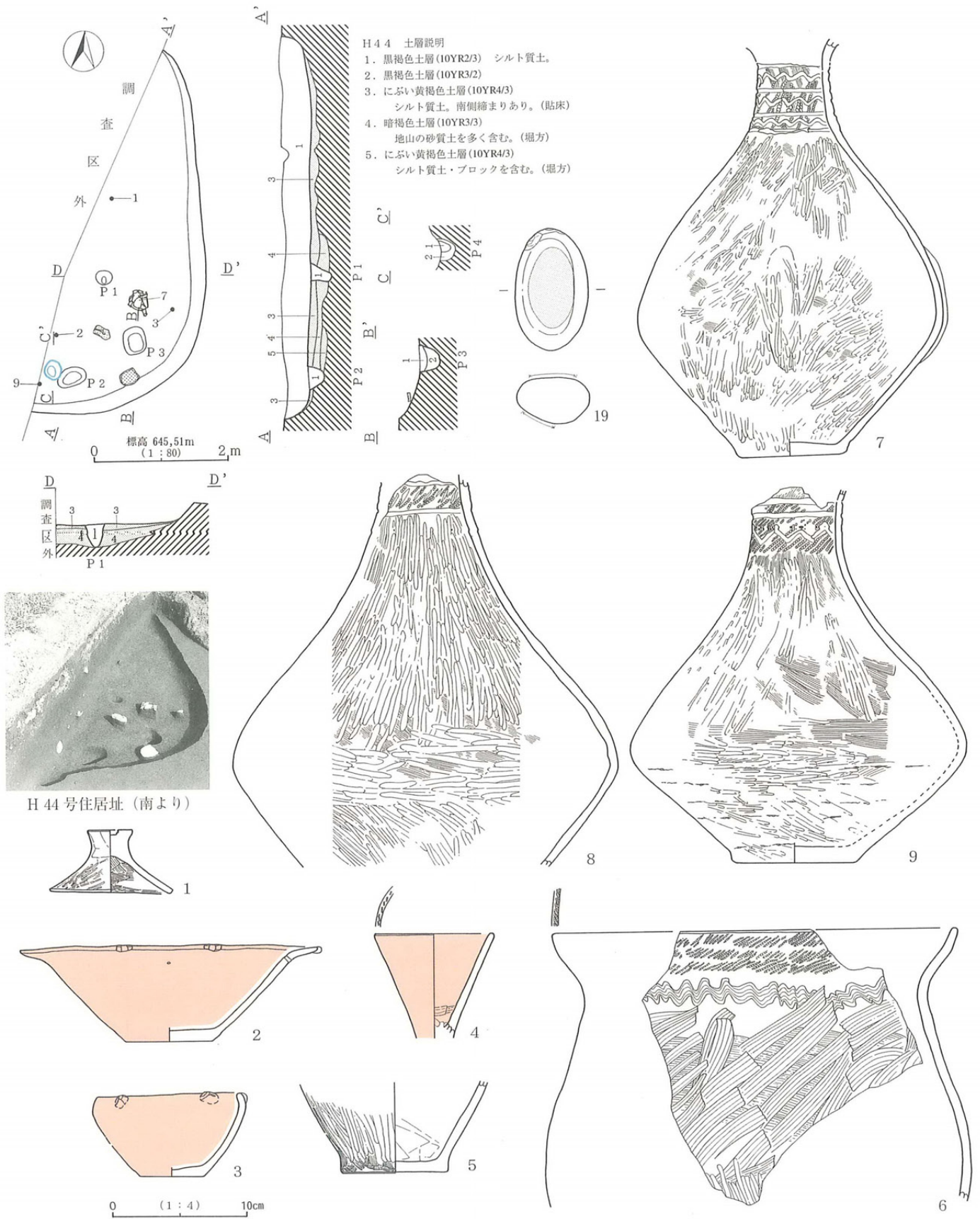
3お3グリットにあり、南東域を調査したのみで、大半は調査区域外である。規模はわからないが楕円形に近い隅丸長方形を呈すようである。壁残高は32cmである。長軸方位はN-6°-Wを指す。南東の主柱穴がP1で、他は区域外で調査できなかった。炉も区域外であろう。

掲載遺物は弥生式土器蓋(1・15)、鉢(2)、杯(3)、高杯(4)、甕(5・6・10~13)、壺(7~9・14・16~18)がある。1の蓋は大きい蓋の縁を欠いて小さくしたのか端部は焼成後欠いて、整えている。2の鉢は内外面赤色塗彩され、口縁部を外方に折り水平に鏝をつけ、さらに端部には突起を付けて装飾性が高められている。6の甕は大型品である。口縁部の受口形態が曖昧で口縁が内湾したような形態になっている。口縁端部外面に縄文、頸部に櫛描波状文、胴部に櫛描斜走文が施文される。壺はいずれも口縁部がなく、全器形はわからない。7がイチジク状で胴上部が膨らむが、8・9はそろばん玉状で胴上部があまり膨らまない。いずれも文様は頸部のみで、縄文を転がし、ヘラ描き横線、横位の波状文を施している。

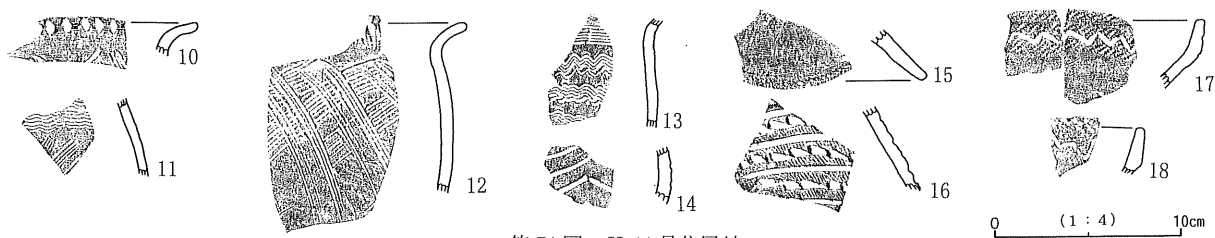
これらより弥生時代中期後半の土器群であろうと思われる。

第46表 H 44号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 蓋	9.2 3.4 4.8	内 ハケナデ→黒色処理 外 つまみナデ・天井部ミガキ・底部ヘラナデ	完形(摩耗) 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 口縁端部打ち欠く(転用)。	
2	弥生土器 鉢	(22.2) (5.4) 7.1	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩 底 ミガキ	底部3/4残存 濃い赤色塗彩10R4/8(赤)	緻密。口唇部に突起あり(推定8ヶ所)。体部に穿孔あり(焼成前か)。	
3	弥生土器 杯	11.5 4.8 6.2	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩	口縁部7/8残存・底部完形 濃い赤色塗彩10R4/6(赤)	緻密。 口唇部に5ヶ所突起あり。	
4	弥生土器 杯	(9.0) — <5.8>	内 底部ナデ・口縁から体部横位ミガキ→赤色塗彩 外 縦位ミガキ→赤色塗彩 文 口唇部縄文	口縁部1/2残存 濃い赤色塗彩、10R4/8(赤)	緻密。 1mm以下の白色粒子を含む。	
5	弥生土器 甕	— 8.1 <6.7>	内 ミガキ(磨滅) 外 ハケナデ→縦位ミガキ	底部完形(内面磨滅) 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	
6	弥生土器 甕	(30.5) — <20.3>	内 ハケナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・胴部斜位ハケナデ・胴下半縦位ミガキ 文 口唇部から口縁部縄文・頸部6本1組とする櫛描波状文・胴部4~6本を1組とする櫛描斜走文(羽状)。	口縁部1/8残存 10Y R8/2(灰白)	緻密。	
7	弥生土器 壺	— 8.3 <30.9>	内 ナデ・ハケナデ・外 ハケナデ→ミガキ 文 頸部縄文を地文とし、4条のヘラ描横走平行線文で区切り、ヘラ描山形文3条を施す。胴部中央(最大径の部分)に貼付が1ヶ所あり(補修用の粘土帯か)。	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。 全体に赤色塗彩を施した痕跡が認められるが、範囲は判別できない。	
8	弥生土器 壺	— — <28.8>	内 ハケナデ・外 ハケナデ→ミガキ 文 縄文を地文とし2条のヘラ描横走平行線文の間にヘラ描斜走文を施す。	頸部~胴部1/2弱残存 10Y R7/3(にぶい黄橙)	緻密。 赤色塗彩あるが、範囲分からず。	
9	弥生土器 壺	— 9.4 <27.4>	内 ナデ・外 ハケナデ→ミガキ 文 頸部縄文を地文とし、2条のヘラ描横走平行線文を施し、その下にヘラ描山形文を施す。	底部完形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。赤色塗彩の痕跡が認められるが、範囲は判別できない。	



第73図 H 44 号住居址



第74図 H44号住居址

49) H45号住居址 (第75・76図、第47表、図版三十・六十)

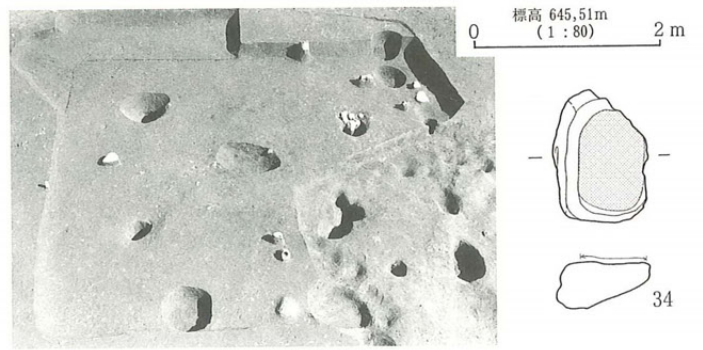
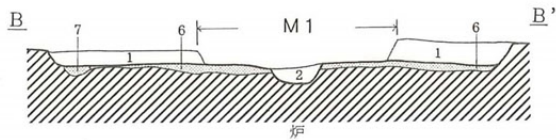
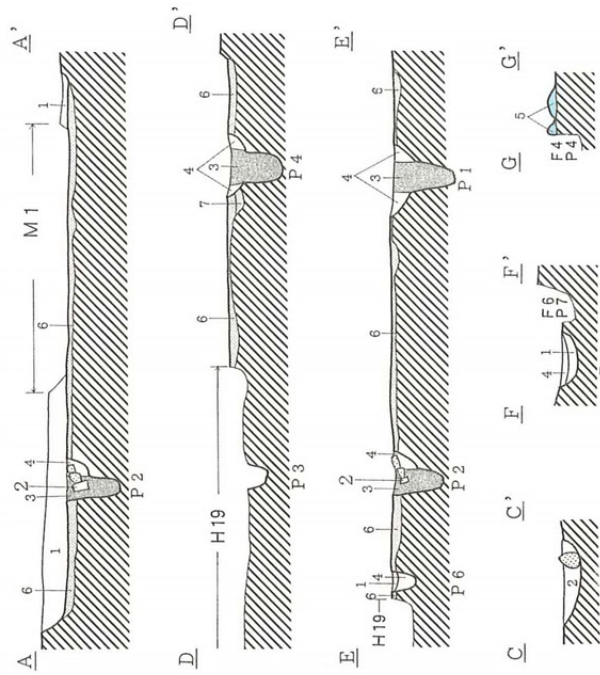
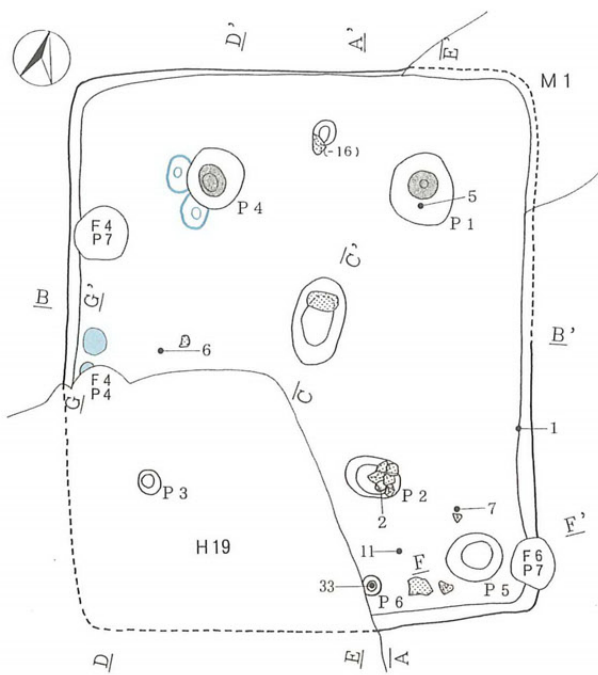
3う6グリットにあり、H19・F4・F6・M1に切られる。南北562cm、東西471cm、壁残高24cmの長方形を呈す。長軸方位はN-14°-Wを指す。P1~P4の4本が支柱穴で短径で44~76cmの円形または楕円形のピットの中に径24~32cm、深さ40~68cmの柱痕がみられた。中央には炉があり、長楕円形で、北に炉縁石を置いている。長径92cm、短径52cm、深さ18cmを測る。南東にP5がある。西端中央には粘土塊がみられた。

掲載遺物は弥生式土器の高杯(11)、鉢(12)、甕(1・2・4・5・13・14・16・18・20・25・26)、台付甕(3・10)、壺(6~9・15・17・19・21~24・17~31)、チャート製のスリ石(34)、黒耀石剥片(32)、片岩製磨製石族(33)がある。1の甕は口縁が短く強く外反し、口縁端部に縄文、胴部に櫛描垂下文と波状文を施文している。3は台付き甕であるが、1と同様の文様構成となっており、内面はミガキで黒色処理されている。5は大型品で口縁部が受口状で口唇部・口縁部外面に縄文が転がり、胴部に文様がない。壺は口縁部形態が単純にただ外反するものと短頸と受口状の3形態がある。6・8は頸部にヘラ描文が施文される。

これらより、弥生時代中期後半の土器群であろう。

第47表 H45号住居址出土遺物一覧表(1)

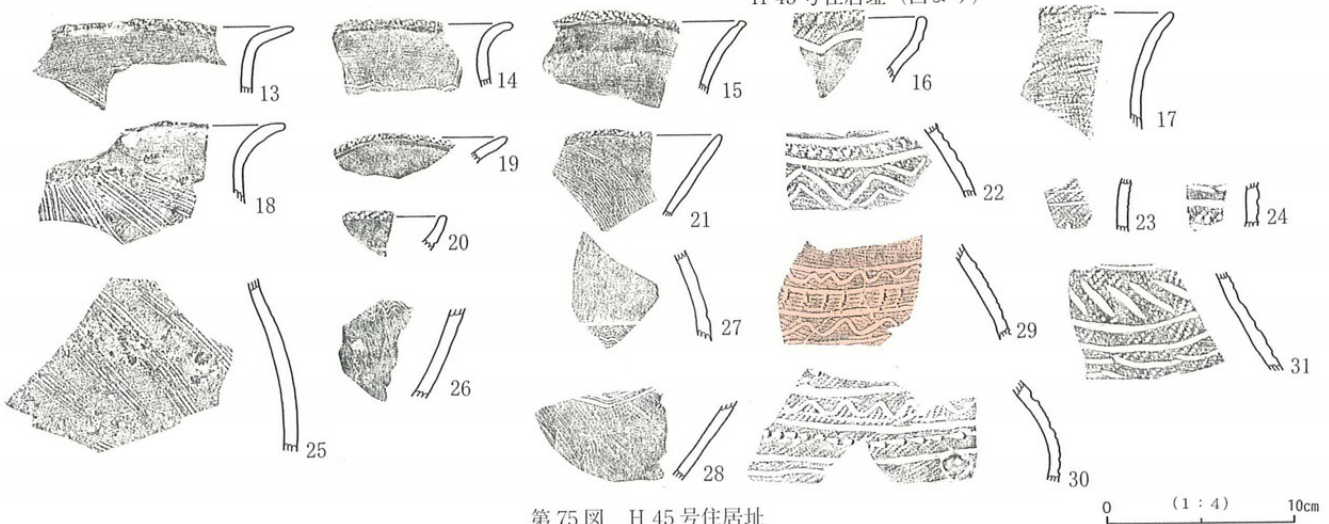
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(15.3) 7.6 19.5	内外文 口縁部横ナデ・胴部横位ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部横位ハケナデ 口唇部縄文 胴部上半分3本1組とする 櫛描波状文を施し、8本1組とする櫛描 垂下文4本によって、胴部を縦に4分画す る。	底部完形 7.5Y R 5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	
2	弥生土器 甕	— 7.4 <16.0>	内外文 縦位ミガキ ハケナデ→胴下半に縦位ミガキ 5本1組とする櫛描斜走文を施す。	底部完形 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を多量、 1mm以下の黒色粒子を少量 含む。	
3	弥生土器 台付甕	(11.7) (6.1) 12.3	内外文 横位ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→縦位ミガ キ 口唇部縄文 胴部4~6本を1組とする櫛 描垂下文を6本施し6分割する。それぞ れの区画に7本1組とする櫛描波状文を3 条ずつ施し、3~4条のヘラ描波状文に より3分割する。櫛描垂下文上にそれぞ れ1つつ貼付文を施す。	口縁部2/3、底部3/4残存 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	I区・IV区 M1 H19検出
4	弥生土器 甕	(16.2) — <8.7>	内外文 横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 胴部に7~8本1組とする櫛描斜走文	口縁部1/4残存 7.5Y R 6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	II区 F6・P3
5	弥生土器 甕	(31.6) 11.0 35.2	内外文 横位ハケナデ→横位ミガキ 斜位ハケナデ→斜位横位ミガキ 口唇部から口縁部縄文	底部完形、口縁部2/3残存 7.5Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	P1
6	弥生土器 壺	11.8 — <11.9>	内外文 頸部ヘラナデとナデ・口縁部横ナデ 頸部縦位ハケナデ・口縁部横ナデ 口唇部縄文 頸部3条のヘラ描横走平行 線文→2条のヘラ描連続山形文	口縁部2/3残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	III区
7	弥生土器 壺	8.0 — <15.1>	内外 口縁部横ナデ・頸~胴部ハケナデ 口縁部横ナデ・頸~胴部ナデ→縦位ミガ キ	口縁部完形 10Y R 8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	II区
8	弥生土器 壺	(17.0) — <10.2>	内外文 横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ 口唇部から口縁部縄文 頸部縄文を地 文とし3条のヘラ描横走平行線文を施す。	口縁部3/16残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 口縁部縄文内にわずかに赤 色塗彩残る。	II区・III区 M1
9	弥生土器 壺	— (9.6) <9.4>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ	底部1/8残存 10Y R 7/2(にぶい黄橙)	緻密。	IV区



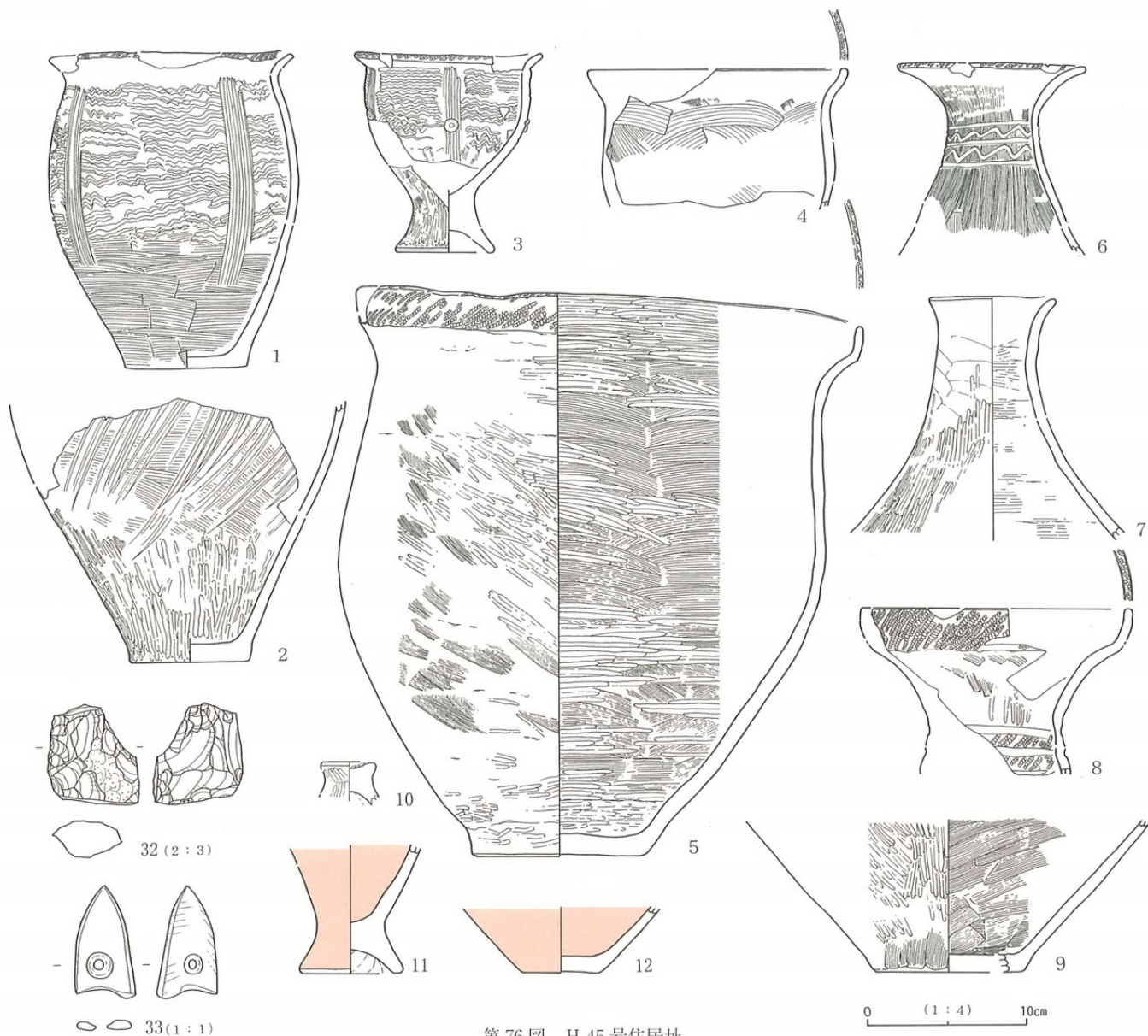
H45 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂質。
2. 黒褐色土層(7.5YR3/1) 粘土・炭化物粒子を含む。(炉)
3. 暗褐色土層(10YR3/4) 砂質。(柱痕)
4. 褐色土層(10YR4/4) 砂質土。(ビット堀方)
5. 灰白色土層(5Y8/2) 粘土。
6. 黒褐色土層(10YR3/2) シルト質土ブロック混じる。(貼床)
7. 暗褐色土層(10YR3/3) シルト質土。(堀方)

H45号住居址(西より)



第75図 H45号住居址



第76図 H45号住居址

第47表 H45号住居址出土遺物一覧表(2)

10	弥生土器 台付甕	3.6 <2.6>	内外 胴部ミガキ・脚部ナデ ミガキ	底部ほぼ完形 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 転用で蓋として利用か。	Ⅱ区
11	弥生土器 高杯	6.4 <7.9>	内外 杯部横位ミガキ→赤色塗彩・脚部ナデ 縦位ミガキ→赤色塗彩	底部完形 10Y R8/2(灰白) 濃い赤色塗彩10R4/8(赤)	1mm以下の黑色粒子を含む。	
12	弥生土器 鉢	(4.8) <4.1>	内外 横位ミガキ→赤色塗彩 横位ミガキ→赤色塗彩・底部ナデ	底部1/2残存 10Y R8/3(浅黄橙) 濃い赤色塗彩10R4/8(赤)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区・M1

50) H 46 号住居址 (第77・78・79図、第48表、図版三十一・六十一・六十二)

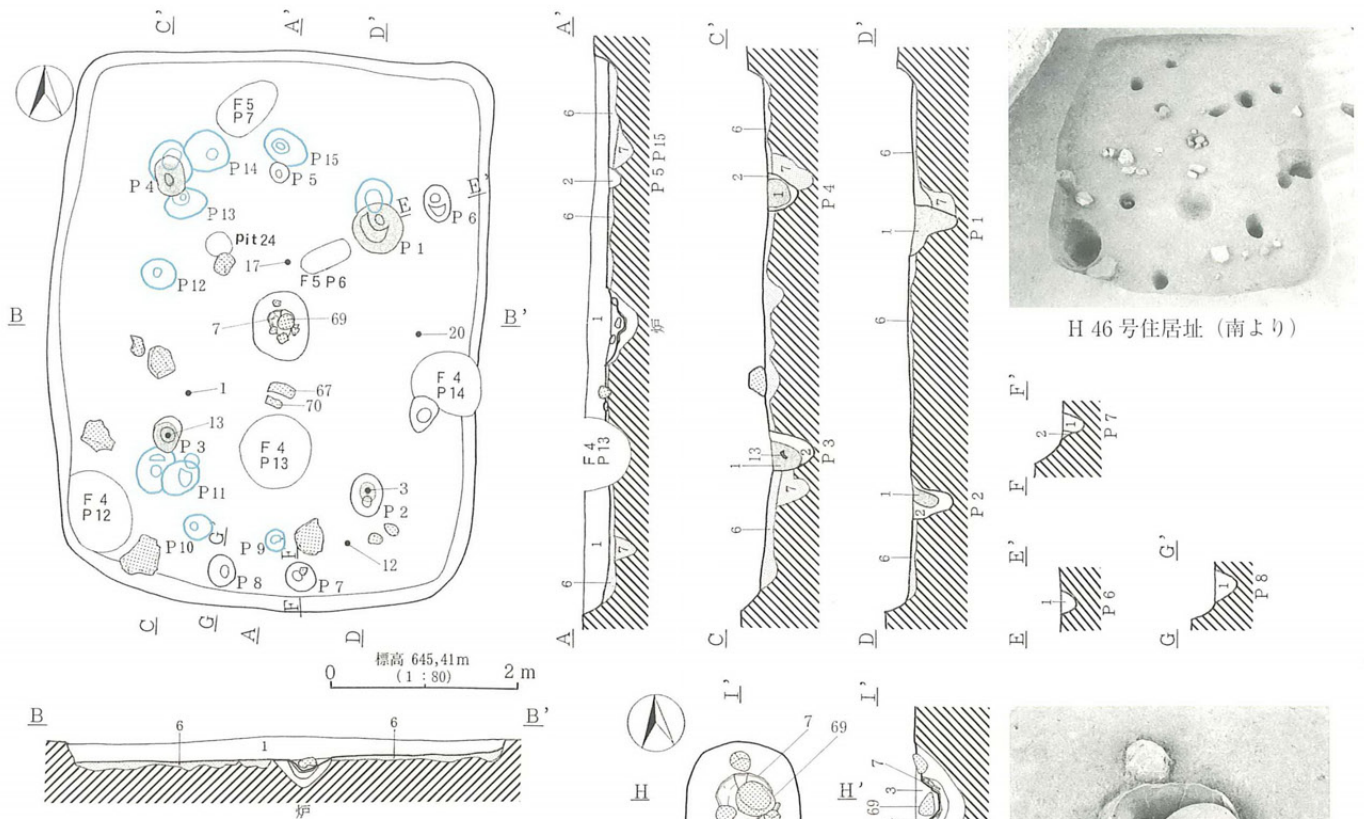
3 お 5 グリットにあり、F 4・5 に切られる。南北557cm、東西436cm、壁残高27cm を測り、隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-4°-Eを指す。支柱穴はP 1~P 4 の4本で径32~54cm、深さ48~52cm を測る。旧支柱穴が堀方から検出され、建て替えがなされている。北のP 15は棟持ち柱、南壁下には2個の出入り口施設のピットがある。炉は中央にあり、楕円形を呈し、長径74cm、短径60cm、深さ28cm の堀込みに壺の胴下部を置いて火床としていた。炉の壺の縁に10cm 大の川原石4個を置き炉縁石としている。中央の20cm 大の川原石(安山岩)は第77図69に掲載した凹石である。使用していたものが入り込んだ様である。

掲載遺物には弥生式土器の鉢(1・2・27・51)、高杯(3・4)、蓋(5)、壺(6~15・26・28~35・42・46~48・56)、台付甕(17・19・22・23)、甕(16・18・20・21・24・25・36~41・43~45・49・50・52~55・57~63)がある。石製品では、片岩製磨製石鏃未製品の一部磨かれている物(64)、黒色ガラス質安山岩製の一部磨耗痕のある剥片石器(66)、黒色ガラス質安山岩の剥離により整えられた未製品の剥片(66)、安山岩製のスリ石(67・70)、安山岩製の敲打石(68)がある。弥生式土器の鉢・高杯はミガキ赤色塗彩される。6の壺は端部は面取り縄文が施文されるが素縁で、口縁外面・頸部に縄文、頸部のヘラ描き沈線とあっさりした文様構成である。7は炉底に使用された土器で、胴下部のみであるが胴部中位に縄文を転がし、ヘラで連続文を施している。14は素縁で端部は丸い。文様は三角の鋸歯文を意識した文様が施文される。台付甕は「コ」字重ね文である。甕は短く外反する素口縁と受け口とがある。頸部には櫛描廉状文が施され、櫛描の波状文、羽状文が施される。

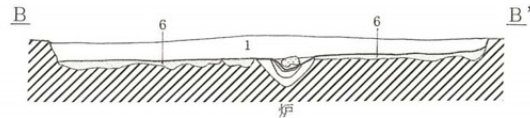
これらは弥生時代中期後半の土器であろう

第48表 H 46 号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 鉢	15.5 5.3 7.5	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩・底部ミガキ	口縁部3/4残存、底部完形。 濃い赤色塗彩5Y R5/0(明赤褐)	1mm以下の白色粒子を含む。 口縁部付近に穿孔あり。 突起付く。塗彩剥落。	H46Ⅲ区 H45Ⅱ区
2	弥生土器 鉢	— 4.8 <2.1>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩・底部ナデ	底部完形(内面剥落) 断面10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅱ区
3	弥生土器 高杯	— <3.7>	内外 杯部赤色塗彩・脚部ナデ及びハケナデ ミガキ→赤色塗彩	脚部破片 断面10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子を含む。 脚柱部内面にもみ痕残る。	P2
4	弥生土器 高杯	— <2.9>	内外 杯部ミガキ・脚部ナデ ミガキ→赤色塗彩	脚部のみ残存 断面10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 含む。	Ⅲ区 転用
5	弥生土器 蓋	8.7 (3.2) 4.2	内外 文 ミガキ ミガキ 口唇部に縄文	口縁部1/2残存 7.5Y R5/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子含む。	Ⅳ区
6	弥生土器 壺	14.1 — <26.5>	内外 文 ハケナデ→口縁部横位ミガキ 胴部縦位ミガキ・口縁部横ナデ 口唇部縄文 口縁から頸部縄文→頸部 に1条のヘラ描横走平行線文	口縁部完形 10Y R8/4(浅黄橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 を含む。赤色塗彩。塗彩範囲 ははっきり分らないが、外 面全面か? 長頸。	Ⅰ区
7	弥生土器 壺	— 11.2 <16.1>	内外 文 ハケナデ、外 ハケナデ→ミガキ 胴部中央縄文を地文とし、ヘラ描連続三 角文を施す。	底部完形 10Y R7/3(にぶい黄橙)	緻密。	炉
8	弥生土器 壺	— 5.5 <2.7>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を含む。	Ⅳ区
9	弥生土器 壺	— (6.7) <3.6>	内外 ナデ(ハケ状工具使用) ナデ→ハケナデ	底部1/2残存 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。1mm以下の白色粒子・ 黒色粒子を含む。	Ⅳ区
10	弥生土器 壺	— 10.5 <2.1>	内外 ナデ ナデ→縦位ミガキ	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。 転用。	Ⅲ区
11	弥生土器 壺	— 5.6 <2.4>	内外 底 ハケナデ→ミガキ ハケナデ ナデ	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子を含む。 転用。	Ⅳ区
12	弥生土器 壺?	10.7 — <8.4>	内外 横ナデ→ハケナデ→ミガキ(一部分) 横ナデ→ハケナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む	
13	弥生土器 壺	— — <12.4>	内外 文 ハケナデ→口縁部ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ 縄文を地文とし、2条のヘラ描横走平行 線文で区切る	頸部残存 5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を多く含む。きめ荒い。	

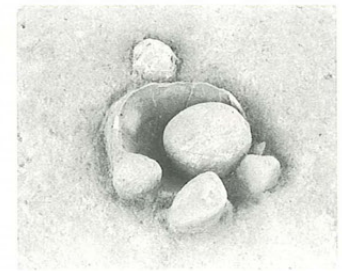
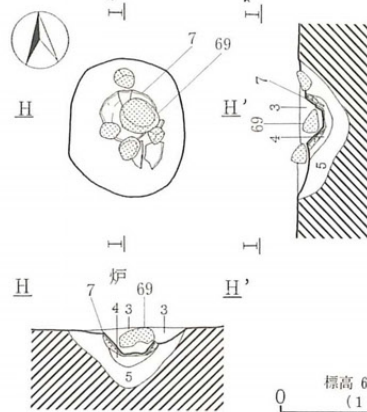


H 46 号住居址 (南より)

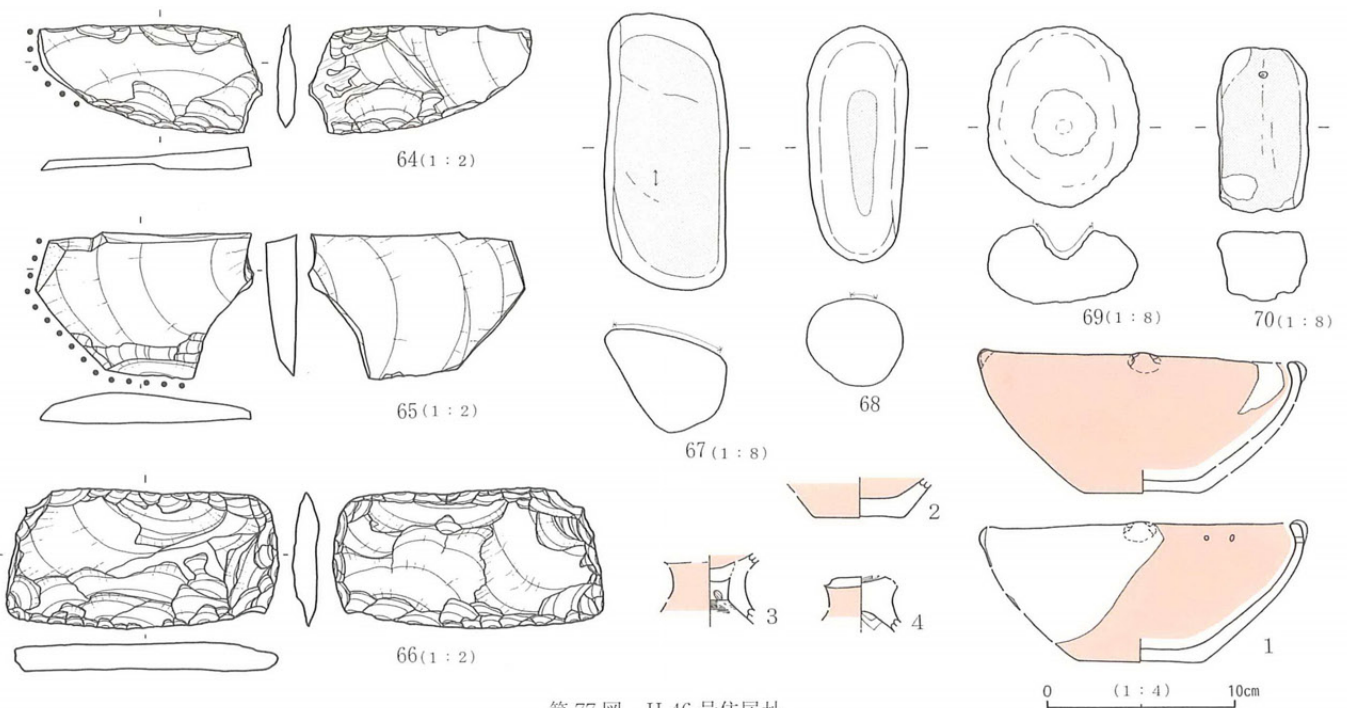


H 4 6 土層説明

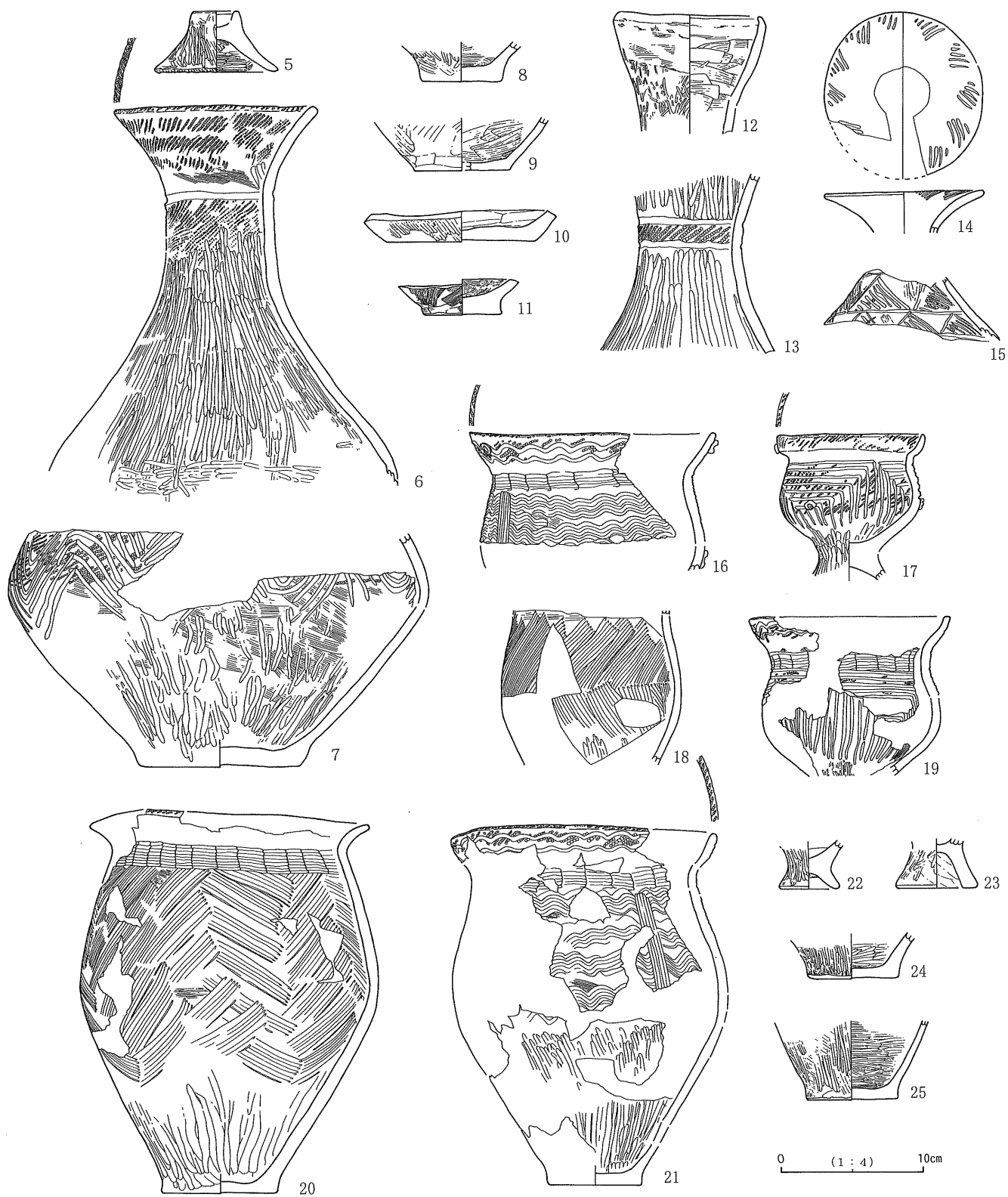
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 暗褐色土 (10YR3/3) を多く含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) にぶい黄褐色土 (10YR4/3) を多く含む。(ピット堀方)
3. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土粒子を含む。(炉)
4. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 炉の上部周辺は焼けて、赤褐色 (5YR4/8) を呈す。(炉堀方)
5. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂質。(炉堀方)
6. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 締まりあり。シルト質土粒子・地山の砂を多く含む。(貼床)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3) (床下ピット)



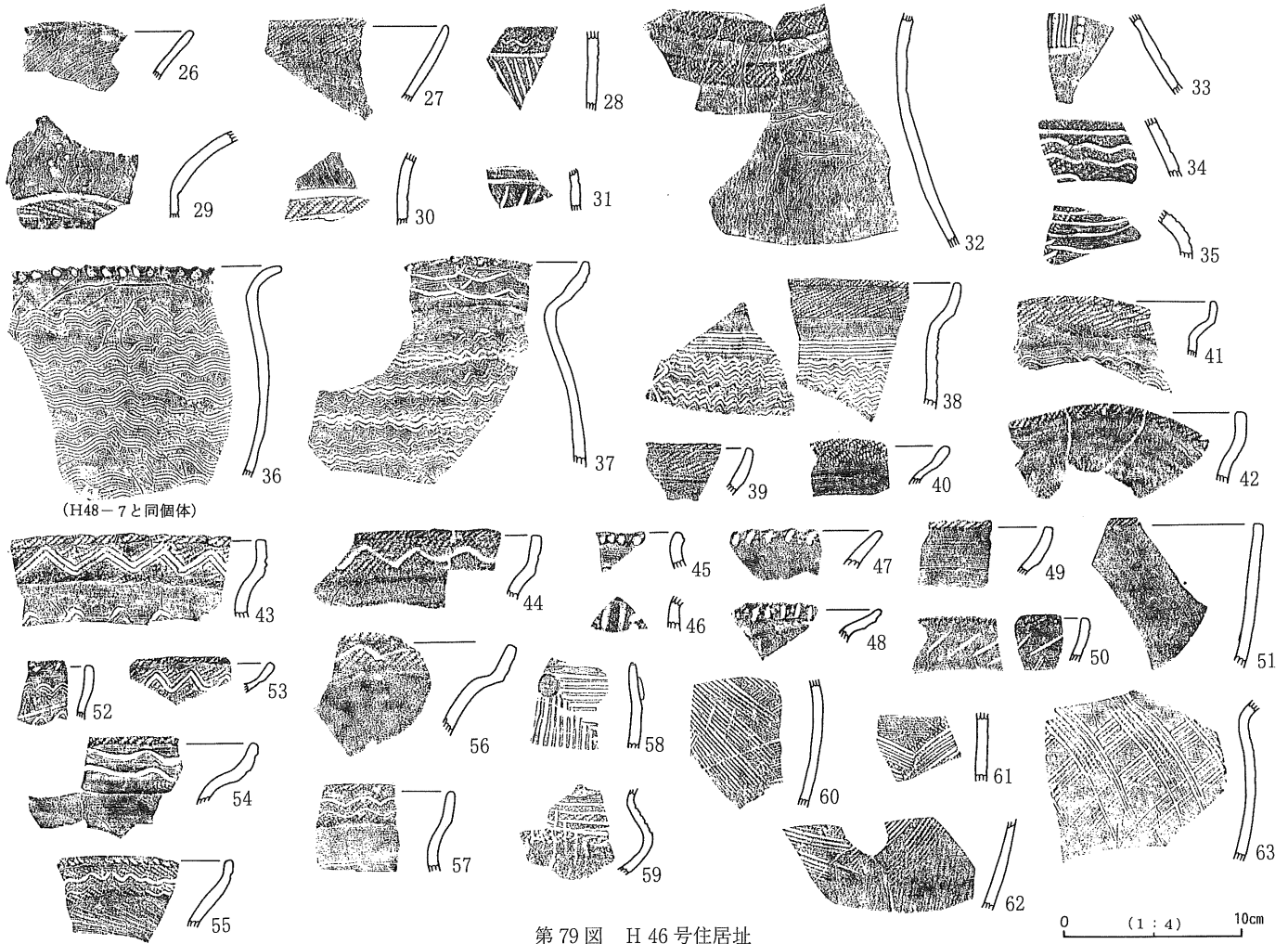
炉 (南より)



第 77 図 H 46 号住居址



第 78 図 H 46 号住居址



第79図 H46号住居址

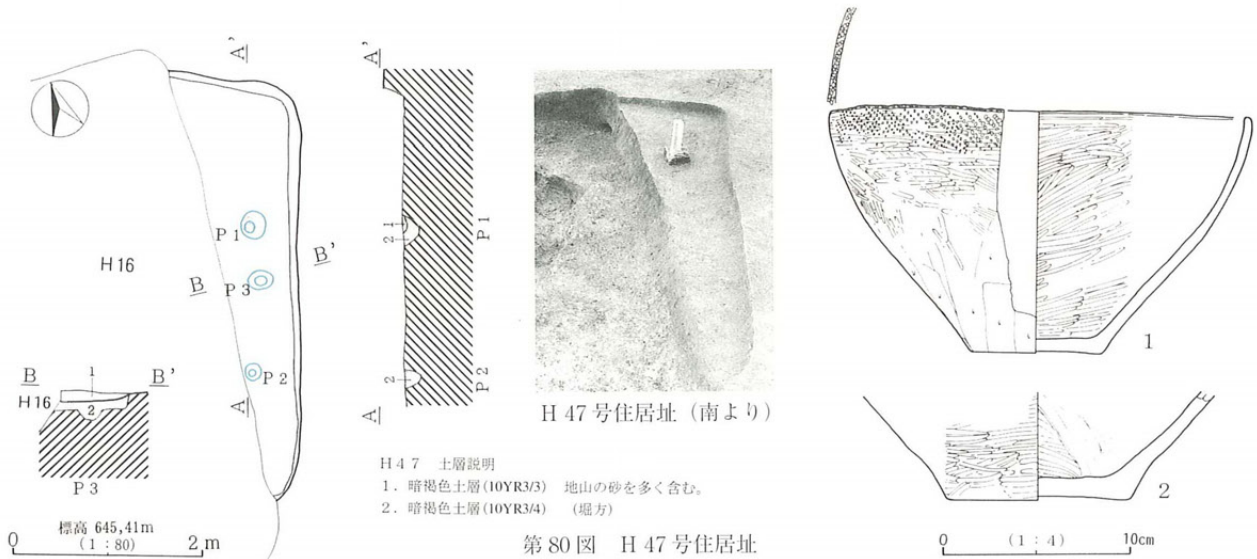
第48表 H46号住居址出土遺物一覽表(2)

14	弥生土器 壺	11.3 — <2.9>	内外文 横ナデ 横ナデ 口縁部内面にヘラ描連続三角文を施す。	口縁部3/4残存 10Y R7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を多量、 黑色粒子を少量含む。 15と同個体。	Ⅲ区
15	弥生土器 壺	— — —	内文 ハケナデ、外 ミガキ 縄文を地文としヘラ描横走平行線文で 区画した文様帯にヘラ描連続三角文を 施し、三角形の中をヘラ描横走平行線文 を施す。	胴上部の一部残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	緻密。 14と同個体。	Ⅲ区
16	弥生土器 甕	(17.2) — <9.5>	内外文 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文 口縁部縄文を地文とし2条 のヘラ描波状文を施す。貼付文あり。 頸部6本1組とする櫛描簾状文を施す。 胴部6本1組とする櫛描波状文を施した 後、6本1組とする櫛描垂下文を施す。	口縁部1/4残存 7.5Y R5/3(にぶい褐)	きめ細かい。	Ⅲ区
17	弥生土器 台付甕	10.5 — <10.1>	内文 ミガキ、外 口縁部横ナデ→胴部縦位ミ ガキ 口唇部縄文 胴部縄文を地文とし、 3分割にヘラ描「コ」の字文。胴部に 貼付文3ヶ所・口縁部に貼付文1ヶ所(2ヶ 所剥落)	口縁部7/8残存 5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	
18	弥生土器 甕	— — <10.6>	内外文 ハケナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴下半部ミガキ 6~8本1組とする櫛描斜状文	胴部破片 7.5Y R7/3(にぶい橙)	精選されている。	Ⅱ区・Ⅲ区
19	弥生土器 台付甕	(14.2) — <11.0>	内文 胴部ナデ・口縁部横ナデ、外 ハケナデ 口唇部縄文 口縁部縄文を地文として2 条のヘラ描連続波状文 頸部7本1組と する櫛描簾状文を施し、上端を1条のヘ ラ描横走平行線文で区切る。胴部縄文 を地文としヘラ描「コ」の字文を施す。	口縁部1/8残存 10Y R7/4(にぶい黄橙)	きめ細かい。1mm以下の白 色粒子含む。	Ⅰ区Ⅱ区 Ⅳ区

20	弥生土器 甕	(19.4) 8.0 <26.7>	内外文 ハケナデ→ミガキ 胴部ハケナデ→ミガキ・口縁部横ナデ 口唇部縄文 頸部8本1組とする櫛描籬 状文 胴部5~8本1組とする櫛描羽状文	口縁部1/4残存・底部完形 7.5Y R 6/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	Ⅱ区Ⅲ区 カマド
21	弥生土器 甕	(18.4) (6.6) 25.0	内文 横位ミガキ・外 口縁部横ナデ・胴部ハ ケナデ→胴下半縦位ミガキ 口唇部縄文・口縁部縄文を地文とし、2 条のヘラ描波状文を施す。頸部6本1組 とする櫛描籬状文 胴部上半6本1組と する櫛描波状文を施した後、6本1組と する櫛描垂下文を施す。	口縁部1/2・底部1/2残存 10Y R 7/2(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
22	弥生土器 台付甕	— 4.2 <3.3>	内外 甕部・台部共ナデ 縦位ミガキ	底部完形 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒を含む。 緻密。	Ⅳ区
23	弥生土器 台付甕	— 5.7 <3.4>	内外 甕部・台部共ナデ ナデ→ミガキ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
24	弥生土器 甕	— 6.5 <3.1>	内外 ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ	底部完形 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	Ⅲ区
25	弥生土器 甕	— (6.4) <5.3>	内外 ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ	底部1/2残存 10Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 外面にスス付着。	Ⅲ区

51) H 47 号住居址 (第80図、第49表、図版三十一・六十)

3え10グリットにあり、大半をH16に切られて壊され、東端が調査できた。南北の残長が424cm、壁残高12cmを測る。長軸方位はN-15°-Eを指す。壁際に3個のピットが検出されたが小ピットである。他にはない。掲載遺物は弥生時代中期の鉢(1)、壺(2)がある。鉢は口唇部と口縁に縄文を施す無彩のものである。2は大型の壺の底部である。土器破片は少ない。これらは、弥生時代中期の土器群であろう。



第49表 H 47 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 鉢	(22.6) (7.0) 12.9	内ミガキ 外 胴下半部ヘラケズリ・胴上 半部ハケナデ→ミガキ 文 口唇・口縁部に縄文を施す。	底部1/2・口縁部1/4残存 10Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	南
2	弥生土器 壺	— 9.8 <5.7>	内外 ハケナデ・ナデ 横位ミガキ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	南

52) H 48 号住居址 (第81・82図、第50表、図版三十二・六十二・六十三)

7い2グリットにあり、H21に切られ、北半分は壊されている。東西464cm、壁残高34cmを測り隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-0°で北を指す。主柱穴はH21の重複部にも残されており、P1~P4である。径30~60cm、床より50cm前後掘込まれている。南端には貯蔵穴であろうか長楕円形の長径92cm、深さ20cmの穴がある。

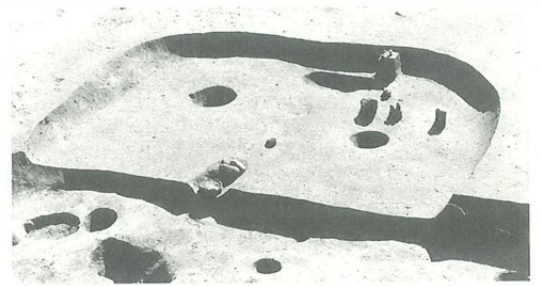
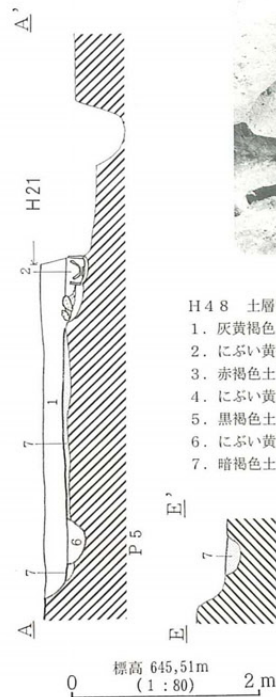
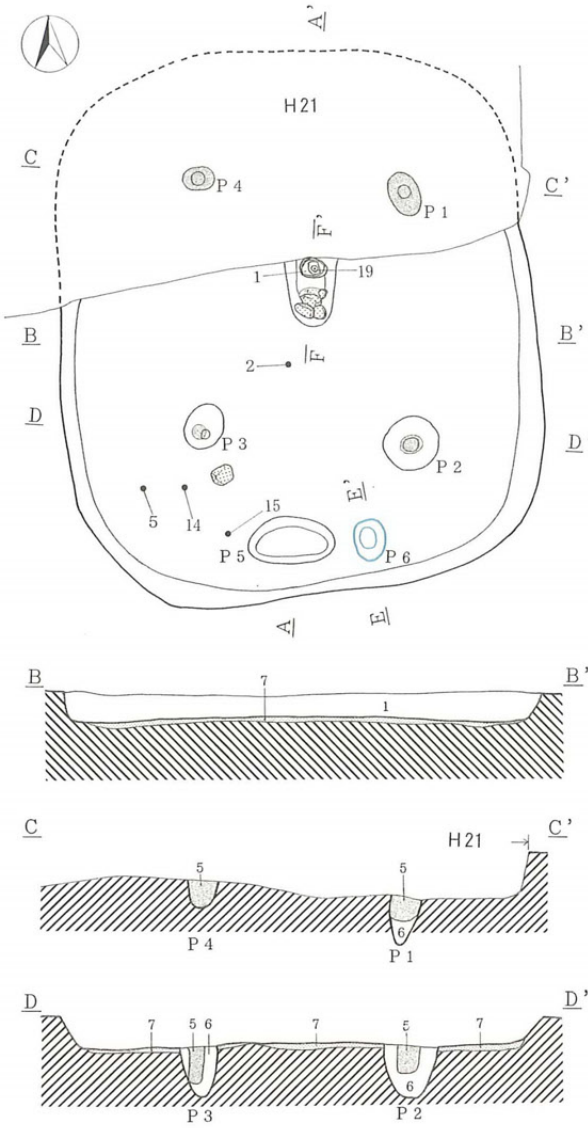
炉は中央にあり、北端をH21に壊されるが長楕円形で、短径55cm、深さ24cmを測る。炉底には甕の胴部を輪切りにして円筒にし、中に甑を置いている。南側に川原石を3個置いて炉縁石としている。

掲載遺物には弥生式土器甕 (I~9・20~29・32~41・47・53)、台付甕 (10・11)、壺 (12~17・31・32・43・46・48~52)、鉢または杯 (15・44)、注口土器 (18)、甑 (19) がある。石製品には黒色ガラス質安山岩で周縁部が剥離され、研磨されてはいるが未製品であろうもの (55~57)、磨製石斧の先端部 (58) がある。

1の甕形土器は炉で使用していた。7は口縁部が強く短く外反し口縁端部に刻み目、胴上部に櫛描波状文が施される。H46の36と接合している。壺はいずれも素縁のもので13は内湾するがほかは外反する。14は端部は面取りをしてあるが縄文は転がしてない。これらより弥生時代中期後半の土器であろう。

第50表 H 48 号住居址出土遺物一覧表 (1)

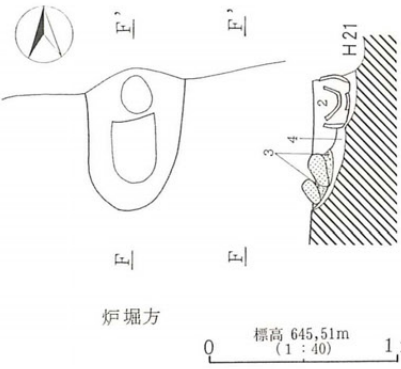
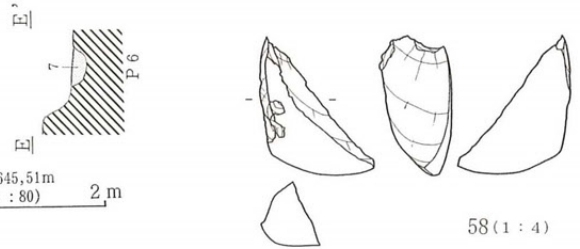
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	— <16.0>	内外 横位ハケナデ→横位ミガキ ハケナデ→下半のみ縦位ミガキ 文 3~6本1組とする櫛描斜状文	胴部のみ残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子を含む。	炉
2	弥生土器 甕	— 6.4 <8.4>	内外 ハケナデ→ミガキ ナデ→胴下半部縦位ミガキ 文 4本1組とする櫛描波状文を施した後、7 本1組とする櫛描垂下文を施し、貼付文 を施す。	底部完形 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	
3	弥生土器 甕	— 6.7 <5.7>	内外 ミガキ ミガキ	底部完形 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	Ⅲ区・Ⅱ区
4	弥生土器 甕	(13.4) — <12.1>	内 ミガキ、外 口縁部横ナデ・胴部ナデ→ 下半のみ縦位ミガキ 文 口唇部刺突文 胴部7~8本1組とする櫛 描斜走文 頸部10本1組とする櫛描横走 平行線文を施す。	口縁部1/8残存 5Y R 6/3(にぶい橙)・5Y R 4/1(褐灰)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。 器肉不均一。	Ⅱ区・Ⅲ区
5	弥生土器 甕	— (8.0) <3.4>	内外 ハケナデ→ミガキ ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	
6	弥生土器 甕	— 7.3 <5.7>	内外 胴部縦位ミガキ・底部横位ミガキ 胴部ハケナデ→縦位ミガキ・底部ナデ	底部完形 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	Ⅲ区
7	弥生土器 甕	(22.2) — <12.2>	内外 ハケナデ→横位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→下半のみ 縦位ミガキ 文 口縁部ヘラ描刺突文 胴部5本1組とする 櫛描波状文	口縁部1/2残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子を含む。 H46・36と接合。	Ⅱ区・検出
8	弥生土器 甕	(8.8) — <3.8>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/5残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を少量含む。	Ⅲ区
9	弥生土器 小型甕	— (4.2) <2.6>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を多量、 黒色粒子・赤色粒子を少量含 む。	I区
10	弥生土器 台付甕	— (9.0) <5.0>	内外 甕部 ミガキ・台部 横ナデ ナデ→ミガキ	底部1/3残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅱ区・Ⅲ区
11	弥生土器 甕	— (6.8) <4.2>	内外 甕部 ナデ・台部 ハケナデ 縦位ハケナデ	底部完形 10Y R 8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	Ⅲ区
12	弥生土器 壺	(16.0) — <11.8>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・頸部ハケナデ 文 口唇部縄文 頸部縄文→4条のヘラ描横 走平行線文で区切り、2本のヘラ描波状 文を施す。	口縁部1/4残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	I区・Ⅲ区
13	弥生土器 壺	(16.2) — <3.2>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ 文 口唇部に縄文を施す。	口縁部1/8残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子多量、 黒色粒子少量含む。	



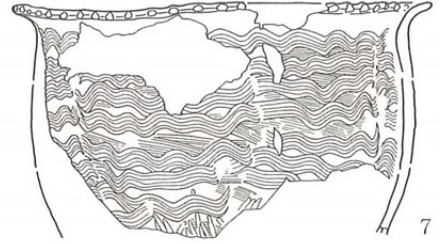
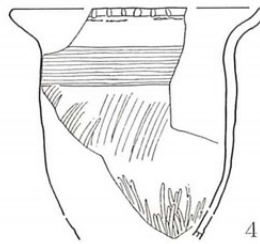
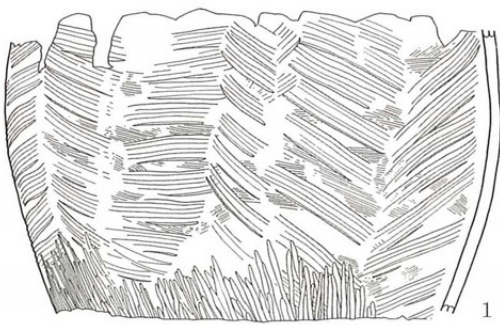
H 48 号住居址 (北より)

H 48 土層説明

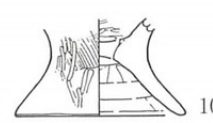
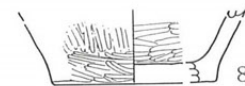
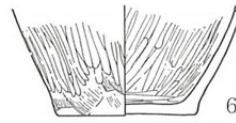
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 炭化物・にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂粒を含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 炭化物・小礫を含む。(炉)
3. 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土。(炉)
4. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 炭化物を含む。(炉)
5. 黒褐色土層 (10YR3/1) (柱痕)
6. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) (ピット堀方)
7. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂質土層。地山の砂粒子・砂ブロックを含む。(床)



H 48 号住居址炉 (東より)

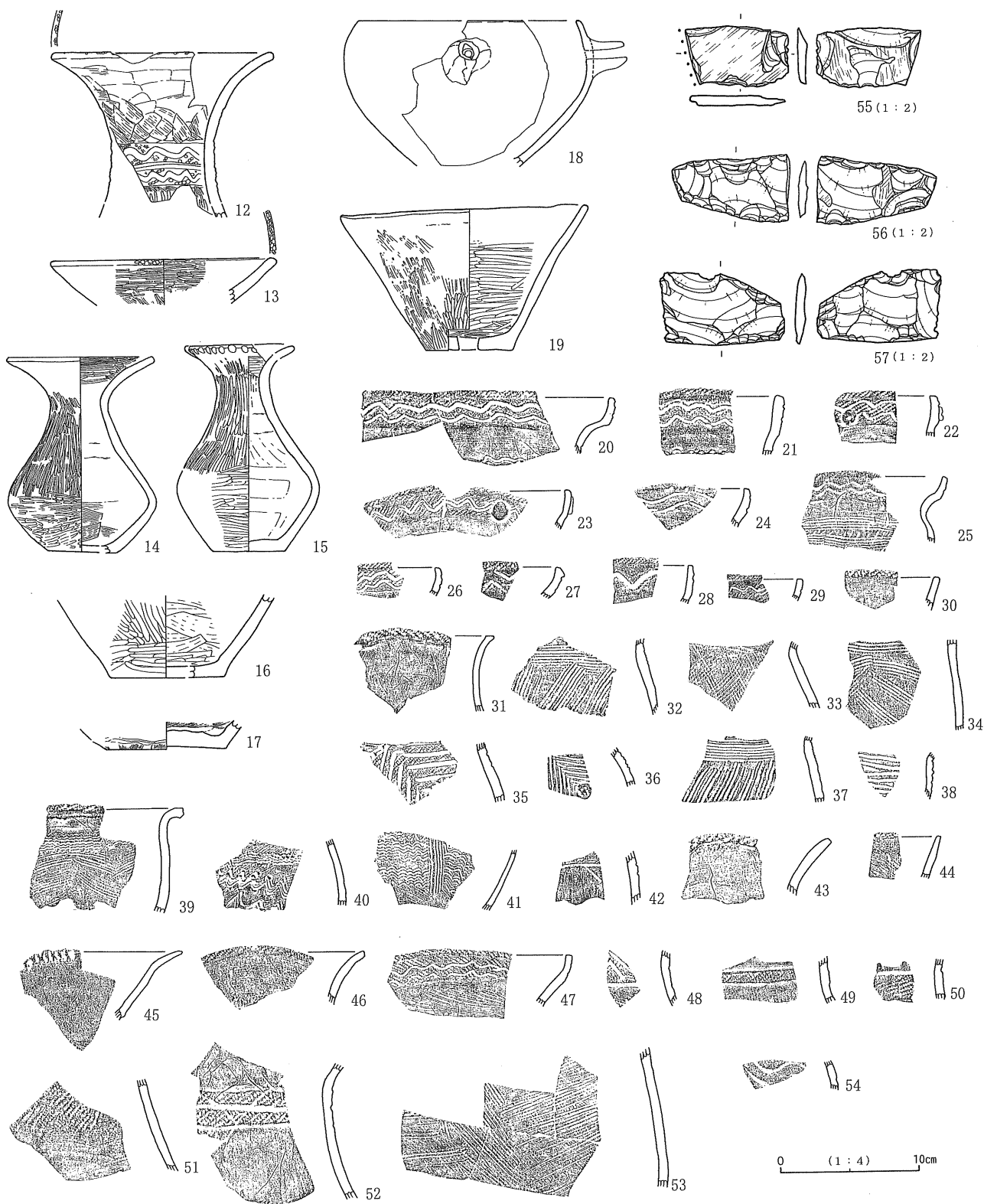


(H46-36と同個体)



第 81 図 H 48 号住居址

0 (1:4) 10cm



第 82 图 H 48 号住居址

第 50 表 H 48 号住居址出土遺物一覧表 (2)

14	弥生土器 壺	10.7 4.9 14.0	内 口縁部ミガキ・頸～胴上半部ナデ・胴下 半～底部ハケナデ 外 口縁部横ナデ・頸～胴部ミガキ	口縁部ほぼ完形 10Y R 7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 口唇部面取り。	
15	弥生土器 壺	(7.8) (5.2) 14.8	内 口縁部横位ミガキ・頸部縦位ナデ・胴部 斜位～横位ナデ 外 口縁部ナデ・頸～胴部ミガキ・底部ナデ 文 口縁部ヘラ描刺突文	底部3/4残存 10Y R 8/2(灰白)	緻密。	
16	弥生土器 壺	— (8.2) <5.8>	内 外 ハケナデ ミガキ	底部1/8残存 7.5Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・少量 含む。	Ⅱ区
17	弥生土器 壺	— (8.6) <2.0>	内 外 ナデ・ハケナデ ハケナデ→横位ミガキ	底部7/8残存 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	Ⅱ区
18	弥生土器 注口土器	(16.0) — <10.3>	内 横位ミガキ 外 磨滅していて判別できない。	口縁部1/9残存(外面摩滅) 10Y R 8/3(浅黄橙) 内面に淡い赤色塗彩	緻密。 注口あり。	I区・Ⅲ区 Ⅳ区
19	弥生土器 甕 (一孔)	18.0 6.3 10.3	内 横位ミガキ 外 縦位ミガキ	底部完形、口縁部3/4残存 2.5Y R 6/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子を含む。	炉・M21 Ⅱ区堀方

53) H 50 号住居址 (第83・84図、第51表、図版三十二・三十三・六十三)

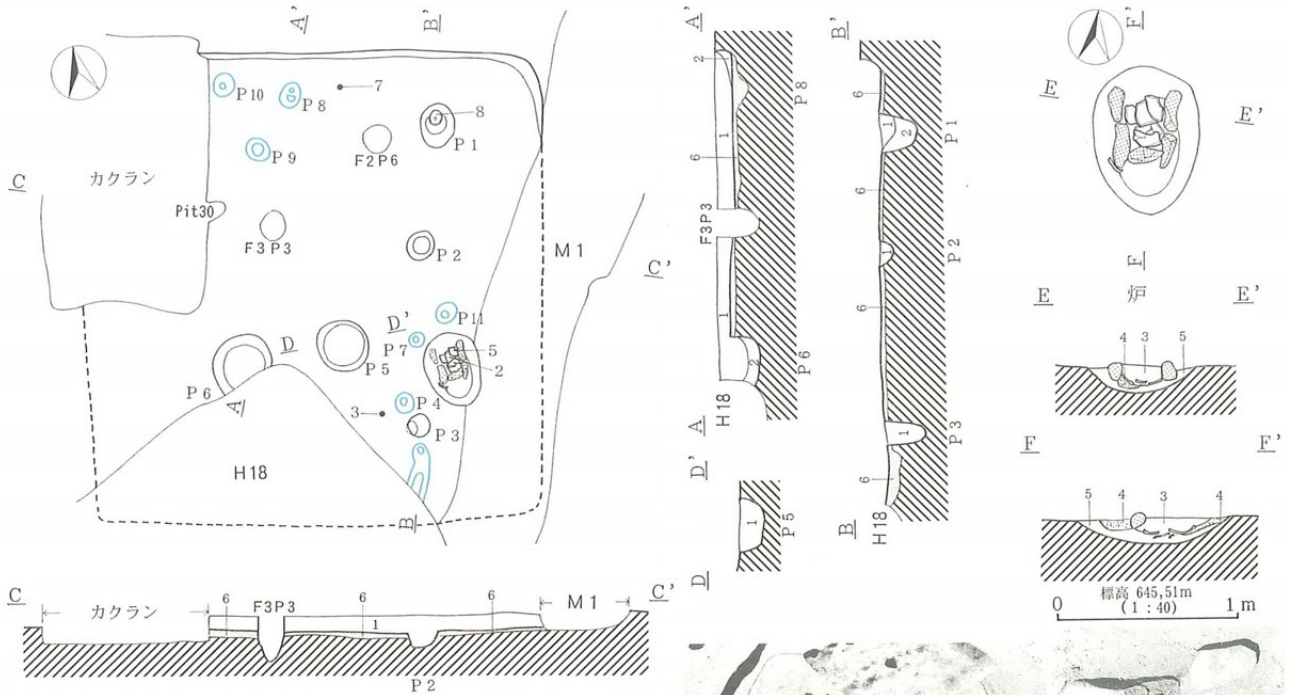
3え8グリットにあり、H18・M1・カクランに切られている。西南にかけてはプランが確認できなかった。南北残長520cm、東西残長360cm、壁残高23cmを測る。長軸方位はN-10°-Eを指す。P1・P3は支柱穴であるが、西側のピットが明確ではない。円形で径36・24cm、深さ40・44cmを測る。炉は南東の支柱穴P3の北にある。卵形で長径80cm、短径60cm、深さ16cmの堀込みに川原石を5個「コ」の字に配列し、その内側に2個体の甕を敷いて炉底としていた。P5・P6は伴う遺構かは明確でない。

掲載遺物は弥生式土器甕(1～5・12・13・17)、台付甕(6)、壺(7～9・14～16)、土製円版(10・11)がある。石製品では輝緑岩製の扁平片刃石斧、黒耀石製の剥片(19)がある。

2の甕は口縁が短く外反し口唇部に縄文を転がすだけで文様は施文されない。5は同じく口縁部が短く外反し、口唇部に縄文を施し、頸部に櫛描簾状文、胴上半に櫛描斜走文を施文している。6の台付甕は受口で、口唇部・口縁に縄文、胴上半に櫛描波状文と垂下文が施される。壺形土器は単に外反する素口縁で短く外反する。いずれも端部は面取りし縄文を転がし、7は頸部に縄文とヘラ描沈線、8は頸部に粘土帯でたかくして上下にヘラ描波状文を巡らしている。これらは弥生時代中期後半の土器であろう。

第 51 表 H 50 号住居址出土遺物一覧表 (1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(23.0) (9.0) 13.8	内 斜位ミガキ 外 ハケナデ→縦位ミガキ	底部3/4残存 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。 鉢に転用か。	I区
2	弥生土器 甕	(23.2) — <12.3>	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→ミガ(横 位ミガキ→縦位ミガキ) 外 口縁部横ナデ・胴部ケズリ→ハケナデ 文 口唇部縄文	口縁部1/4残存 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子・少量 含む。	
3	弥生土器 甕	— (7.4) <5.7>	内 ミガキ 外 ハケナデ→ミガキ 底 ナデ	底部7/8残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	
4	弥生土器 甕	— (5.0) <3.0>	内 ミガキ(横位) 外 ハケナデ→縦位ミガキ 底 ミガキ	底部1/3残存 10Y R 7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	Ⅲ区
5	弥生土器 甕	(21.6) 8.0 24.6	内 外 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部上半ハケナデ・胴下 半縦位ミガキ 文 口唇部縄文 頸部6本1組とする櫛描連簾文 胴部5～6本1組とする櫛描斜走文	底部ほぼ完形 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	炉・Ⅲ区
6	弥生土器 台付甕	(17.0) — <12.2>	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 文 口唇部・口辺部縄文、口辺部に円形の貼 付文を施す(2コ残存)。 胴部胴上半を10本1組とする櫛描波状文 を4条施し、10本1組とする櫛描垂下文を 4ヶ所に施し、4等分する。	口縁部1/4残存 7.5Y R 6/2(灰褐)	緻密。 脚部はない。	I区・Ⅲ区



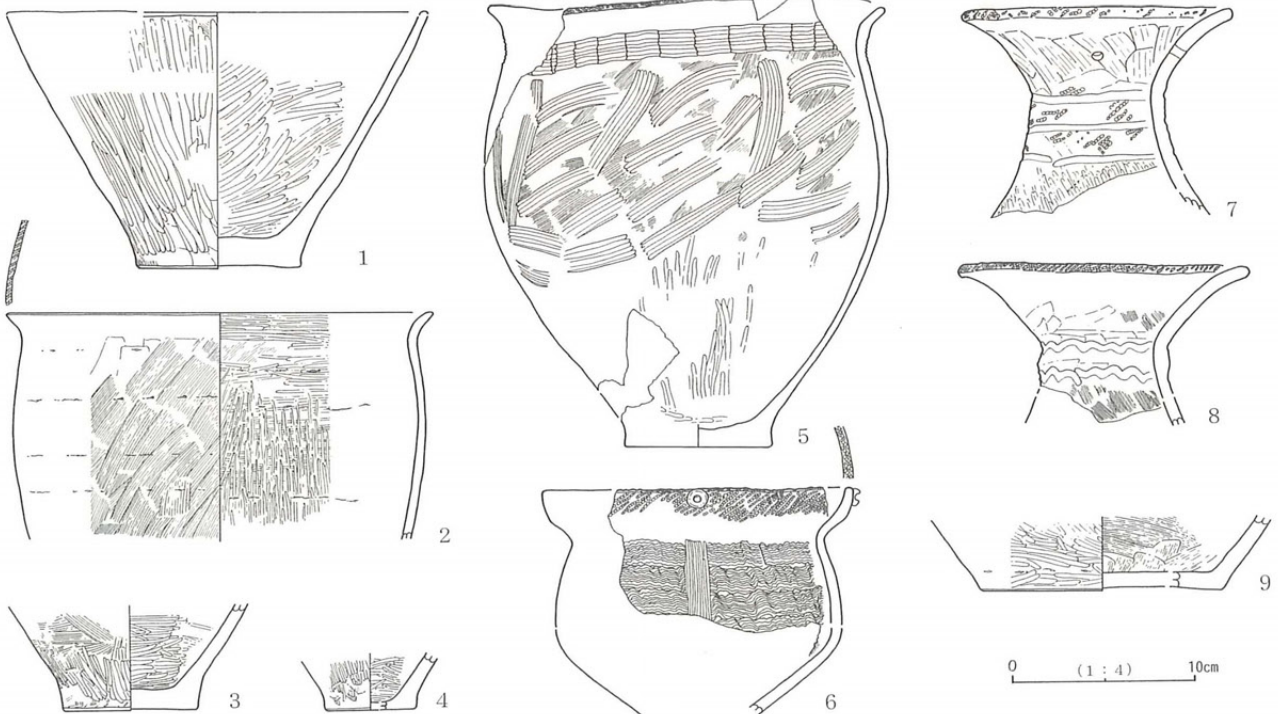
H50 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色 (10YR3/4) 砂を多量に含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) 暗褐色 (10YR3/4) 砂主体。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) わずかに炭化物粒子を含む。
4. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 炭化物・焼土粒子を含む。(炉)
5. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂質、サラサラ。(炉堀方)
6. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山の砂ブロックが多量混入し、シルト質土を含む。(貼床)

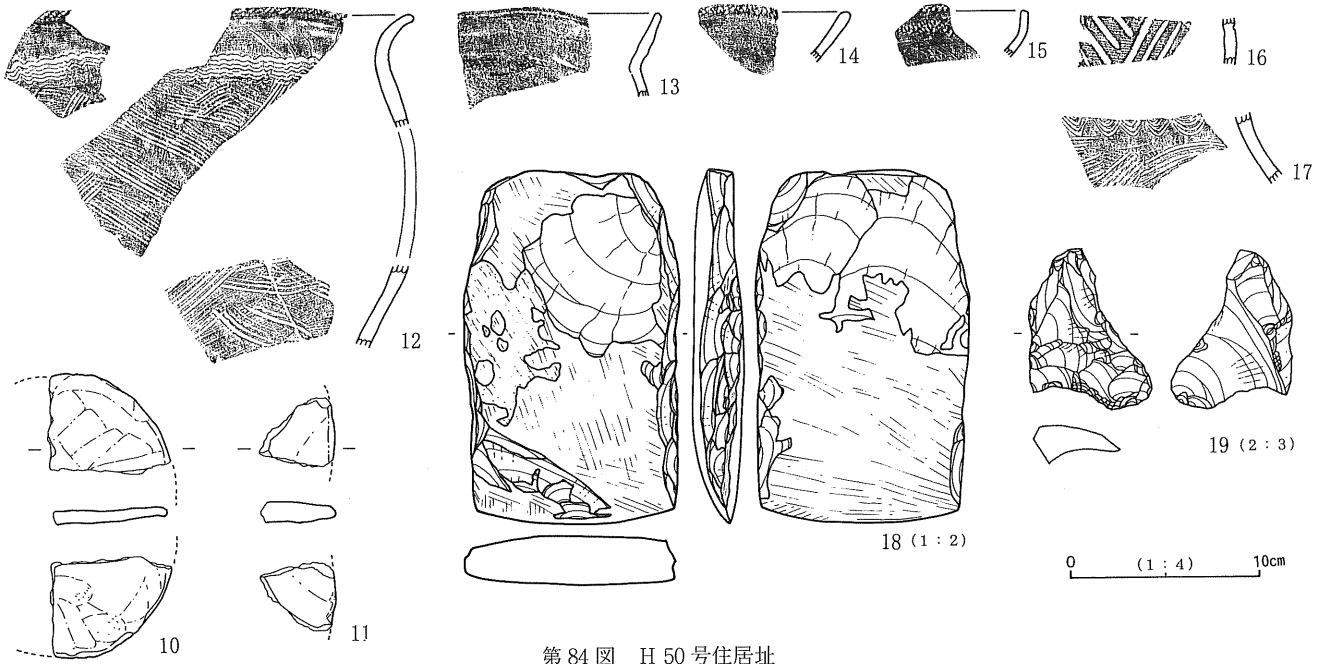


H50号住居址 (北より)

炉 (東より)



第83図 H50号住居址



第 84 図 H 50 号住居址

第 51 表 H 50 号住居址出土遺物一覧表

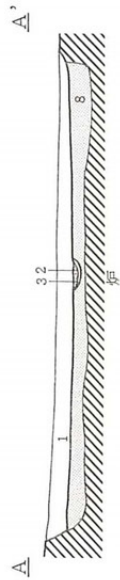
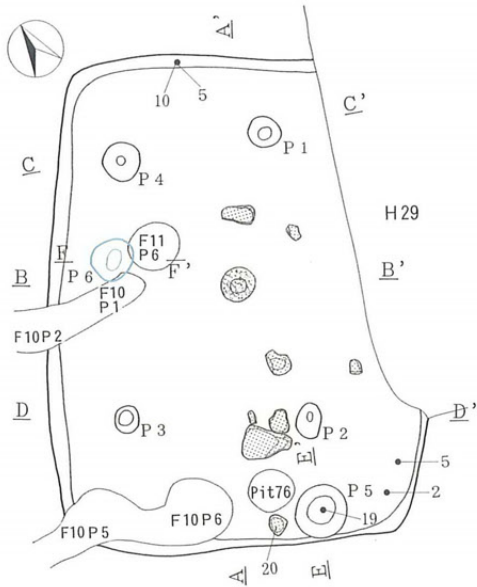
7	弥生土器 壺	14.9 — <11.3>	内外文 口縁部横ナデ→ミガキ 頸部ナデ 口縁部横ナデ 頸部ナデ 胴部ミガキ 口唇部縄文 頸部縄文を施した後3条の ヘラ描横走平行縄文	口縁部3/4残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。 口縁部に一ヶ所焼成前穿孔 あり。 摩耗している。	
8	弥生土器 壺	16.0 — <8.7>	内 口縁部(ハケ状工具による)横ナデ→ミ ガキ 頸部ナデ 外 口縁部ハケナデ→横ナデ 頸部ナデ 胴部ハケナデ→ミガキ 文 口唇部縄文 頸部带状に粘土を貼り、2 状のヘラ描波状文を施す。	口縁部完形 7.5Y R 7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	
9	弥生土器 壺	— (13.4) <4.0>	内外 ハケナデ ミガキ	底部1/3残存 5Y R 5/3(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	Ⅲ区
10	土製円板	<6.5> <5.1> <0.7>	内外 指及び工具によるナデ 指及び工具によるナデ	破片 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	砂質。 1mmの白色粒子・小石含む。	I区
11	土製円板	<4.0> <3.6> <1.1>	内外 ナデ ナデ	破片 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。小石含む。	Ⅱ区

54) H 51 号住居址 (第85図、第51表、図版三十三・六十三・六十四)

6き4グリットにあり、H29・F10・F11に切られる。南北496cm、東西383cm、壁残高20cmの隅丸長方形を呈す。長軸方位はN-32°-Eを指す。主柱穴はP1~P4で、円形を呈し径24~40cm、深さ12~24cmを測る。炉は中央にあり、径20cmの円形範囲に焼土がみられた。

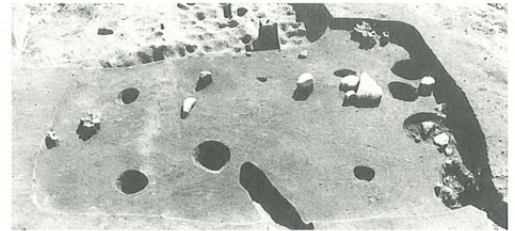
掲載遺物は杯(1~3)、高杯(8・10・11)、小鉢(4)、甕(5・6・9・15・17)、壺(7・12・13・16)、縄文の鉢(14)である。石製品では18が砂岩、スリ面があり端部が割れる。19が粘板岩でスリ面を持ち、赤色顔料が付着している。20は安山岩で、出入り口の敷石として使用されていた。

1は無彩のミガキ調整された杯で、2~4・8は赤色塗彩され、10・11高杯脚部は無彩である。5の甕は口縁が胴



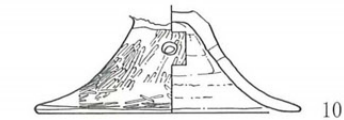
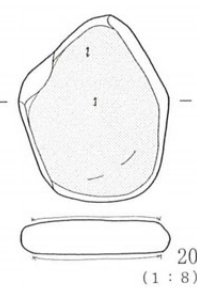
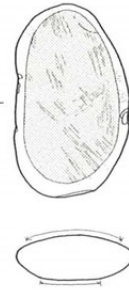
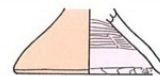
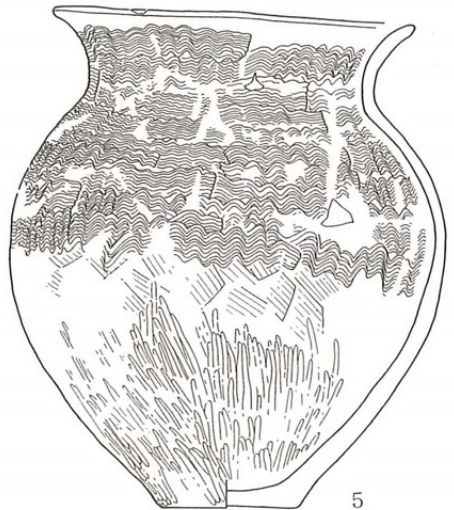
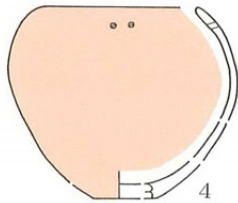
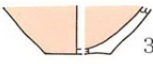
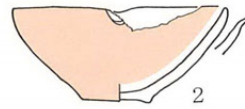
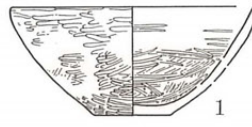
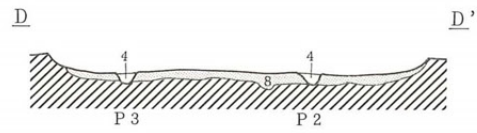
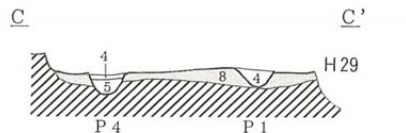
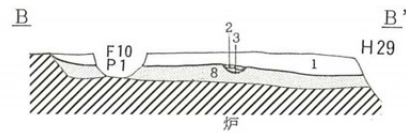
H51 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/2) 砂粒の2次堆積。浅黄褐色土(10YR8/4)砂粒、φ1cm大バミスを少量含む。
2. にぶい赤褐色土層(5YR3/4) 焼土粒子・灰のブロックを含む。(炉)
3. 暗赤褐色土層(5YR3/2) 灰を少量含む。砂を含む。(炉場方)
4. 黒褐色土層(10YR3/1) 浅黄褐色土(10YR8/4)粒子を少量含む。(ピット)
5. 浅黄褐色土層(10YR8/4) 黒褐色土(10YR3/1)粒子を含む。(ピット)
6. 黒褐色土層(10YR2/2) 炭化物・浅黄褐色土(10YR8/4)の粒子を少量含む。(P5)
7. 浅黄褐色土層(10YR8/4) 2次堆積。(P5)
8. 黒褐色土層(10YR3/1) 砂粒子・暗褐色(10YR3/3)シルト質土粒子を含む。(貼床)



H51号住居址(西より)

標高 646.61m
(1:80) 2m



0 (1:4) 10cm

第85図 H51号住居址

部から屈曲して大きく外反し胴上部が球胴形に張るもので、口縁部から胴上部まで櫛描波状文を施す。10・11の高杯脚部は裾部が大きく開くものである。10は円形の透が4箇所穿孔されている。

これらより弥生時代末～古墳時代初頭の土器群であろうか。

第52表 H 51号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 杯	13.2 4.2 5.7	内外 ミガキ ミガキ	底部完形 2.5Y R 5/6(明赤褐)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を多く含む。	Ⅱ区・Ⅲ区
2	弥生土器 杯 (片口)	11.5 3.6 5.0	内外 ミガキ→赤色塗彩 外底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	底部完 濃い赤色塗彩10R 4/6(赤)	緻密。 注口あり。	Ⅲ区・Ⅳ区
3	弥生土器 杯	— (3.5) <2.5>	内外 ミガキ→赤色塗彩 外底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	底部1/2残存 濃い赤色塗彩10R 3/6(暗赤)	緻密。	Ⅳ区
4	弥生土器 鉢	8.2 (3.4) 10.1	内外 ハケナデ→縦位ミガキ 外底 横位ミガキ→赤色塗彩 ミガキ	底部1/3残存 濃い赤色塗彩10R 4/6(赤)	1mm以下の白色粒子含む。 向い合いに2ヶ所2コづつ穿 孔あり。	Ⅳ区
5	弥生土器 甕	19.2 7.5 26.3	内外 口縁部横位ミガキ・胴～底部ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→胴下半 縦位ミガキ 文 口縁部～胴下半に5本～13本を1組とす る櫛描波状文を施す。	底部完形、口縁部3/4残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅳ区
6	弥生土器 甕	— (4.2) <2.7>	内外 横位ミガキ ナデ→ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅲ区堀方
7	弥生土器 甕か壺	— (6.7) <2.2>	内外 ナデ ハケナデ	底部1/2残存 10Y R 4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区堀方
8	弥生土器 高杯脚部	— (8.0) <3.4>	内外 ハケナデ・横ナデ・ナデ ミガキ→赤色塗彩	底部1/5残存 外 濃い赤色塗彩 内 淡い赤色塗彩	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区
9	弥生土器 甕	— (8.4) <3.0>	内外 ナデ→横位ミガキ ナデ→ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	Ⅲ区
10	弥生土器? 高杯	— 14.2 <5.3>	内外 杯部ミガキ・脚部ナデ→裾部横ナデ ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 脚に4ヶ所に透かしあり。	Ⅱ区
11	弥生土器? 高杯	— (16.8) <1.4>	内外 ハケナデ(横位) ハケナデ(縦位)	底部1/5残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	Ⅲ区

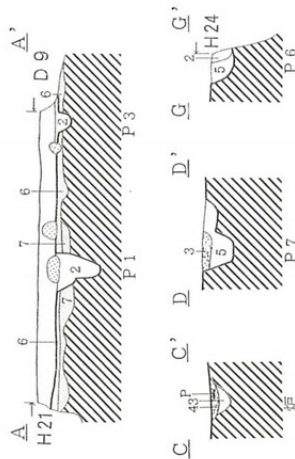
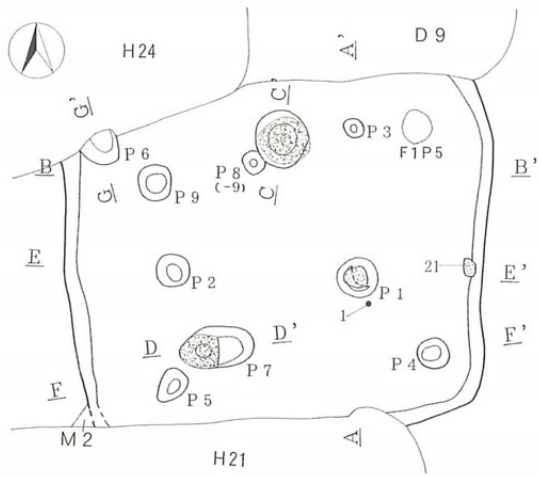
55) H 52号住居址 (第86・87図、第53表、図版三十四・六十四)

3い9グリットにあり、H21・H24・F1・D9に切られる。南北残長360cm、東西420cm、壁残高21cmを測る。長軸方位はN-4°-Wを指す。支柱穴はP1・P2で南側の2本にあたる。径40・30cm、深さ44・36cmを測る。炉は住居址中央にあたる場所にあり、径60cmの円形範囲に焼土がみられた。また南西のP7上面にも焼土がみられた。

掲載遺物には弥生式土器の台付鉢(1)、台付甕(2)、甕(1～7・9～10・14)、壺(8・11～13・15)と軽石製の凹石(21・22)がある。また石製品には黒色ガラス質安山岩製の剥片石器が出土している(16・17・19・20)。端部に刃部を作り出している。18は黒色ガラス質安山岩より、緑色がかっている。扁平片刃石斧の未製品であろうか。拓影図にみる甕は受け口で端部面取り縄文を転がしている。壺は口縁端部面取り後縄文を転がし、頸部・胴部への施文はヘラ描きである。これらは弥生時代中期後半の土器群であろうか。

第53表 H 52号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 台付鉢	— 10.3 4.9	内外 ナデ及びハケナデ ミガキ→赤色塗彩	脚部完形 内 10Y R 8/3(浅黄橙) 外 濃い赤色塗彩2.5Y R 5/8 (明赤褐)	緻密。	
2	弥生土器 台付甕	— 9.0 <5.8>	内外 胴部ミガキ・脚部 横ナデ ハケナデ→縦位ミガキ	脚部3/4残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	H24Ⅲ区

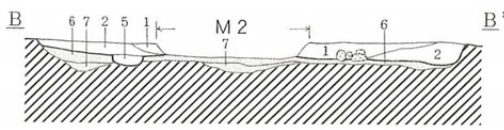


H52 土層説明

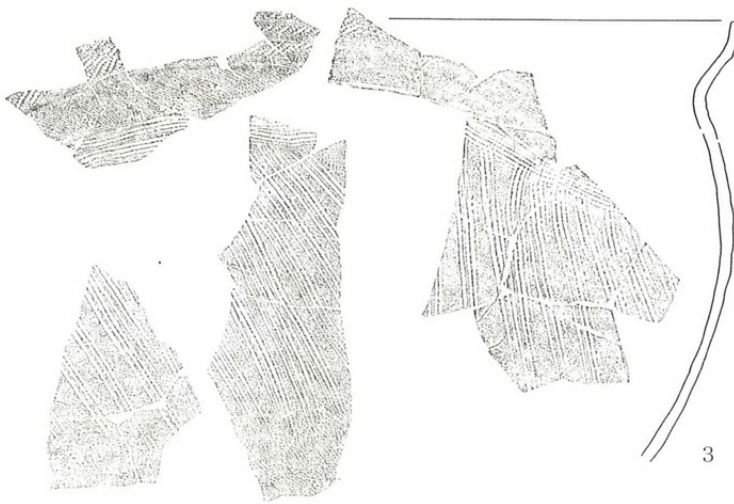
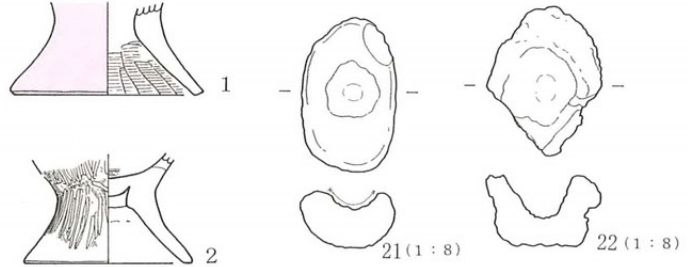
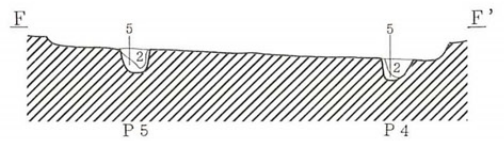
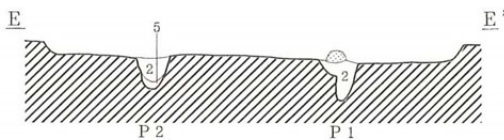
1. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂質。
2. 黒褐色土層(10YR3/3)
シルト質土を含む。炭化物粒子を微量含む。(柱痕)
3. 極暗赤褐色(5YR2/3) 焼土。炭化物粒子を含む。(灰)
4. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山の砂粒子を多量に含む。
5. 暗褐色土層(10Y3/4) 砂質。(ピット堀方)
6. 暗褐色土層(10YR3/3) 褐色(10YR4/6)砂ブロックを混在する。やや縮まりあり。(貼床)
7. 暗褐色土層(10YR3/4) 地山の砂を多量に含む。(堀方)



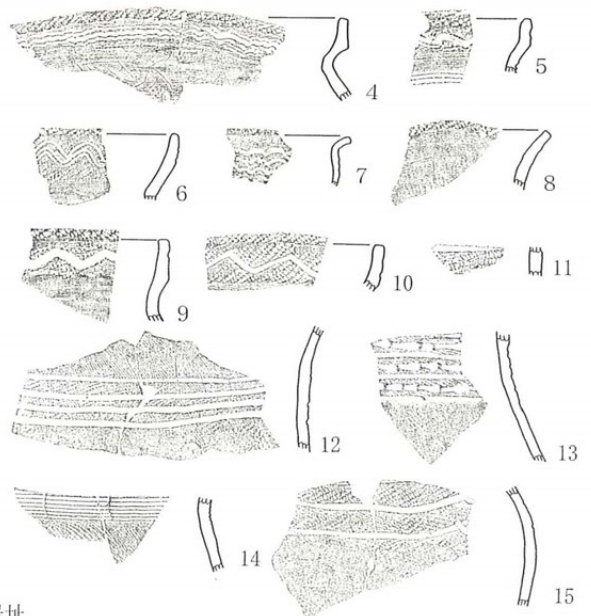
H52号住居址(西より)



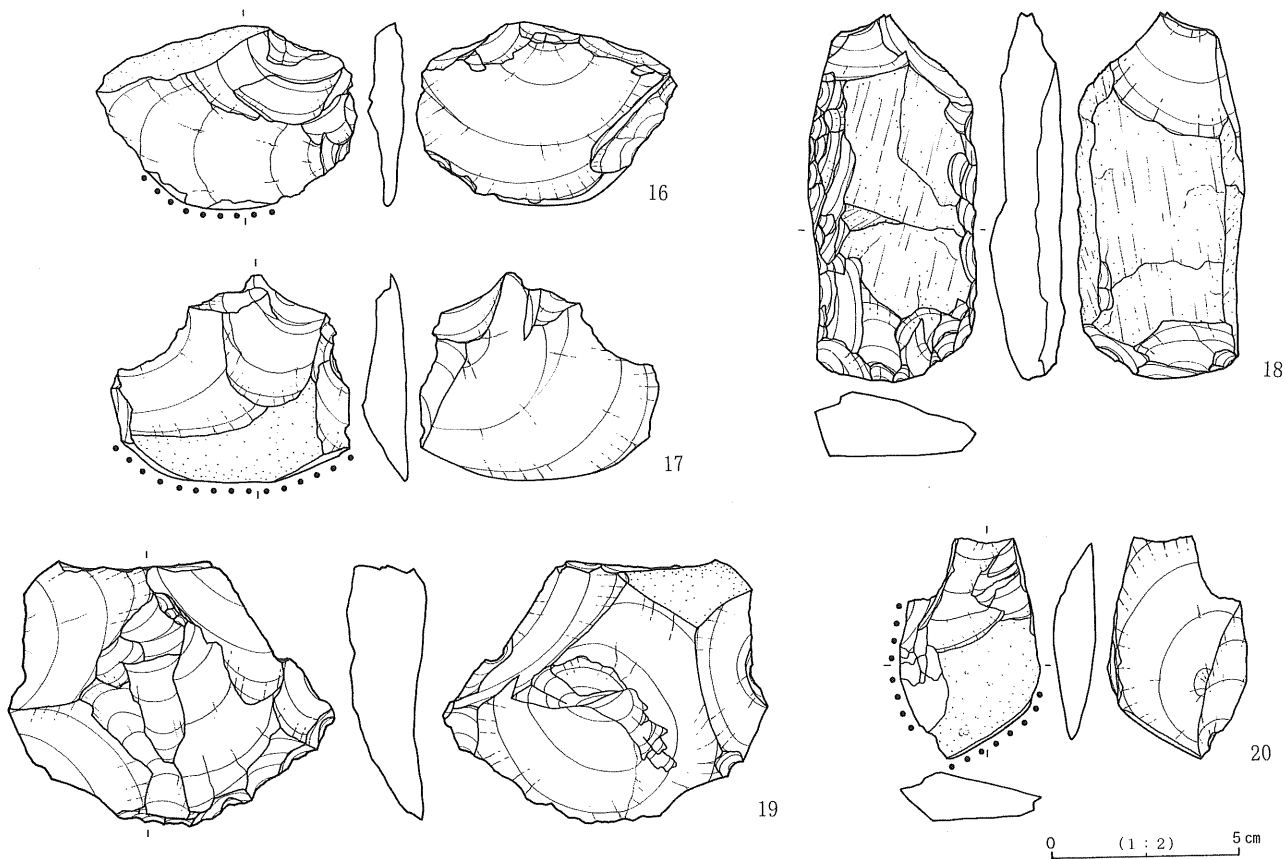
標高 645.51m
(1:80) 2m



0 (1:4) 10cm



第86図 H52号住居址



第 87 図 H 52 号住居址

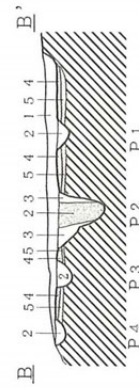
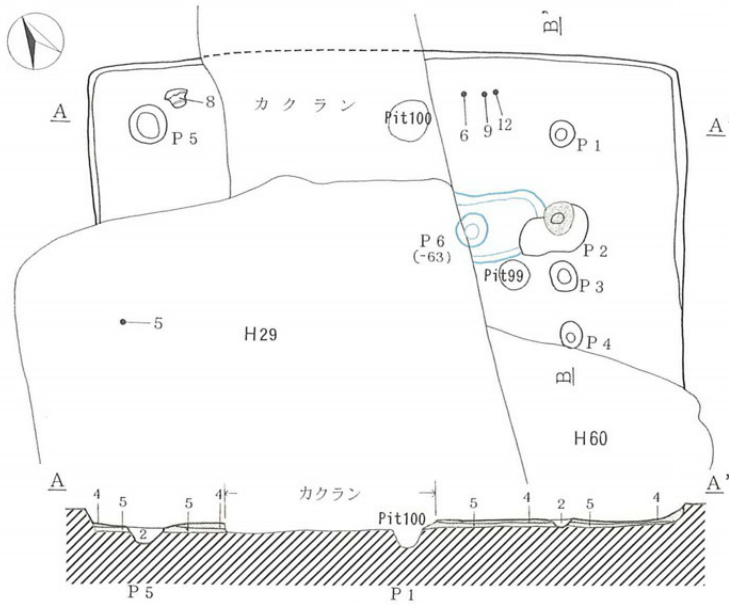
56) H 53 号住居址 (第88図、第54表、図版三十四・六十五)

6 か 4 グリットにあり、H29・H60に切られ、攪乱により中央部を壊される。東西617cm、壁残高11cm を測る。住居址の形態はつかめない。軸方位はN-28° - Eを指す。P 2が北東の主柱穴で他は攪乱や、他遺構によって壊されている。炉も壊されている。

掲載遺物には弥生式土器の甕 (1~4・15~18)、壺 (6~11)、蓋 (5)、杯 (12~14) がある。甕は小型品で、端部面取りし縄文施文され短く外反する 1、受口で端部面取り縄文施文、口縁外面縄文にヘラ描波状文、胴部文様は「コ」の字重ね文の 3 の甕と櫛描波状文と櫛描斜走文の 4 がある。6 は壺の小型品で、胴下部に円形で24mm の焼成後の穴が開く。口縁部刻み、頸部にヘラ描き沈線が施される。7 は中型品で、口縁端部面取り縄文を転がし、外反する口縁で、頸部にヘラ描き沈線のみを施す。8・11は大型品で、8 は明瞭な外稜はないが受口で口縁端部面取りし縄文、頸部に縄文と 3 本の横位平行沈線を施文する。11は受口外面に縄文を転がさないでヘラ描波状文のみ施文し、頸部に縄文を転がし、ヘラ描の沈線が横走する。鉢ないし杯は赤色塗彩ミガキが施される。これらの土器は弥生時代中期後半の土器群であろう。

第 54 表 H 53 号住居址出土遺物一覧表 (1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 甕	(18.0) — <11.4>	内外文 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ナデ 口唇部 縄文 胴部 8~9本1組とする、櫛描波状文を施す。	口縁部1/4残存 7.5Y R5/2(灰褐)・7.5Y R7/3 (にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子少量含む。	検出
2	弥生土器 甕	— (6.4) <10.3>	内外文 ミガキ ハケナデ→ミガキ 櫛描波状文(単位わからない)	底部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	Ⅱ区



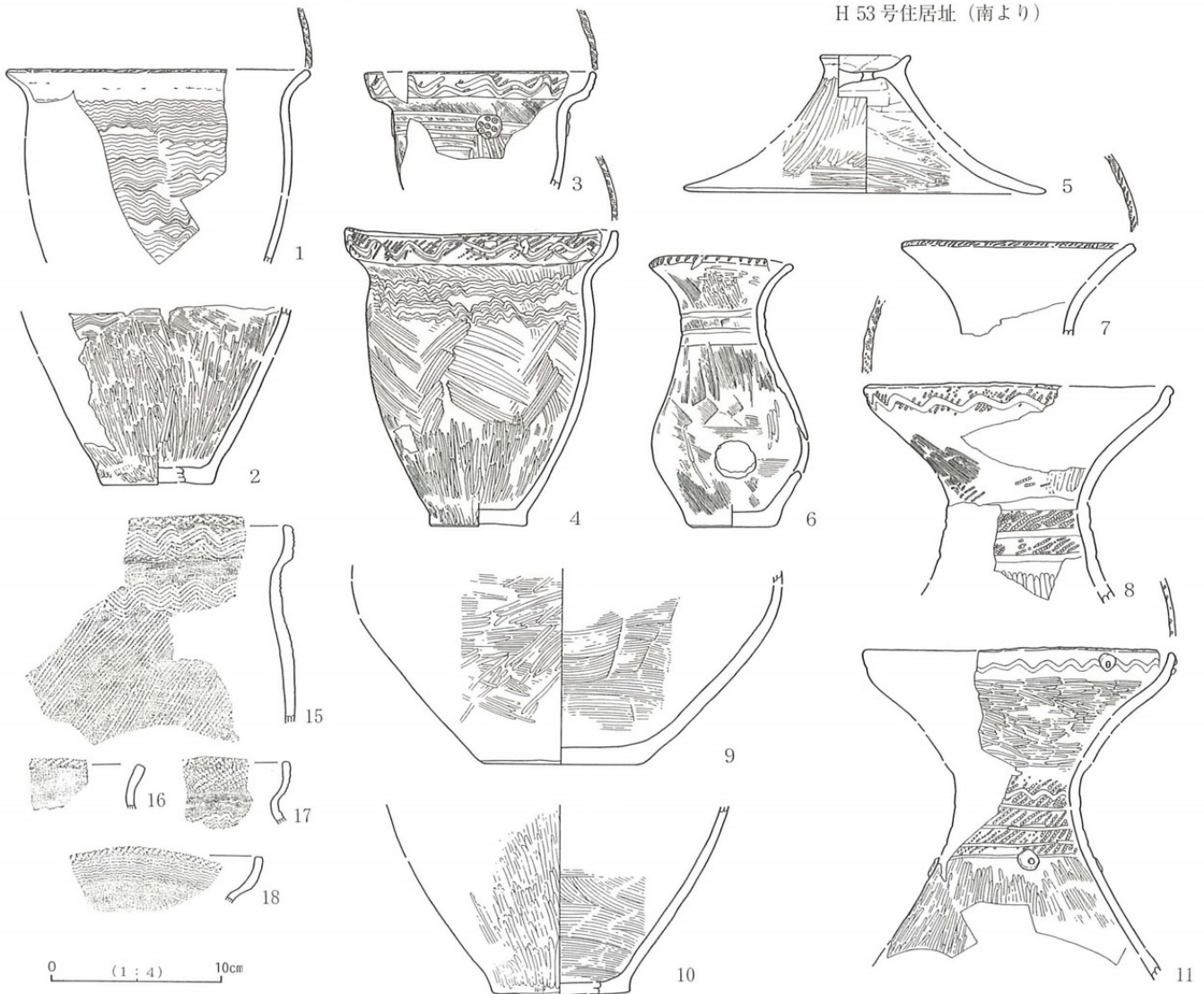
H53 土層説明

1. 黒色土層 (10YR2/1)
シルト質土粒子・粘土ブロック・砂を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)
シルト質土粒子・砂粒子を含む。(柱痕)
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) : (ピット堀方)
4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
褐色 (10YR4/6) 砂ブロックを混在する。(貼床)
5. 暗褐色土層 (10YR3/4)
地山の砂を多量に含む。(堀方)

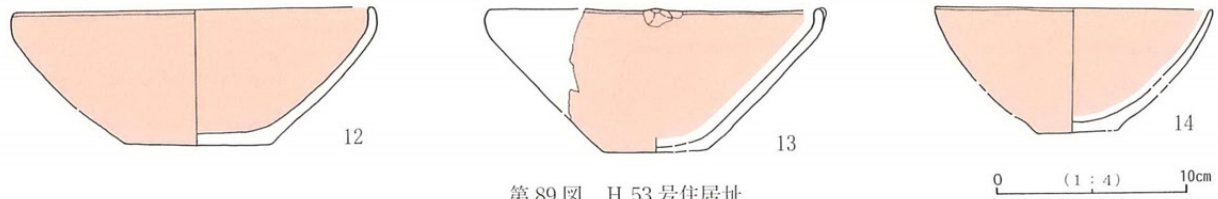
標高 646.58m
(1:80) 2m



H 53 号住居址 (南より)



第 88 図 H 53 号住居址



第89図 H 53号住居址

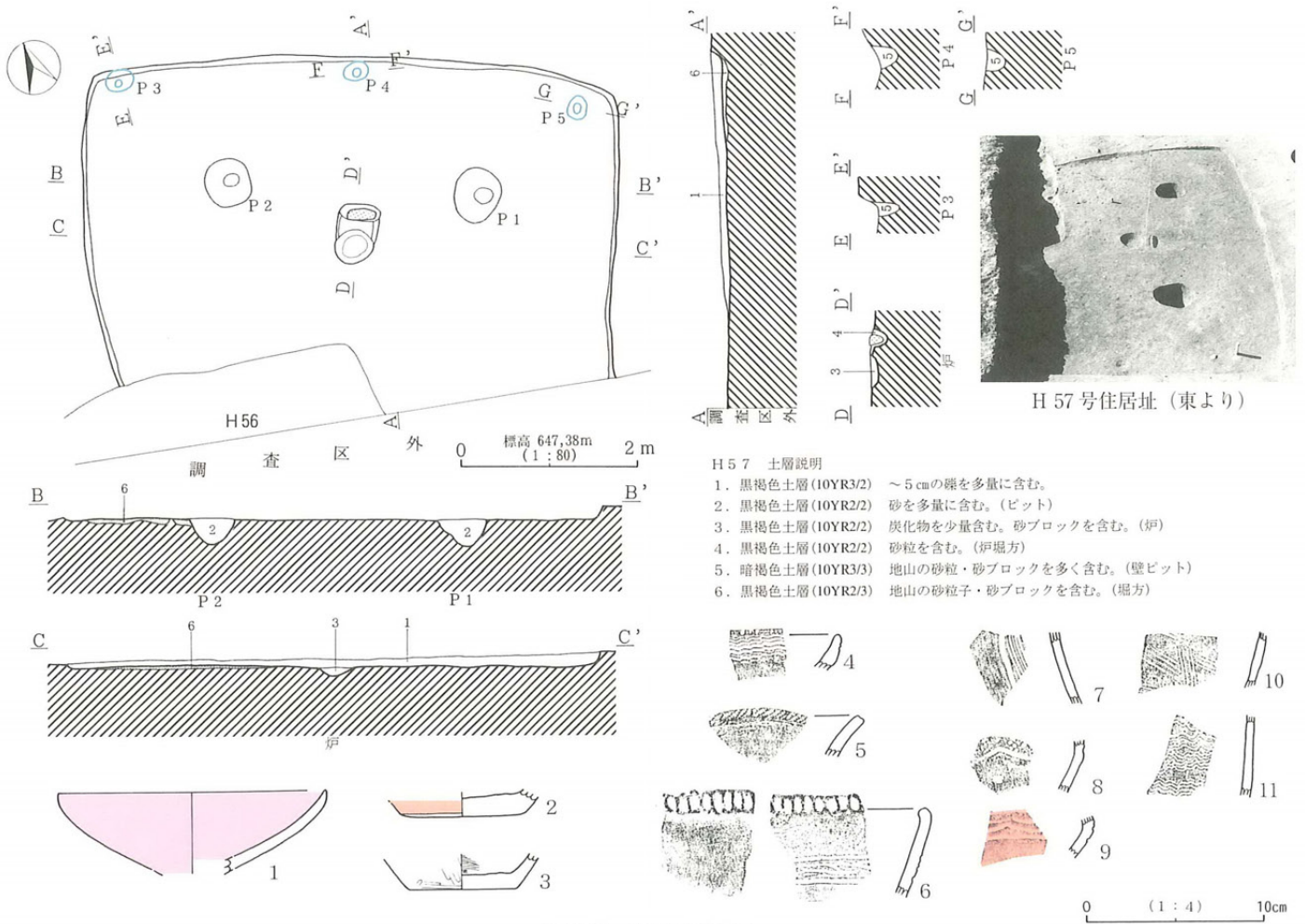
第54表 H 53号住居址出土遺物一覧表(2)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
3	弥生土器 甕	(13.8) — <6.9>	内外文 ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描波状文を2条 胴部ヘラ描「コ」の字文を施し、単位の区 切り部分にボタン状の貼付文を施す。4 個の内2個残存	口縁部1/2残存 7.5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。 1mmの白色粒子を含む。	検出
4	弥生土器 甕	(16.3) 5.8 17.4	内外文 口縁部横位ミガキ・胴部縦位ミガキ ハケナデ→胴下半縦位ミガキ 口唇部縄文 口縁部縄文を地文とし、2条のヘラ描 連続波状文 頸部6本1組とする櫛描波状文を2条 胴部5本1組とする櫛描斜走文	底部完形、口縁部1/3残存 7.5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子含む。	
5	弥生土器 蓋	(21.6) 5.4 8.1	内外 ヘラナデ・ハケナデ→粗いミガキ ミガキ	紐ほぼ完形、口縁部1/16残存 5Y R5/3(にぶい赤褐)	緻密。 つまみに一孔あり。	Ⅱ区1層
6	弥生土器 壺	8.6 5.4 15.9	内外文 ナデ・ハケナデ→口縁部わずかミガキ ハケナデ→ミガキ 口唇部にヘラ描刺突文 頸部にヘラ描 横走平行線文	底部完形、口縁部1/2残存 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。 1mmの白色粒子含む。 胴下部に焼成後穿孔あり。 底部にもみ痕あり。	
7	弥生土器 壺	14.0 — <5.4>	内外文 横ナデ 横ナデ 口唇部に縄文を施す 頸部にヘラ描横 走文	口縁部完形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	
8	弥生土器 壺	(18.5) — <12.9>	内外文 口縁部ミガキ(横位)・頸部ナデ 口縁部横ナデ→ハケナデ・胴部縦位ミガ キ 口唇部 縄文(磨耗している) 口辺部 縄文→ヘラ描連続山形文 頸部 縄文→3条のヘラ描横走平行線 文	口縁部2/3残存 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。	堀方
9	弥生土器 壺	— 10.0 <11.5>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ	底部完形(内面剥離) 7.5Y R5/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・白色 粒子・赤色粒子を含む。	
10	弥生土器 壺	— 8.1 <11.2>	内外 ハケナデ ミガキ(縦位)	底部2/3残存(摩耗) 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。 外面に一部・赤色塗料の付着 がみられる。	Ⅲ区・Ⅳ区
11	弥生土器 壺	(18.6) — <19.7>	内 口縁部横位ミガキ・頸部ナデ・胴部ハケ ナデ 外 口縁部横ナデ・横位ミガキ 胴部縦位ミ ガキ 文 口唇部縄文 口辺部ヘラ描連続山形文の後ボタン状 貼付文(2コのみ残存)施す。 頸部縄文を地文とし、ヘラ描連続山形文 を施し、その下に4条のヘラ描横走平行 線文を施す。その後頸部と胴部の境にボ タン状貼付文(3コのみ残存。そのうち1 コは、中央に穴がない)施す。	口縁部1/2残存(摩耗) 10Y R8/2(灰白)	緻密。 口縁上部外面に縄文を転が していない。	Ⅱ区1層
12	弥生土器 鉢	(19.0) 7.5 7.2	内外底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	口縁部1/2残存、底部3/4残存 (外面底部周縁磨滅。) 濃い赤色塗彩10R 4/6(赤)	緻密。	
13	弥生土器 鉢	17.8 5.5 7.5	内外底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	底部完形(底部剥離) 濃い赤色塗彩10R 4/8(赤)	緻密。1mmの黒色粒子・白 色粒子含む。口唇部に突起あ り。	
14	弥生土器 杯	(14.7) 4.2 6.6	内外底 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩 塗彩されない	口縁部1/5残存、底部1/2残存 濃い赤色塗彩10R 3/6(暗赤)	緻密。	Ⅲ区・Ⅳ区

57) H 57 号住居址 (第90図、第55表、図版三十四・三十五・六十四)

5き3グリットにあり、南側半域は調査区域外である。東西580cm、壁残高14cm を測り隅丸長方形を呈すものであろう。軸方位はN-25° - Eを指す。主柱穴は北側のP1・P2である。円形で径52cm、深さ30cm を測る。炉は主柱穴の間にあり、北側に炉縁石が置かれている。楕円形を呈し、長径68cm、短径50cm、深さ8cm を測る。

掲載遺物には弥生式土器の杯または高杯(1)、鉢(2)、壺(3・5・7~9)、甕(4・10・11)と縄文晩期の深鉢(6)がある。資料が限られ時期の詳細はわからないが、北側に炉がある住居址で、赤色塗彩がみられるなど、弥生時代後期の土器群であろうか。



第90図 H 57 号住居址

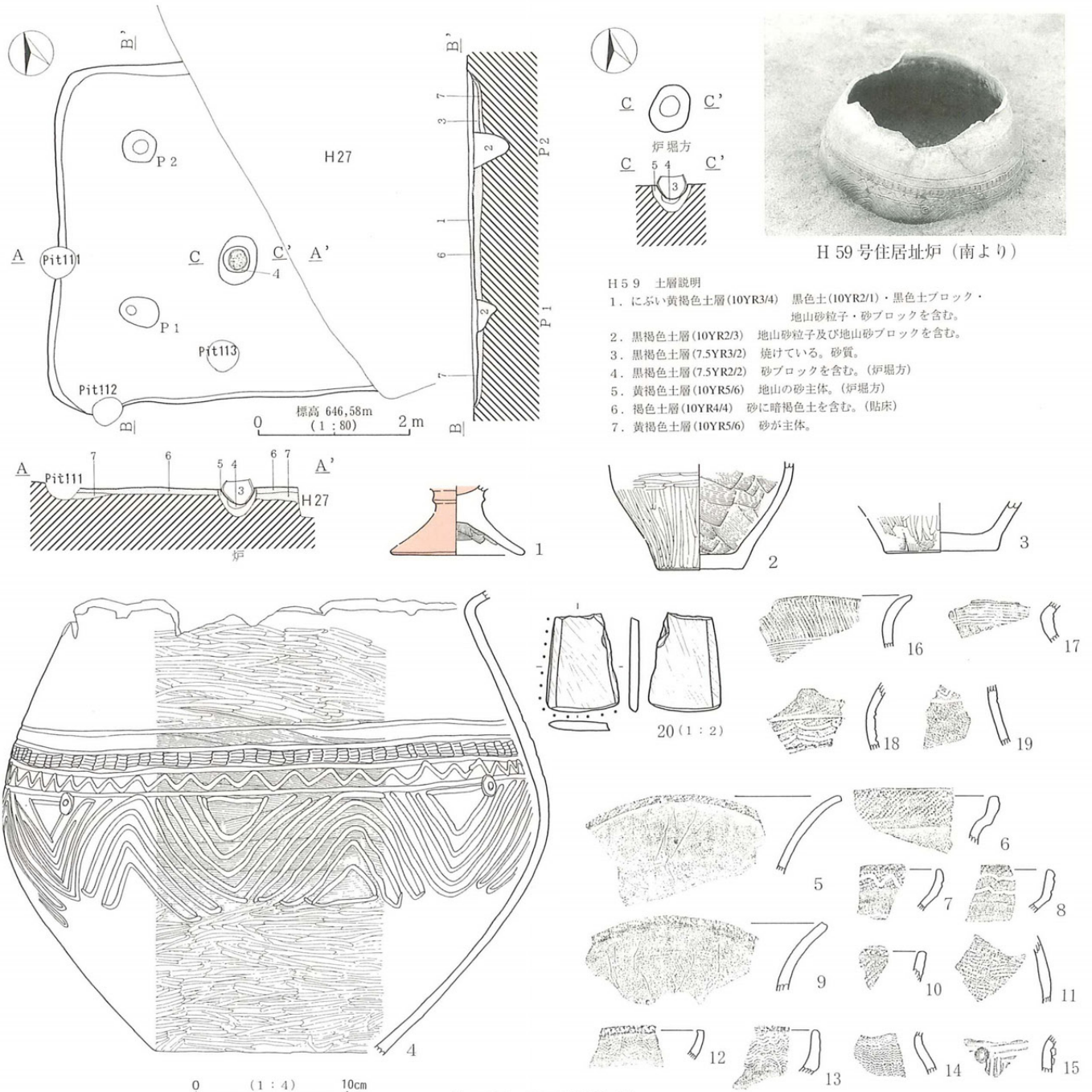
第55表 H 57 号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	15.0 <4.6>	内外 赤色塗彩 赤色塗彩	口縁部1/4残存 淡い赤色塗彩 地の色7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。	IV区
2	弥生土器 壺	7.1 <1.4>	内外 ナデ 濃い赤色塗彩	底部1/2残存 濃い赤色塗彩 地の色10Y R8/2(灰白)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	I区
3	弥生土器 壺	(6.0) <2.0>	内外 ナデおよびハケナデ ミガキ	底部1/2残存 10Y R8/2(灰白)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	I区

58) H 59 号住居址 (第91図、第56表、図版三十五・六十五)

6え7グリットにあり、H27に東を切られる。南北427cm、東西は残長で408cmを測り、隅丸方形を呈するものであろうか。主柱穴は西側のP1・P2で径40・44cm、深さ28・48cmを測る。炉は住居址中央にあり、長径65cm 短径50cm 深さ37cmの楕円形の堀込みに4の甕を置いて火壺としていた。

掲載遺物には弥生式土器高杯(1)、壺(2・5・8~11・13・17~19)、甕(3・4・6・7・12・14~16)、黑色ガラス質安山岩製の端部がミガキ込まれている磨製製品の未製品(25)がある。4は口縁と底部を欠損しており、甕器形に壺の文様が施文され、胴中に文様がヘラ描される。実測資料・拓影図は検出面の資料で、弥生中期から後期末までが混入している。本住居址に确实伴うのは4の甕のみである。炉の甕や多くみられる破片からは、弥生時代中期後半であろうか。



第56表 H 59号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	— (9.0) <4.5>	内外 ハケナデ ミガキ→赤色塗彩	底部2/3残存 10Y R 8/2(灰白) 濃い赤色塗彩10R 4/6(赤)	緻密。 凸帯継部にあり。	検出
2	弥生土器 壺	— 5.7 <6.9>	内外底 ハケナデ ミガキ ナデ	底部完形 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	検出
3	弥生土器 甕	— 7.6 <3.2>	内外 ナデ ハケナデ→縦位ミガキ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	検出
4	弥生土器 甕	— — 29.0	内外文 櫛状工具による横位ナデ→横位ミガキ 横位ミガキ 4条の横走平行線文で4本1組とする櫛描 簾状文、ヘラ描波状文を区画する。その 下(胴部中央)に、ヘラ描連続三角文を施 す。さらに、胴部中央にボタン状貼付文4 コが等分に施される。	胴部のみ残存 内 10Y R 7/3(にぶい黄橙) 外 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	緻密。	炉

3. 時代不詳の住居址

59) H8号住居址 (第14図、第57表、図版五・六・四十)

5え8グリットにあり、古墳時代のH10・H7に切られる。南北360cm、東西422cm、壁残高4cmの不整長方形を呈す。浅いため床面が一部削平され、ことに南側はプランも不明確であり、火処は検出されなかった。柱穴はP1～P4で柱痕が残り主柱穴であろう。

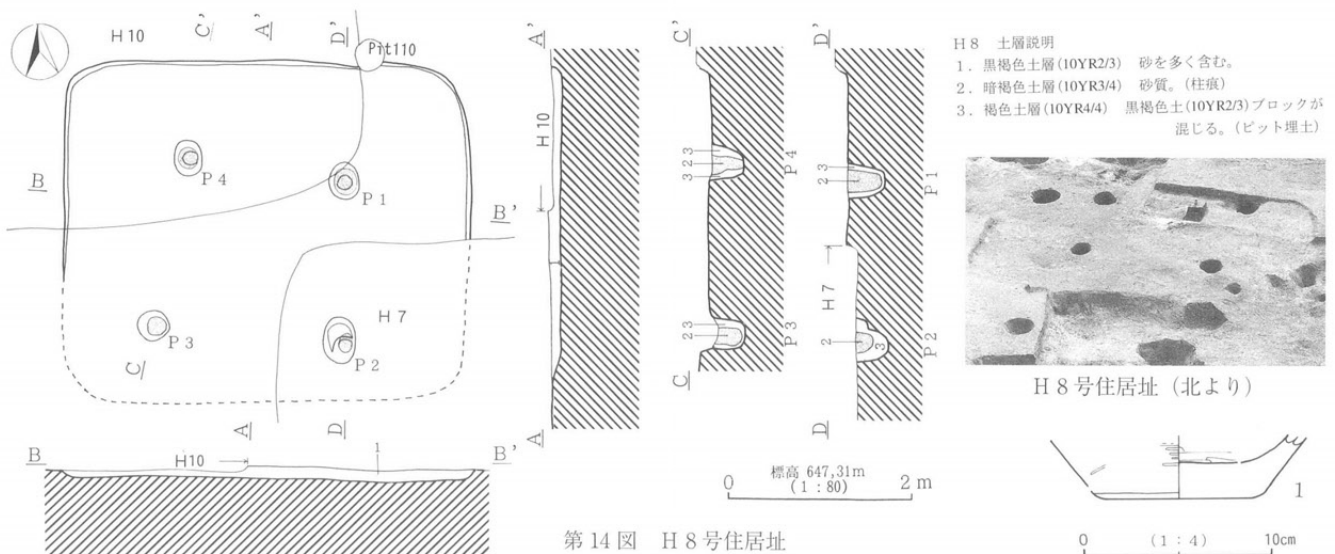
掲載遺物は弥生時代の壺の底部である。しかし破片は弥生時代中期の破片、古墳時代初頭のはけ甕、古墳時代後期の杯・甕、平安時代須恵器杯まで混入している。カマドの痕跡のないことなどから古墳時代中期以前であることはいえるが限定できる資料はない。

60) H39号住居址 (第92図、図版三十五)

5こ3グリットにあり、東側の大半は調査区域外である。南北396cm、東西252cm 壁残高15cm で、長軸方位N-7°-Eを指す。出土遺物がなく時期がわからない。

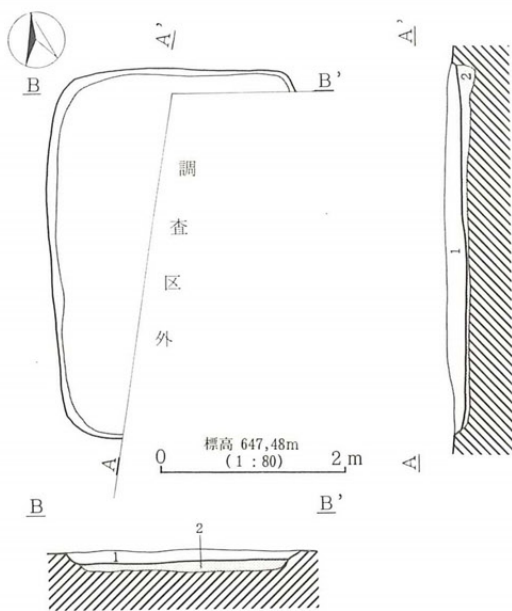
61) H60号住居址 (第93図、図版三十五)

6か5グリットにあり、H24・29と攪乱に切られ、H53を切る。しかし攪乱と重複のため、プランも充分にわからず、遺物は弥生中期の壺胴部片が検出面で3片あるのみである。時期の決定はできない。

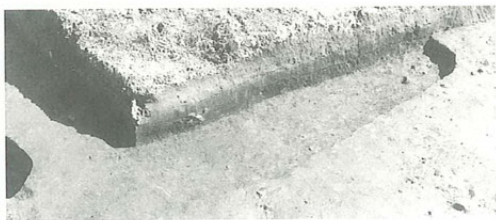


第57表 H8号住居址出土遺物一覧表

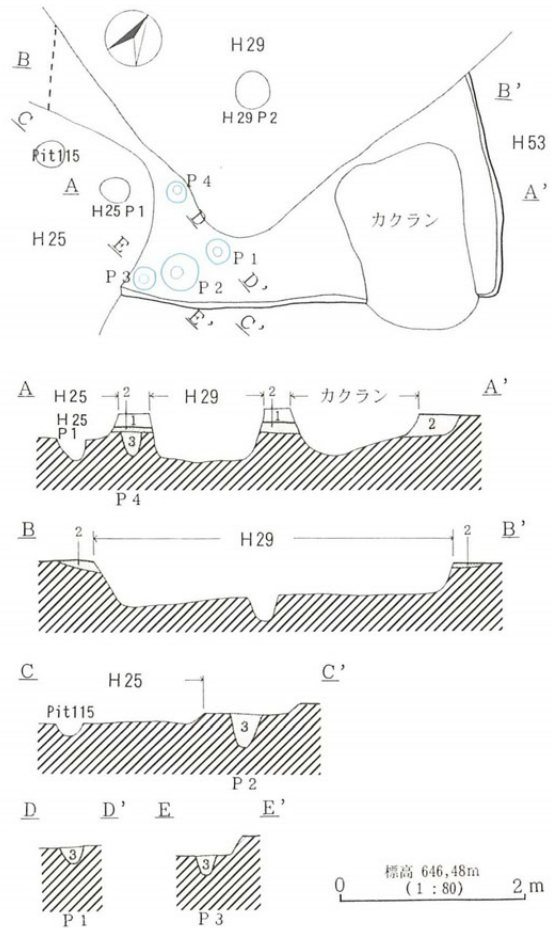
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 壺	— 9.3 <3.3>	内外 ナデ ミガキ(摩耗している)	底部完形(外面摩耗) 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R7/4(にぶい橙)	砂質。2mm以下の白色粒子、 黒色粒子を含む。	P3



H39 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR3/1) にぶい黄褐色土(10YR6/4)粒子・φ5mm以下
 パミスを少量含む。
 2. 黒褐色土層(10YR3/2)・灰黄褐色土(10YR6/2)混在土層 (掘方)



H39号住居址(西より)
 第92図 H39号住居址



H60 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR3/1) 地山ローム粒子を含む。
 2. 黄褐色土層(10YR5/8) 粘土か、砂が主体で締まりは全くない。
 3. 黒褐色土層(10YR2/1) 地山砂粒子を含む。



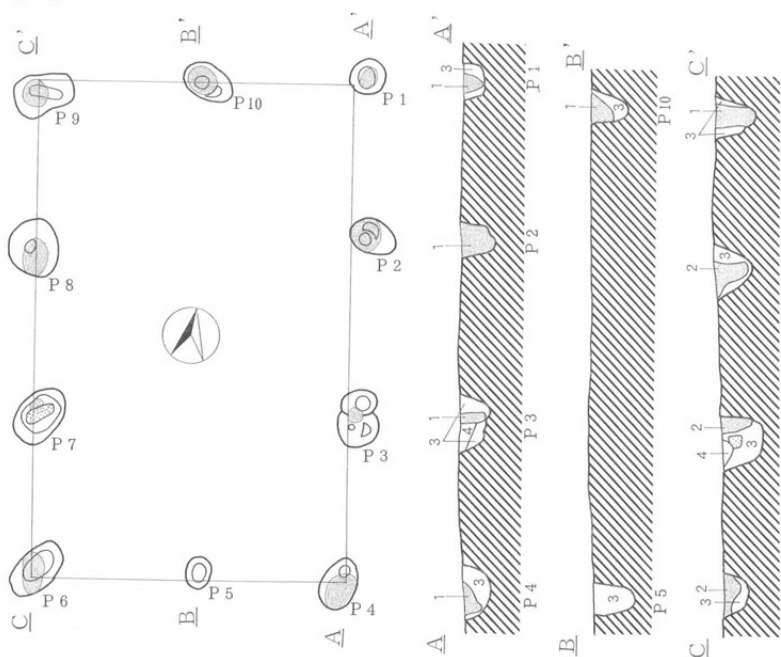
H60号住居址(南西より)
 第93図 H60号住居址

第2節 掘立柱建物址

1) F 1号掘立柱建物址 (第94図、図版三十六)

3い8グリットで検出され、古墳時代の後期のH24、弥生時代のH52・M2・D9・D20を切る。3間×2間の南北棟で主軸方位はN-11°-Wを指す。桁行き520cm、梁行き352cmの側柱式である。ピットは楕円形を呈し、長径は40~65cm、深さ26cm~46cmを測り、円形の柱痕が検出された。出土遺物は土器破片が少量あり、いずれも弥生式土器で、櫛描斜走文の甕、頸部廉状文の甕、無彩の壺胴部、赤色塗彩の杯ないし鉢の破片が出土している。

F 1



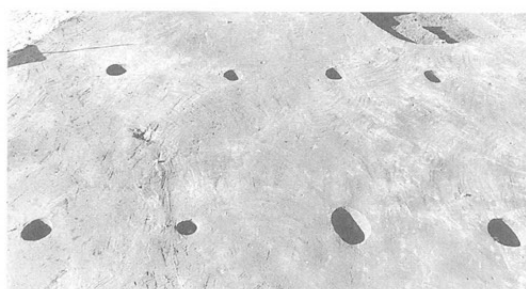
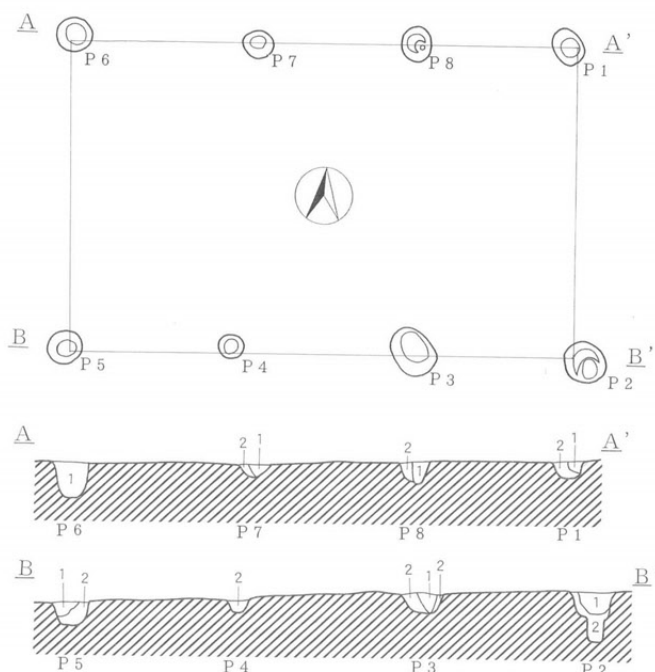
F 1号掘立柱建物址 (西より)

F 1 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土粒子多く含む。(柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) (柱痕)
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山の暗褐色 (10YR3/3) 砂粒多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)

標高 645.61m
0 (1:80) 2m

F 2



F 2号掘立柱建物址 (南より)

F 2 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・焼土粒子わずかに含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/3)

標高 645.61m
0 (1:80) 2m

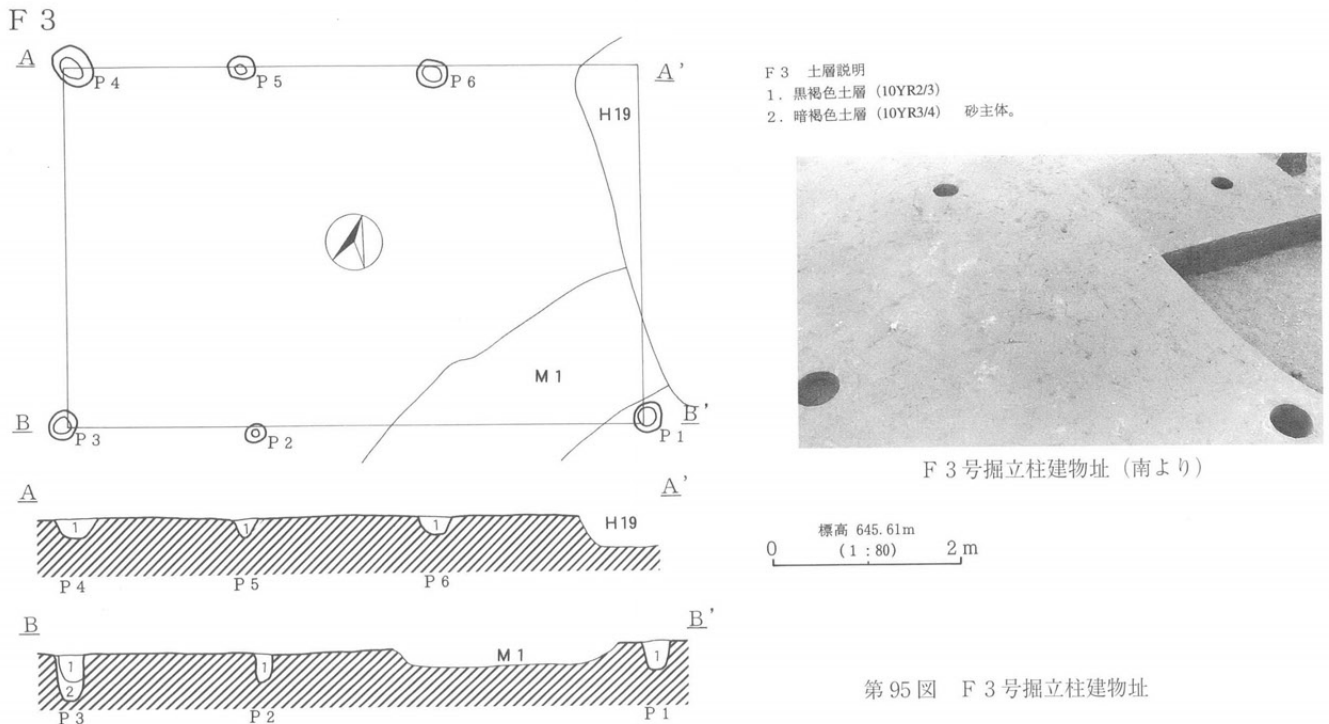
第94図 F 1・F 2号掘立柱建物址

2) F2号掘立柱建物址 (第94図、図版三十六)

3え8グリットにあり、弥生時代のH50・M1・D22を切る。3間×1間の東西棟で、主軸方位はN-93°-Wを指す。桁行き536cm、梁行き328cmの側柱式である。柱穴は円形基調で、長径26~51cm、深さ12~53cmを測り、柱痕がみられた。出土遺物はP2から弥生式土器4片である。甕の底部と無彩の壺胴部片である。

3) F3号掘立柱建物址 (第95図、図版三十六)

3お7グリットにあり、古墳時代後期のH19・弥生時代のH50・M1を切る。3間×1間の東西棟で、長軸方位はN-73°-Wを指す。遺構と重複している地点のピットは検出できなかった。桁行き620cm、梁行き380cmの側柱式である。柱穴は円形を呈し、径20~48cm、深さ17~50cmを測る。出土遺物にはP2から土器小片が3片あり、土師器の甕片である。



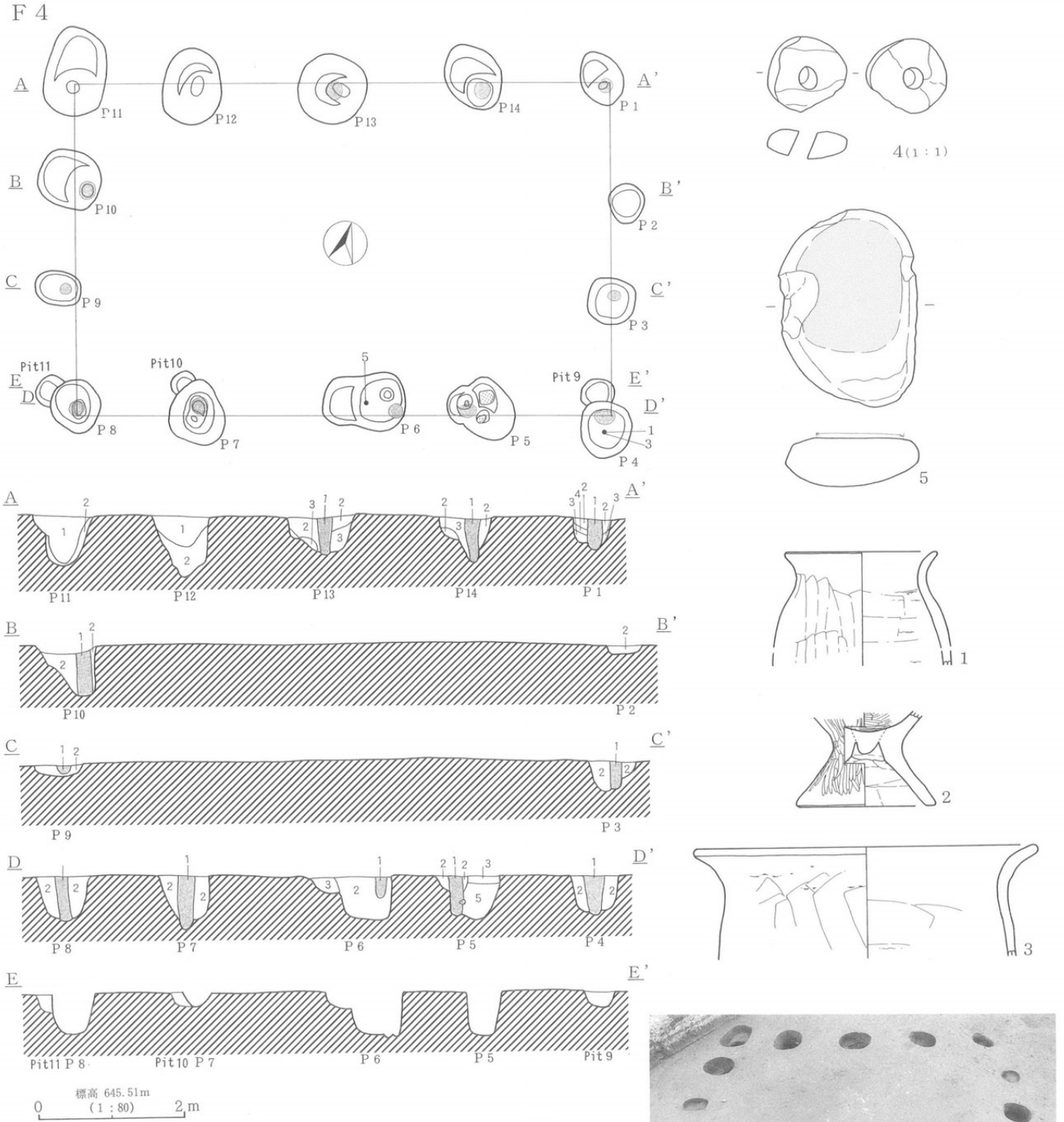
第95図 F3号掘立柱建物址

4) F4号掘立柱建物址 (第96図、第58表、図版三十六・六十六)

3え6グリットにあり、古墳時代後期のH19、弥生時代のH45・H46、F5、単独ピットP9・10・11を切る。4間×3間の東西棟で、長軸方位はN-70°-Wを指す。桁行き736cm、梁行き452cmの側柱式である。柱穴は円形ないし隅丸方形を呈し、長径54~117cm、深さ13~86cmを測る。南の列に重複する単独ピットP9~11は旧ピット列であろうか。径20~28cmの円形の柱痕がみられた。掲載遺物は土師器甕(1・3)、弥生式土器の台付甕(2)、滑石製白玉(4、P4出土)、砂岩製編物石(5、P6出土)がある。

5) F5号掘立柱建物址 (第97図、図版三十六・六十六)

3え5グリットにあり、弥生時代のH46を切り、F4に切られる。2間×2間の側柱式である。東西が桁行きで400cm、梁行き368cmを測る。長軸方位はN-53°-Wを指す。柱穴は楕円形で長径58~90cm、深さ34~48cmを測る。柱痕が検出されている。伴う遺物はない。

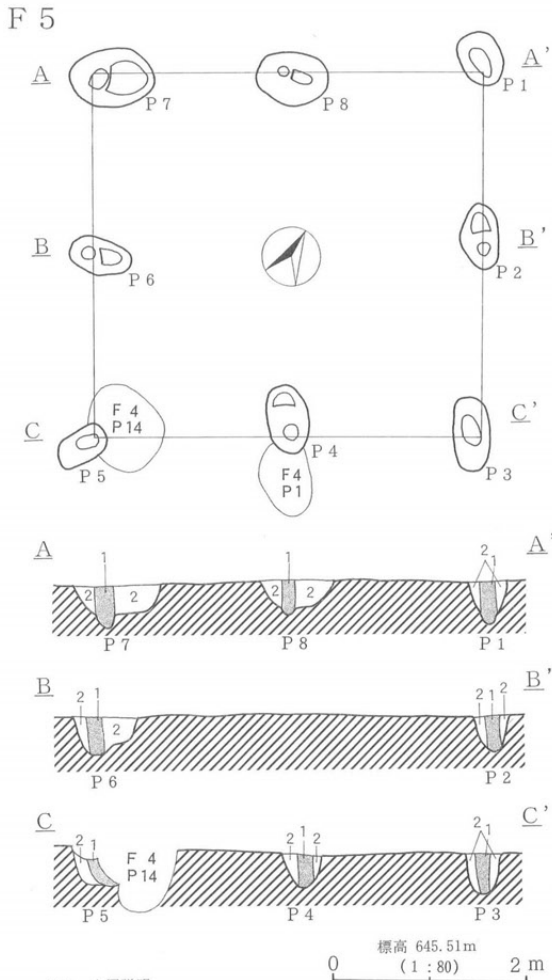


F 4 土層説明

- 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 焼土・炭化物粒子含む。(柱痕)
- 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色 (10YR3/3) 砂ブロック・焼土ブロック多く含む。
- 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂ブロック多く、焼土粒子含む。
- 4. 暗褐色土層 (10YR3/3)
- 5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 焼土・炭化物粒子含む。

F 4号掘立柱建物址 (北より)

第96図 F 4号掘立柱建物址

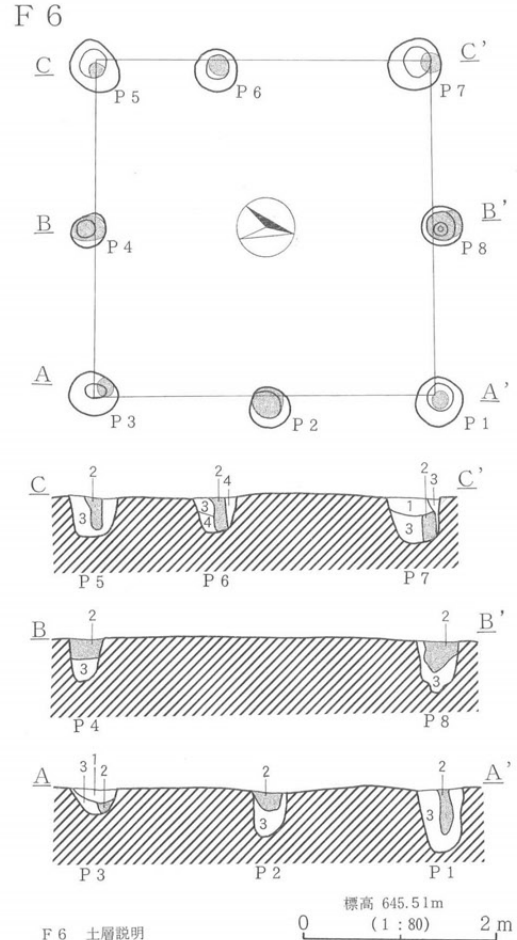


F5 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 暗褐色 (10YR3/3) 砂含む。(柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土多量に含む。

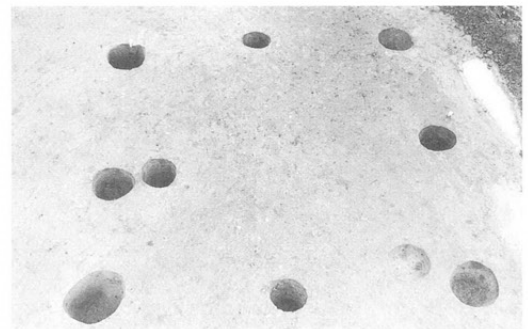


F5号掘立柱建物址 (北より)



F6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/1)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 暗褐色 (10YR3/3) 砂含む。(柱痕)
3. 暗褐色土層 (10YR3/3) にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 多量にブロックで混じる。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 暗褐色土 (10YR3/3) 多く含む。



F6号掘立柱建物址 (南より)

6) F6号掘立柱建物址 (第97図、図版三十六・六十六)

3い7グリットにあり、弥生時代のH45・M2を切っている。2間×2間で側柱式である。軸方位はN-23°-Wである。一辺352cmの方形を呈する。ピットは円形基調で長径24~56cm、深さ30~68cmを測り、柱痕が検出された。

出土遺物は土器破片があり、弥生時代の甕・無彩のへら描文のある壺、赤色塗彩される杯などが50片ほどある。土師器は古墳時代後期の長胴甕口縁部片・土師器杯の底部ヘラケズリ、内面ナデ調整の模倣杯の破片が8点ほどある。

7) F 7号掘立柱建物址 (第98図、図版三十六・六十六)

6く3グリットにあり、重複関係はない。2間×1間の東西棟ではある。南中央のピットが掘立柱建物址の内側に入り込み、定位置にない。桁行き384cm、梁行き300cm、長軸方位はN-90°を指す。P 3・P 6から古墳時代後期の橙色の須恵器模倣杯片と、内面ミガキ外面口縁部横ナデ底部ヘラケズリされる杯片がある。後者は内面で屈曲し稜を持って口縁が外傾する。

8) F 8号掘立柱建物址 (第98図、図版三十六・六十六)

6こ3グリットにあり、重複関係はない。2間×1間の南北棟で、桁行き320cm、梁行き256cm、長軸方位N-29°-Eを測る。不規則な柱穴配列である。柱穴は径7~13cm、深さ11~22cmを測る。出土遺物はない。

9) F 9号掘立柱建物址 (第98図、第58表、図版三十七・六十六)

2い9グリットにあり、重複関係はない。3間×3間の側柱式である。桁行き472cm、梁行き416cmの東西棟である。長軸方位はN-90°である。柱穴は円形で、径58~74cm、深さ27~53cmを測り柱痕が検出された。出土遺物は土師器と弥生式土器の受口状の甕、無彩の壺片が23片ある。掲載資料はP 2から出土し古墳時代のミガキの施された丸胴甕である。球形を呈すであろう胴部片もある。

10) F 10号掘立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6く4グリットにあり、弥生時代末のH51を切る。溝持ちの掘立柱建物址に、北側に新柱穴列が重複する。2間×1間で、旧の溝持ち掘立柱建物址の規模は南北が長く240cm、東西224cmである。新ピット列はやはり南北が長く梁行き280cm、桁行き252cmを測る。長軸方位はN-12°-EとN-15°-Eである。出土遺物はP 5から古墳時代の土師器丸胴甕片、橙色杯片がある。弥生時代後期の櫛描波状文の甕、赤色塗彩破片などもある。

11) F 11号掘立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6あ3グリットにあり、H39に切られる。3間×3間の側柱式である。重複部などで検出できなかったピットもあり、全容は明らかでない。東西560cm、南北470cmの東西棟で長軸方位はN-76°-Wを指す。柱穴は円形で長径36~60cm、深さ20~29cmを測る。出土遺物はない。

12) F 12号掘立柱建物址 (第99図、図版三十七・六十六)

6い2グリットにあり、F20を切る。2間×1間の側柱式である。桁行き472cm、梁行き320cmの南北棟で長軸方位N-13°-Wを指す。柱穴は円形で、径36~65cm、深さ17~29cmを測る。出土遺物は3片土器があるが弥生時代の櫛描波状文の甕片と、古墳時代の土師器甕片がある。

13) F 13号掘立柱建物址 (第100図、第58表、図版三十七・六十六)

6え9グリットにあり、H34に切られる。3間×3間の側柱式である。桁行き460cm、梁行き412cmの東西棟で長軸方位N-90°を指す。柱穴は円形で60~78cm、深さ23~31cmを測る。出土遺物は弥生式土器とP 2から古墳時代後期長胴甕胴部片がでている。掲載遺物は弥生時代の赤色塗彩された杯(1・2)、蓋(3)、甕(4・5)である。

14) F 14号掘立柱建物址 (第100図、第58表、図版三十七・六十六)

2あ10グリットにあり、一部攪乱の影響を受ける。重複関係はない。3間×3間の側柱式である。桁行き476cm、梁行き392cmの東西棟で、N-88°-Wを指す。柱穴は円形を呈し、径52~71cm、深さ16~46cmを測る。7個のピットに柱痕が検出された。掲載遺物、土器破片もすべて弥生時代の土器である。

15) F 15号掘立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5あ8グリットにあり、M4に切られる。3間×2間の側柱式である。柱穴の配列が不規則である。桁行き580cm、梁行き492cmを測り、長軸方位はN-80°-Wを指す。柱穴は円形で径46~65cm、深さ17~40cmを測る。出土遺物は弥生式土器と土師器片がある。土師器は古墳時代前期のハケ目の残る小型壺、ミガキ黒色処理された古墳時代後期の杯片がある。

16) F 16号掘立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5く2グリットにあり、古墳時代後期のH43に切られる。3間×3間の側柱式である。桁行き456cm、梁行き388cmを測る東西棟で、長軸方位はN-74°-Eを指す。柱穴は円形を呈し、径36~74cm、深さ17~37cmを測る。出土遺物はない。

17) F 17号掘立柱建物址 (第101図、図版三十七)

5か10グリットにあり、南から東は調査区域外であるため掘立柱建物址の規模形態はわからない。柱穴は42~48cm、深さ21~27cmを測る。弥生式土器、古墳時代の土師器の甕片があるが土師器は小片で詳細はわからない。

18) F 18号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

5う5グリットにあり、北側は検出できず、南西だけ判明した。3間×3間の側柱式である。桁行き536cm、梁行き424cmの東西棟で、長軸方位はN-64°-Eを指す。柱穴は径29~64cm、深さ11~26cmを測る。弥生式土器、古墳時代前期の土師器ハケ甕、後期の長胴甕片?などがある。

19) F 19号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

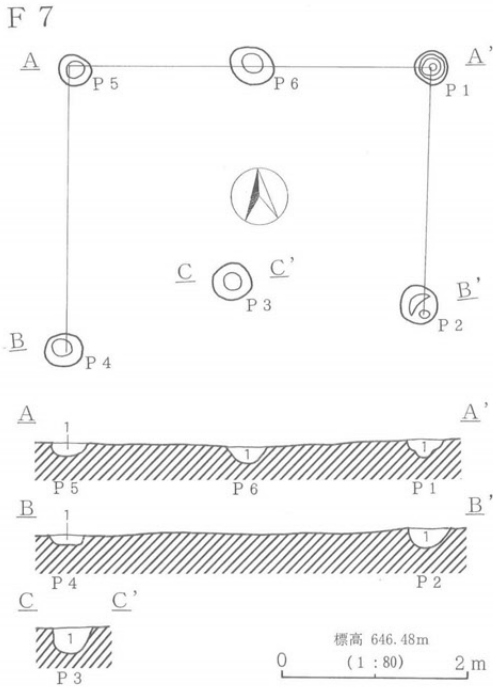
5う7グリットにあり、H1~3を切る。2間×2間の側柱式である。南北376cm、東西352cmを測り、長軸方位はN-2°-Eを指す。柱穴は円形で径30cm~55cm、深さ13~36cmを測る。出土遺物には弥生式土器2片、古墳時代土師器ハケ甕、須恵器カキ目瓶片がある。

20) F 20号掘立柱建物址 (第102図、図版三十七)

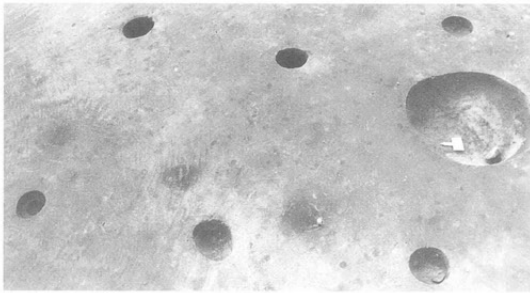
6う1グリットにあり、F12に切られる。2間×2間であるが東列ではその間にもピットがみられる。南北448cm、東西440cmのほぼ方形である。軸方位はN-13°-Wを指す。柱穴は円形で径28~58cm、深さ7~18cmを測る。出土遺物はない。

第58表 掘立柱建物址出土遺物一覧表

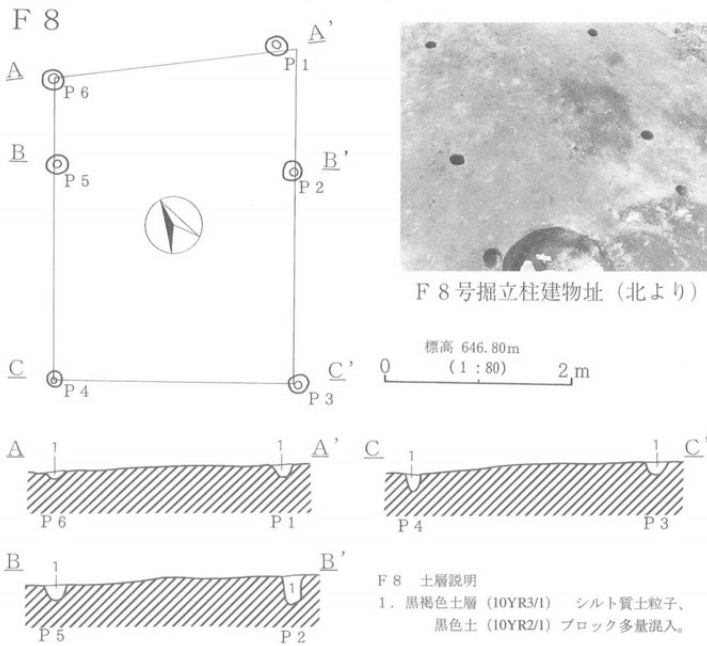
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
F4 1	土師器 甕	(10.6) — <7.8>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ(縦位)	口縁部1/3残存 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子・白色粒子含む。	P8
F4 2	弥生土器 台付甕	— 9.7 <6.5>	内外 杯部ミガキ、脚部ナデ(横ナデ) ミガキ	脚部完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	P12
F4 3	土師器 甕	(23.8) — <7.6>	内外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁部1/8残存 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mm以下の黒色粒子・白色 粒子・赤色粒子・小石・ウンモ 含む。	P4
F9 1	土師器 甕	(16.8) — <5.7>	内外 ミガキ 口辺部横ナデ・口縁部縦位ミガキ	口縁部1/4残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	P2
F13 1	弥生土器 杯	(14.0) — <3.0>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/5残存 濃い赤色塗彩 地の色7.5Y R6/3(にぶい褐)	緻密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F13 2	弥生土器 杯	(13.6) — <4.0>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/4残存 濃い赤色塗彩 地の色7.5Y R6/3(にぶい褐)	緻密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F13 3	弥生土器 蓋	(20.6) — <4.0>	内外 ハケナデ→ミガキ ハケナデ→ミガキ	口縁部1/8残存 2.5Y R6/6(橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	P2
F14 1	弥生土器 甕	— (6.2) <6.0>	内外 ナデ 縦位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	P6
F14 2	弥生土器 甕	— (6.0) <7.2>	内外 横位ミガキ ハケナデ→ミガキ	底部1/3残存 10Y R5/2(灰黄褐)	1mm以下の白色粒子多量含 む。	P6



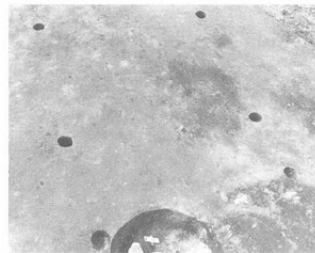
F 7 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土粒子多量混入。



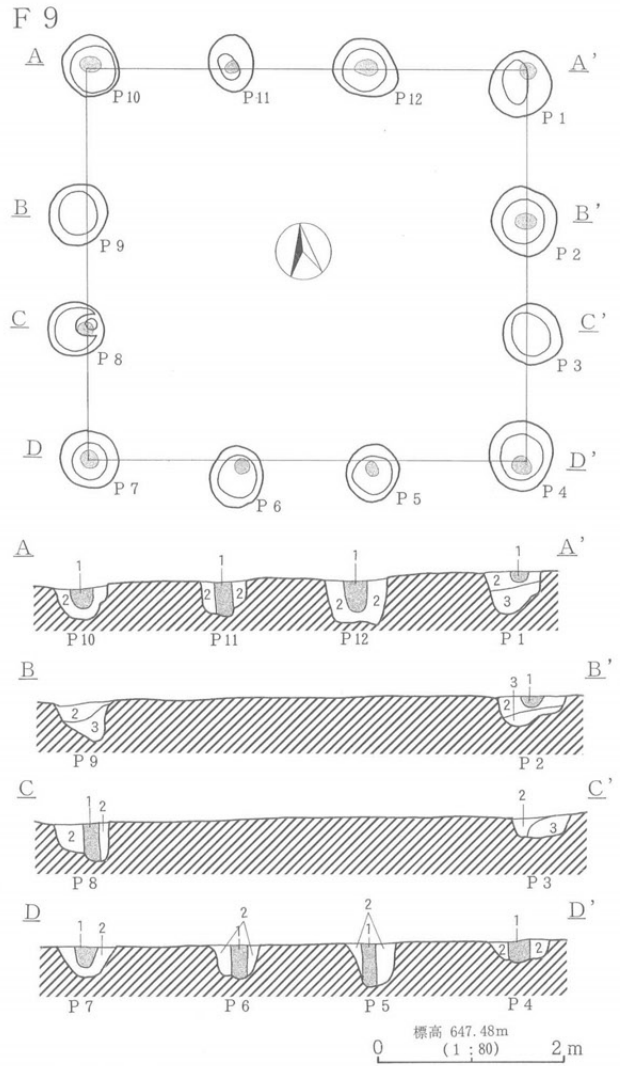
F 7号掘立柱建物址 (北より)



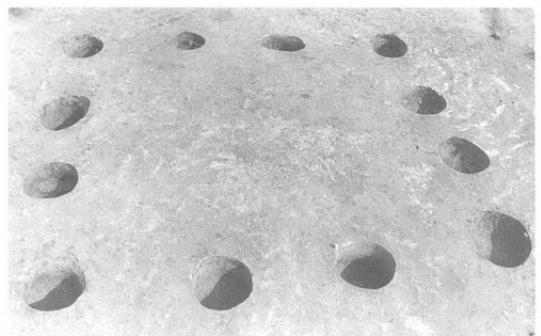
F 8 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) シルト質土粒子、黒色土 (10YR2/1) ブロック多量混入。



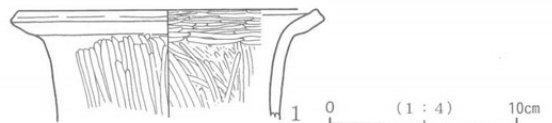
F 8号掘立柱建物址 (北より)



F 9 土層説明
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR3/1) にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 不定大ブロック多量を含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) ・にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混在土層 1cm以下のパミス含む。

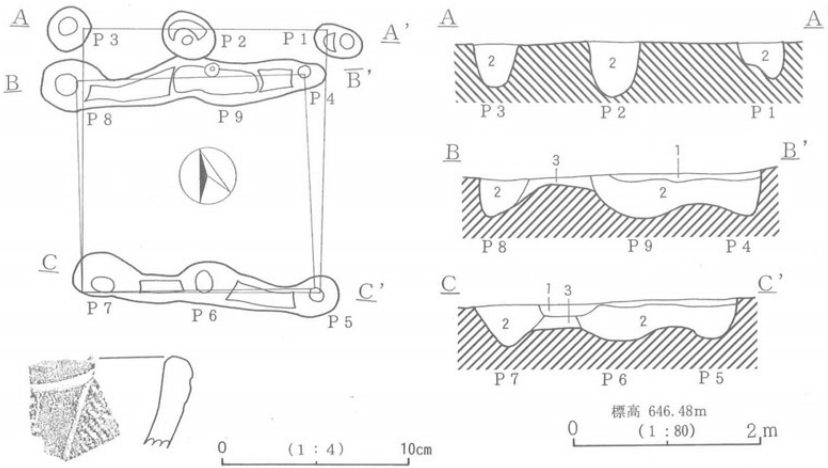


F 9号掘立柱建物址 (南より)



第 98 図 F 7 · F 8 · F 9号掘立柱建物址

F 10



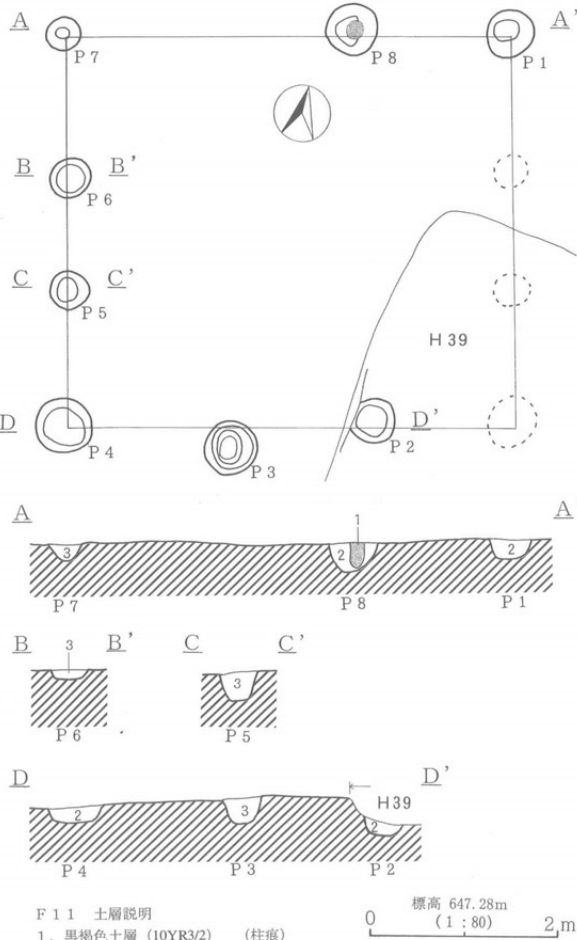
F 10 土層説明

1. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 黒褐色土 (10YR3/1)・にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 混在土層。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 砂粒含む。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂の二次堆積。



F 10号掘立柱建物址 (北より)

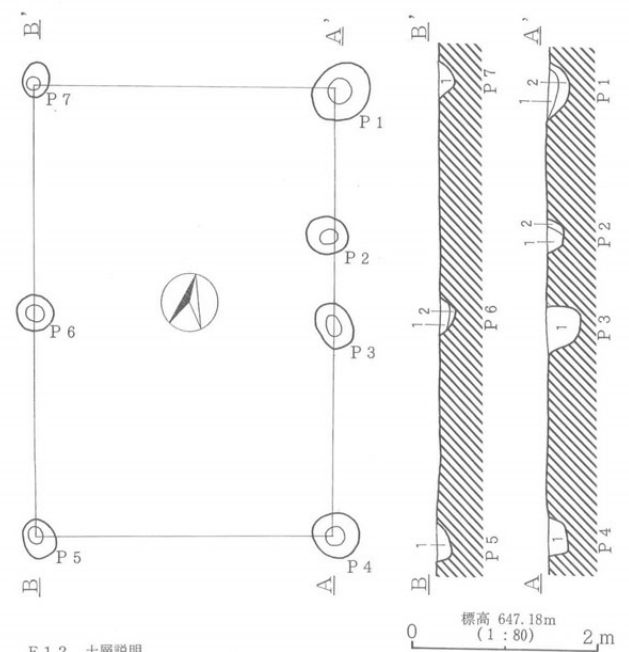
F 11



F 11 土層説明

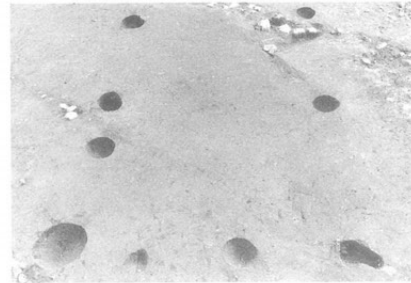
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
3. 褐灰色土 (10YR4/1)・にぶい黄褐色土 (10YR5/3) の混在土層

F 12



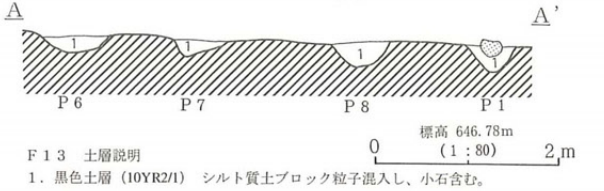
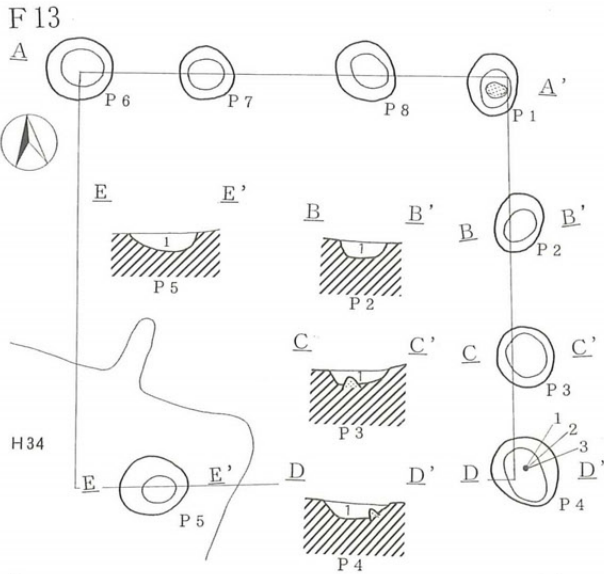
F 12 土層説明

1. 褐灰色土層 (10YR4/1)・にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) の混在土層
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 1mm大バミス・褐灰色土 (10YR4/1) 粒子少量含む。

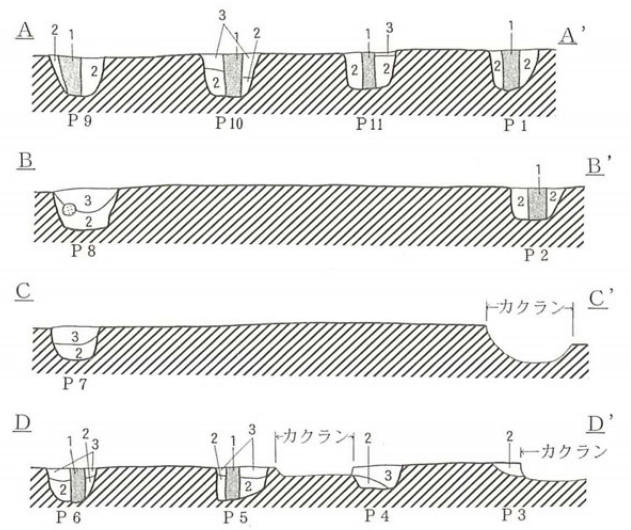
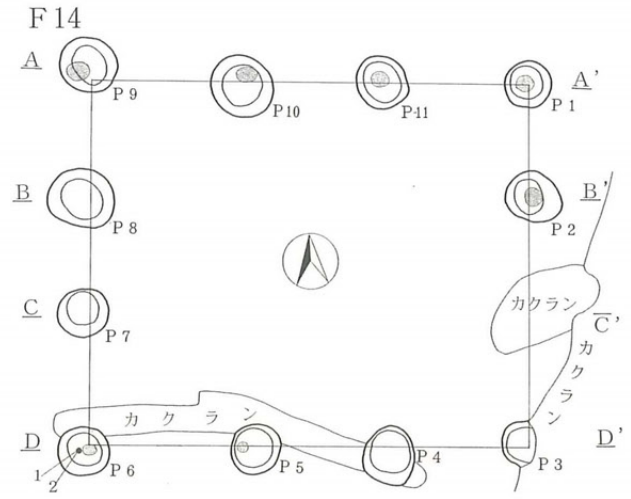
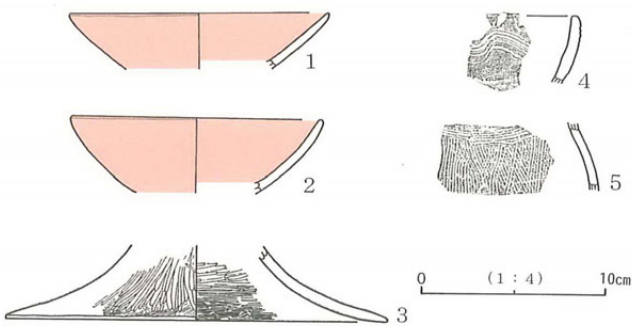


F 12号掘立柱建物址 (北より)

第99図 F 10・F 11・F 12号掘立柱建物址



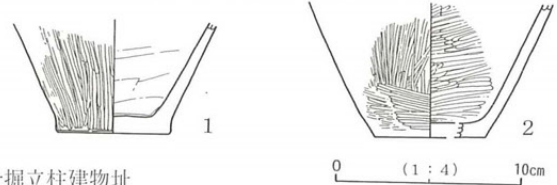
F 13 土層説明
1. 黒色土層 (10YR2/1) シルト質土ブロック粒子混入し、小石含む。



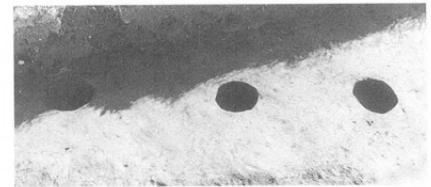
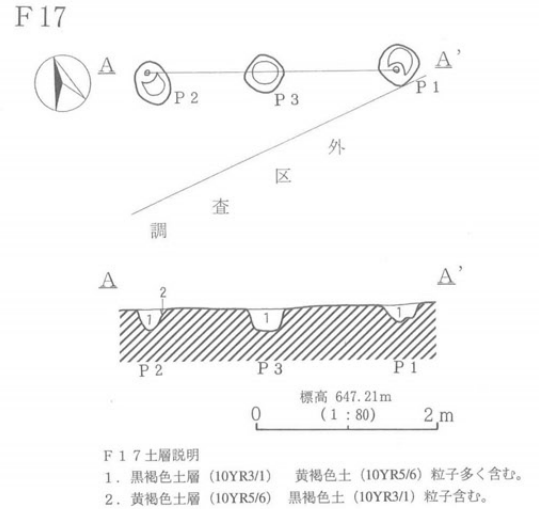
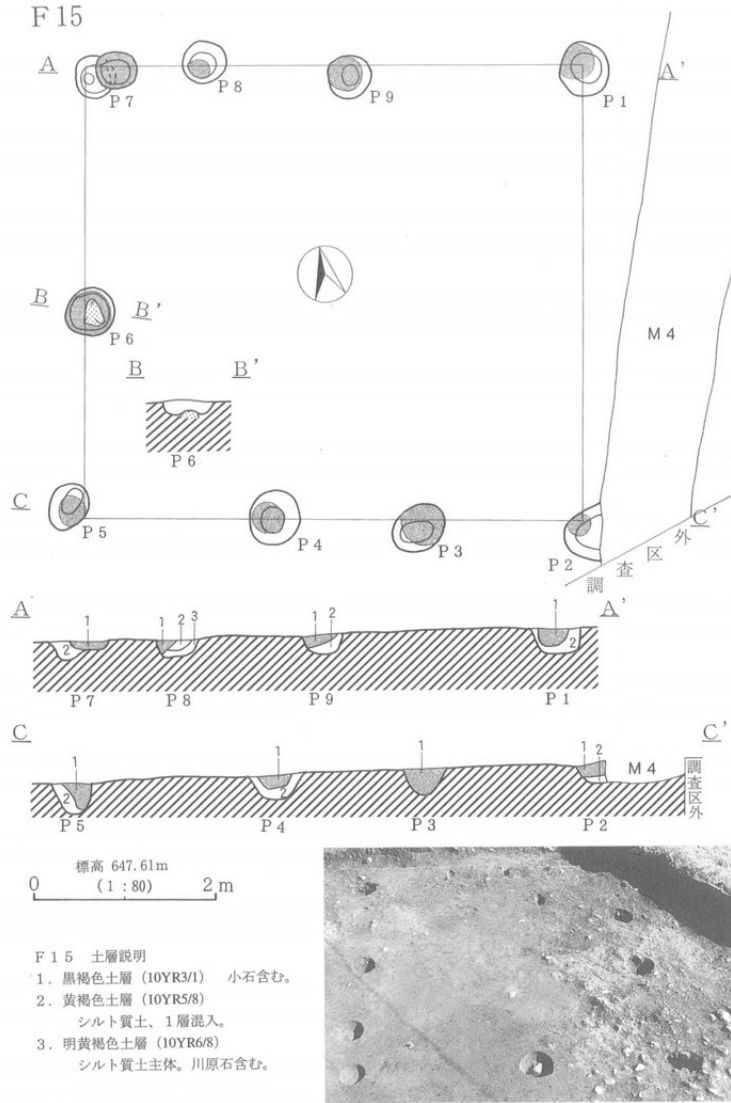
F 14 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) にふい黄褐色土層 (10YR5/3) 不定大ブロック含む。
3. にふい黄褐色土層 (10YR6/4) 黒褐色土層 (10YR3/1) 粒子多量に含む。



F 14 号掘立柱建物址 (西より)



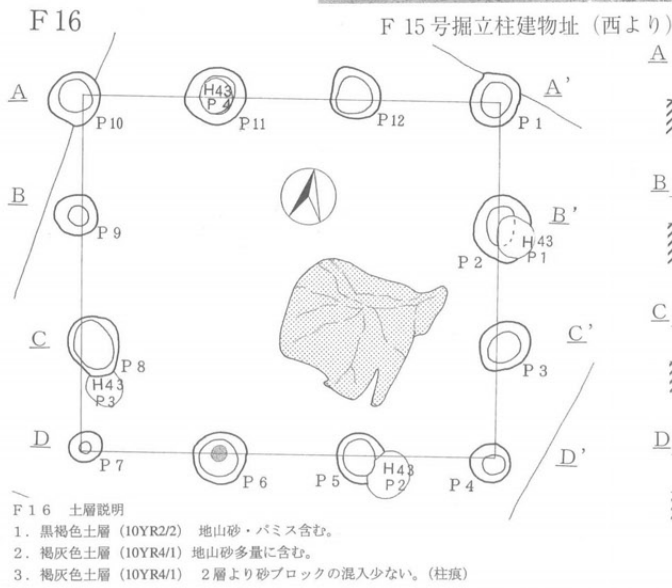
第 100 図 F 13・F 14 号掘立柱建物址



F 17号掘立柱建物址 (北より)

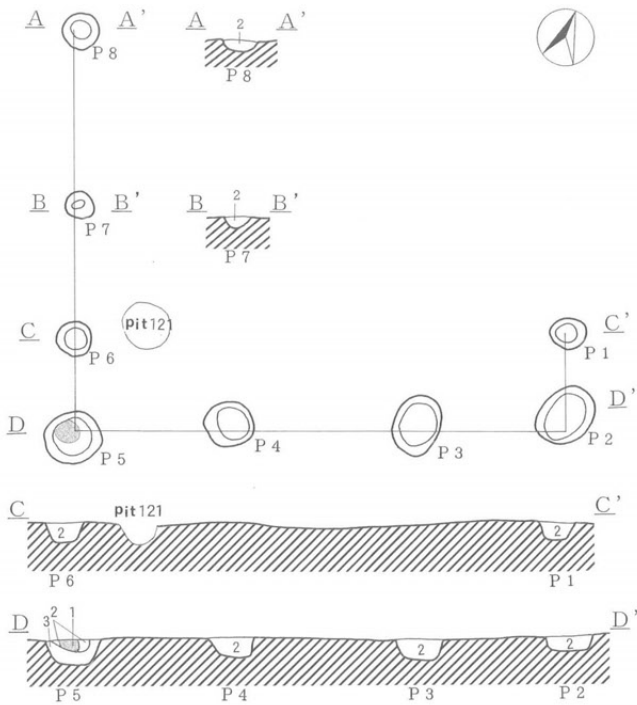


F 16号掘立柱建物址 (南東より)



第101図 F 15・F 16・F 17号掘立柱建物址

F18



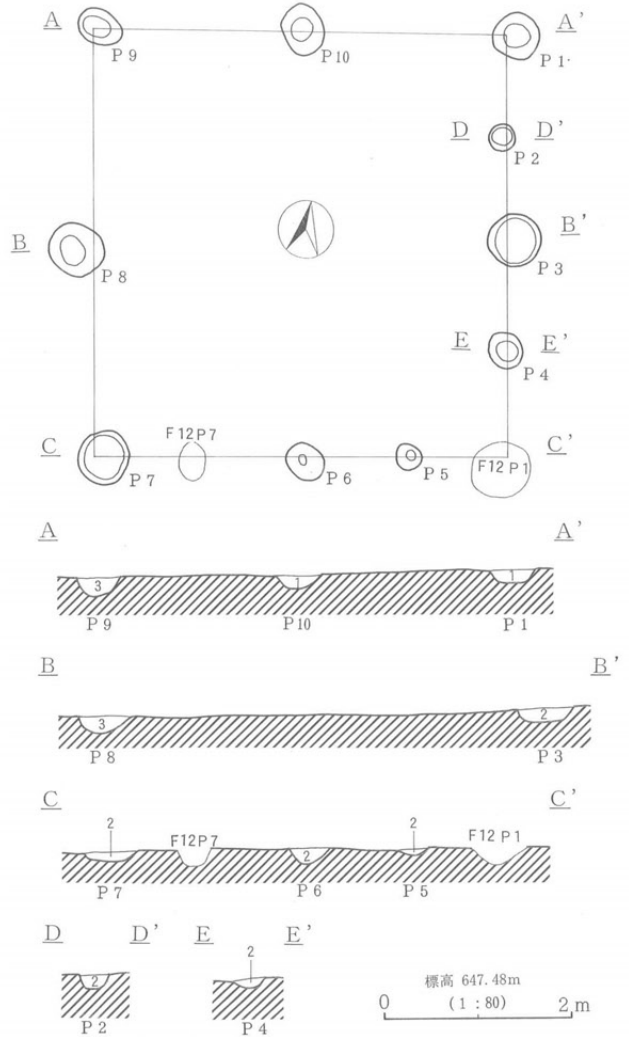
F18 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) (柱痕)
2. 黒褐色土層 (10YR3/1) にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂粒少し含む。
3. 黄褐色土層 (10YR5/6) 砂の二次堆積層。



F18号掘立柱建物址 (北西より)

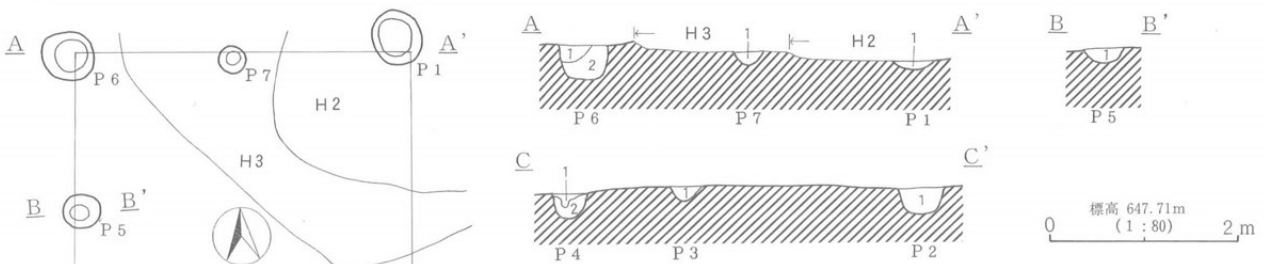
F20



F20 土層説明

1. 褐灰色土層 (10YR4/1) にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 混在層
2. 黄褐色土層 (10YR5/6) ・黒褐色土層 (10YR3/1) 混在層
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) ・黄褐色土層 (10YR5/6) 混在層

F19



F19 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/1) ・にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) の混在層
2. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 黒褐色土 (10YR3/1) 粒子含む。

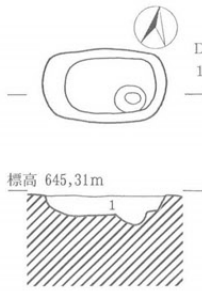


F19号掘立柱建物址 (北より)

第102図 F18・F19・F20号掘立柱建物址

第3節 土坑

D 3



D 3 土層説明
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
黒褐色土 (10YR3/2)・
にぶい黄褐色土 (10YR6/4)
の不定大ブロックを含む。

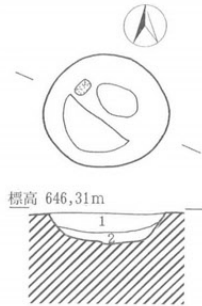


D 3号土坑 (南より)

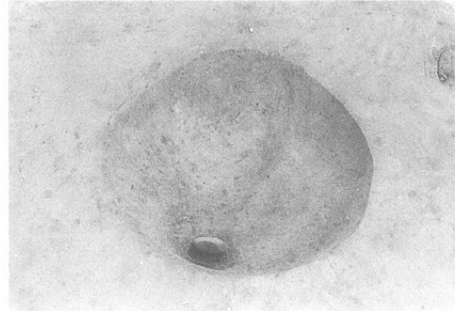
【D 3号土坑】

検出位置 7え4グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
128×75×33cm
平面形 隅丸方形
出土遺物 弥生 甕・壺片
古墳 丸胴甕片

D 6



D 6 土層説明
1. 黒色土層 (10YR2/1)
シルト質土ブロック少量
含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土粒子・砂粒
含む。

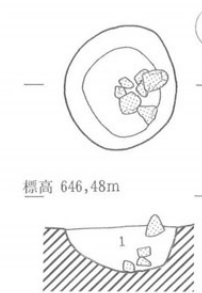


D 6号土坑 (北東より)

【D 6号土坑】

検出位置 6け3グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
128×121×35cm
平面形 円形
出土遺物 弥生 甕・壺片
古墳 長胴甕片

D 7



D 7 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/1)
黄褐色 (10YR5/6) 砂粒
含む。

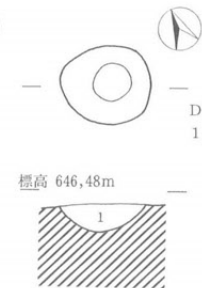


D 7号土坑 (西より)

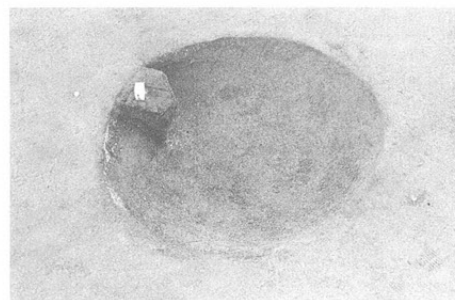
【D 7号土坑】

検出位置 6け2グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
132×116×36cm
平面形 円形
出土遺物 弥生 甕・壺片
古墳 甕片
礫出土

D 10



D 10 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/1)
黄褐色 (10YR5/6) 砂粒
含む。

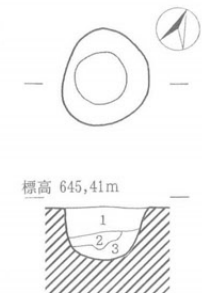


D 10号土坑 (北より)

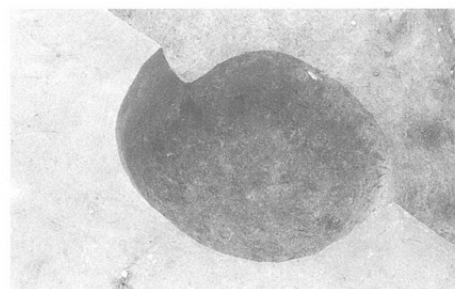
【D 10号土坑】

検出位置 6け2グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
92×84×28cm
平面形 円形
出土遺物 古墳 鉢片

D 11



D 11 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
シルト質土含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
暗褐色砂 (10YR3/3) 含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/3)
褐色砂 (10YR4/4)・シルト
質土多く含む。



D 11号土坑 (北東より)

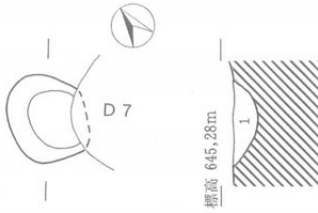
【D 11号土坑】

検出位置 3か8グリット
重複関係 H 17を切る。
規模 (長径×短径×深さ)
96×90×63cm
平面形 隅丸方形
出土遺物 弥生 壺片
古墳 甕・鉢片

0 (1:80) 2m

第103図 古墳時代の土坑 (D 3・D 6・D 7・D 10・D 11)

D12



D12 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/1) シルト質土ブロック・砂含む。

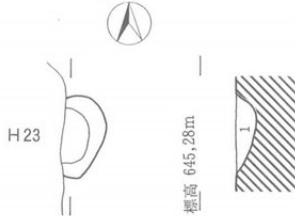


D12号土坑 (北より)

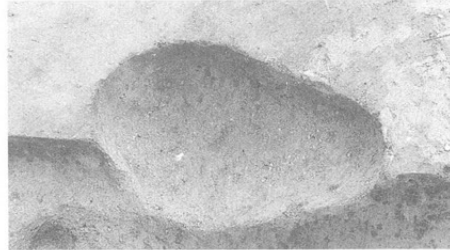
【D12号土坑】

検出位置 6け2グリット
重複関係 D7に切られる。
D17を切る。
規模 (長径×短径×深さ)
94×63×35cm
平面形 楕円形
出土遺物 弥生 甕・壺片
古墳 甕・鉢片

D15



D15 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/1) シルト質土ブロック
砂多量に含む。

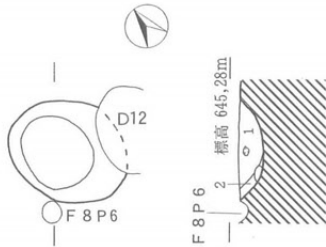


D15号土坑 (西より)

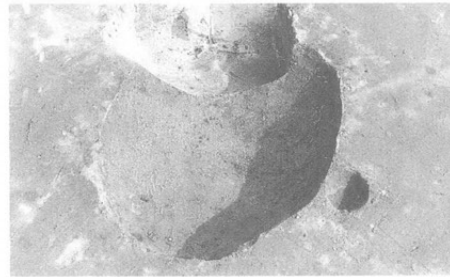
【D15号土坑】

検出位置 6こ3グリット
重複関係 H23に切られる。
規模 (長径×短径×深さ)
86×-×29cm
平面形 楕円形
出土遺物 弥生 甕・壺片
古墳 丸胴甕片

D17



D17 土層説明
1. 黒色土層 (10YR2/1)
シルト質土ブロック・シルト質土粒子含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
ローム粒子多量に含む。

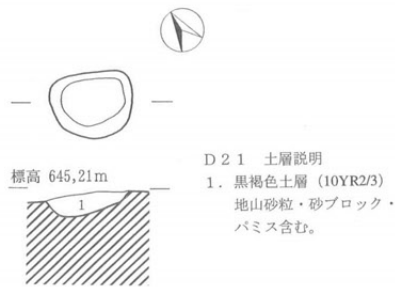


D17号土坑 (西より)

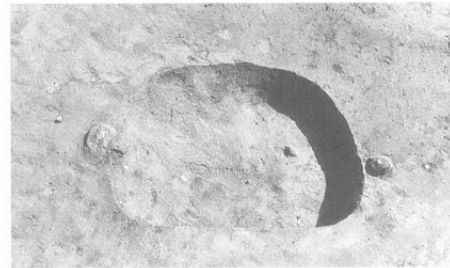
【D17号土坑】

検出位置 6こ2グリット
重複関係 D12に切られる。
規模 (長径×短径×深さ)
106×96×30cm
平面形 円形
出土遺物 弥生 壺・甕片
古墳 甕片

D21



D21 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3)
地山砂粒・砂ブロック・
パミス含む。

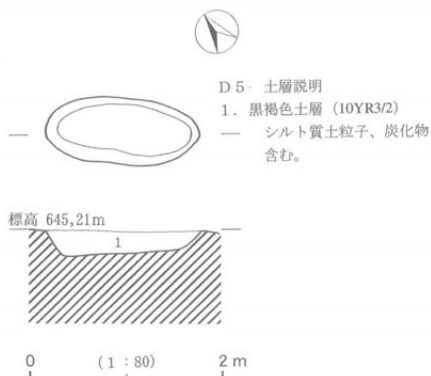


D21号土坑 (北より)

【D21号土坑】

検出位置 6け10グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
86×68×22cm
平面形 楕円形
出土遺物 弥生 甕・杯片
古墳 甕片

D5



D5 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
シルト質土粒子・炭化物
含む。



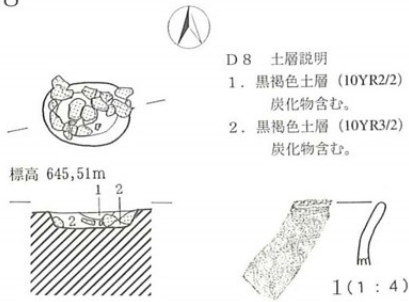
D5号土坑 (北より)

【D5号土坑】

検出位置 7い8グリット
重複関係 なし
規模 (長径×短径×深さ)
158×70×25cm
平面形 長楕円形
出土遺物 弥生 甕・杯片

第104図 古墳時代の土坑 (D12・D15・D17・D21)・弥生時代の土坑 (D5)

D 8



D 8 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2)
 炭化物含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2)
 炭化物含む。

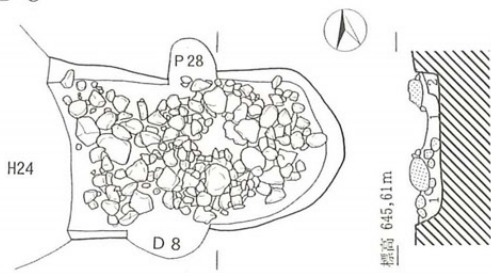


D 8号土坑 (北より)

【D 8号土坑】

検出位置 3い9グリット
 重複関係 D 9を切る。
 規模 (長径×短径×深さ)
 920 × 66 × 21cm
 平面形 楕円形
 出土遺物 弥生 甕片
 礫多数出土

D 9



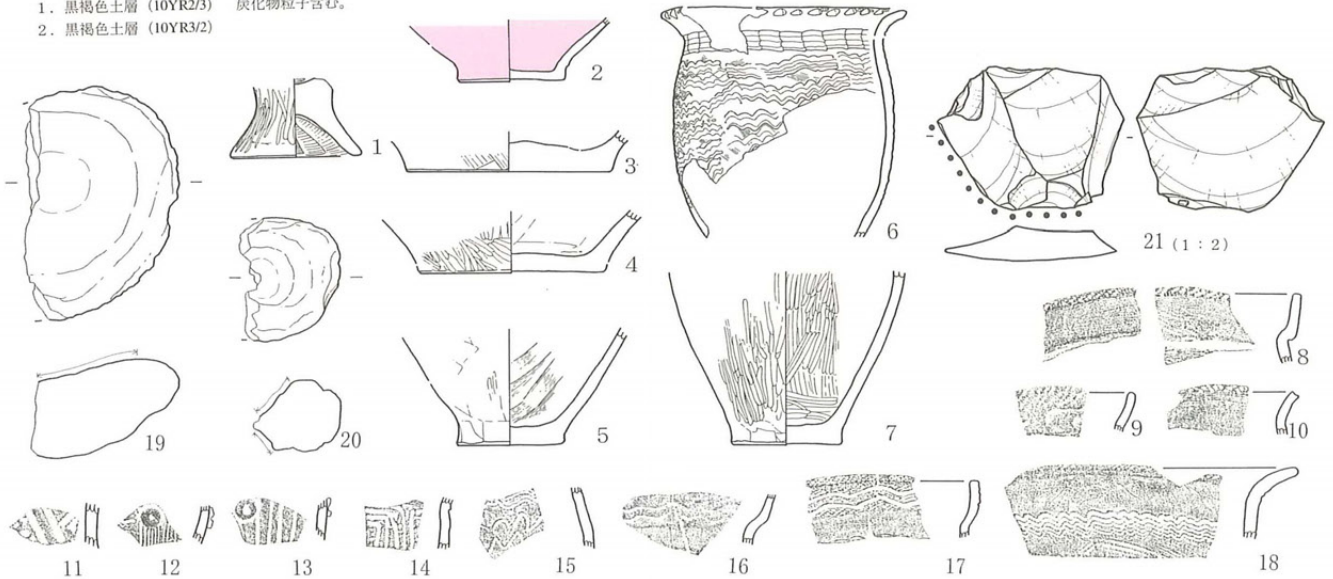
D 9 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物粒子含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2)



D 9号土坑 (南より)

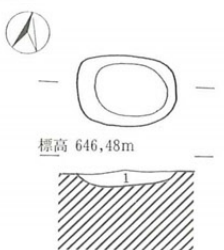
【D 9号土坑】

検出位置 3い9グリット
 重複関係 H 24・D 8に切られ、H 52・M 2を切る。
 規模 (長径×短径×深さ)
 < 290 > × 166 × 31cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 弥生 甕・壺、
 軽石製凹石、剥片石器
 (第59表、図版六十六)



0 (1:4) 10cm

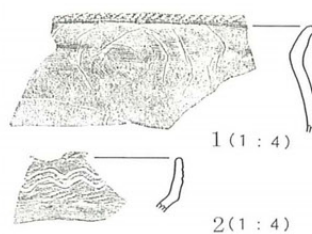
D 18



D 18 土層説明
 1. 黒色土層 (10YR2/1)
 シルト質土含む。



D 18号土坑 (北より)

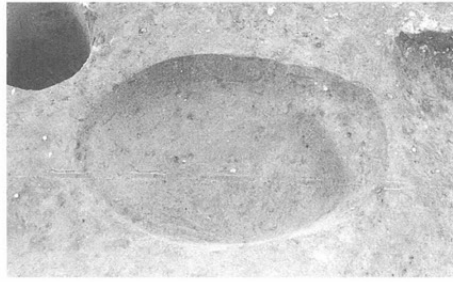
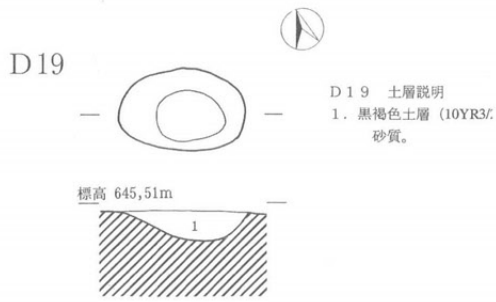


【D 18号土坑】

検出位置 6か5グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 104 × 80 × 14cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 弥生 甕・壺・
 杯片

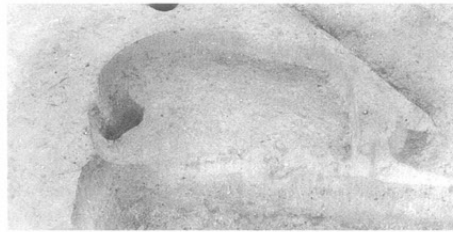
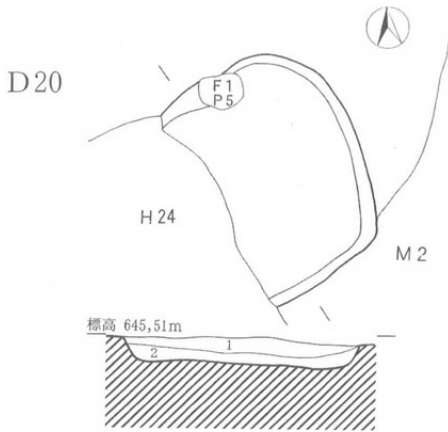
0 (1:80) 2m

第105図 弥生時代の土坑 (D 8・D 9・D 18)



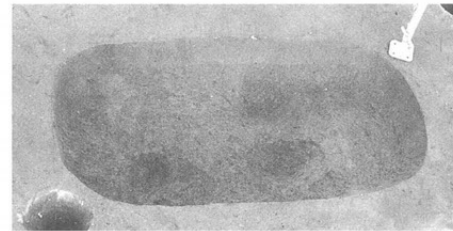
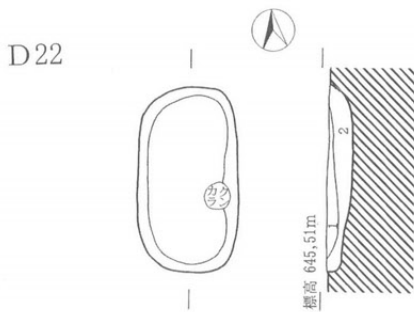
D 19 号土坑 (南より)

【D 19 号土坑】
 検出位置 3い8グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 134×87×33cm
 平面形 隅丸方形
 出土遺物 弥生 壺片



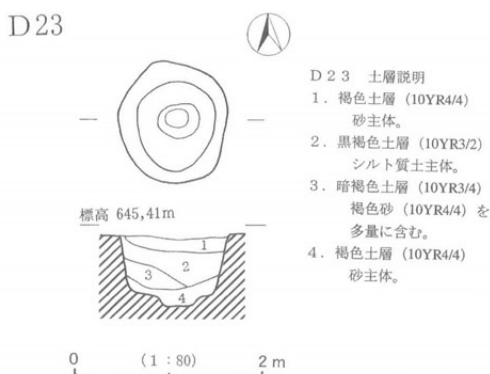
D 20 号土坑 (南西より)

【D 20 号土坑】
 検出位置 3い8グリット
 重複関係 H 24 に切られる。
 規模 (長径×短径×深さ)
 239×<160>×35cm
 平面形 隅丸方形
 出土遺物 弥生 甕片



D 22 号土坑 (西より)

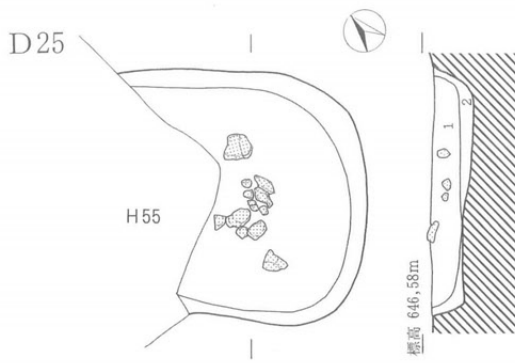
【D 22 号土坑】
 検出位置 3え9グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 197×107×39cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 弥生 甕片



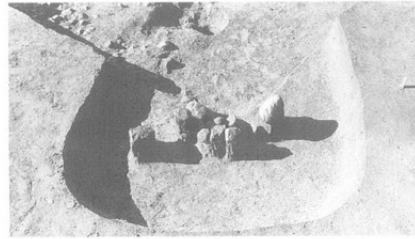
D 23 号土坑 (西より)

【D 23 号土坑】
 検出位置 3か7グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 130×114×77cm
 平面形 円形
 出土遺物 弥生 甕・壺片

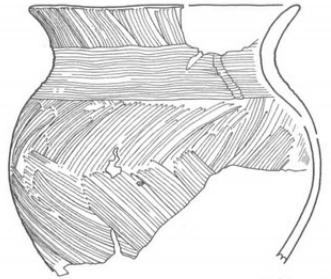
第 106 図 弥生時代の土坑 (D 19・D 20・D 22・D 23)



D 25 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 土器含む。砂質土。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 地山の褐色土 (10YR4/4) を多く含む。



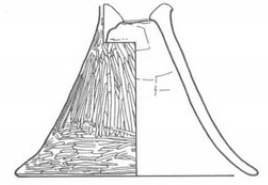
D 25 号土坑 (東より)



1 (1 : 4)

【D 25 号土坑】

検出位置 6お7グリット
 重複関係 H 55 に切られる。
 規模 (長径×短径×深さ)
 262×<159>×43cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 弥生 甕
 礫出土
 (第59表、図版六十六)



2 (1 : 4)



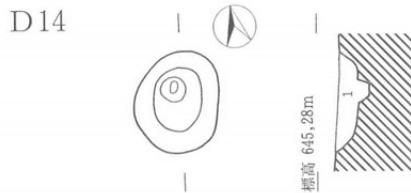
D 13 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR3/1) シルト質土粒子・砂含む。



D 13 号土坑 (東より)

【D 13 号土坑】

検出位置 6こ3グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 143×107×22cm
 平面形 楕円形
 出土遺物 なし



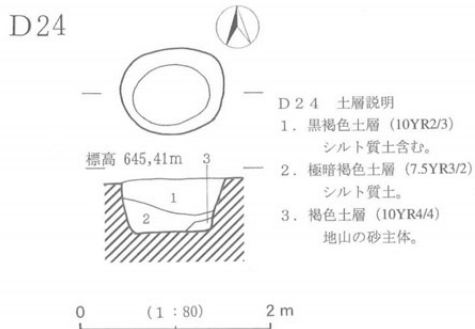
D 14 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土ブロック・砂含む。



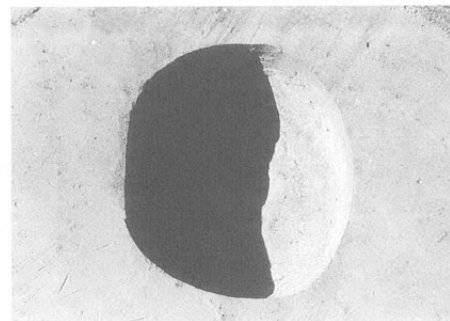
D 14 号土坑 (北より)

【D 14 号土坑】

検出位置 6こ2グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 110×86×38cm
 平面形 楕円形
 出土遺物 なし



D 24 土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) シルト質土含む。
 2. 極暗褐色土層 (7.5YR3/2) シルト質土。
 3. 褐色土層 (10YR4/4) 地山の砂主体。



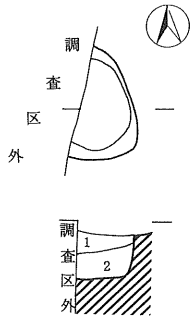
D 24 号土坑 (東より)

【D 24 号土坑】

検出位置 3か7グリット
 重複関係 なし
 規模 (長径×短径×深さ)
 109×94×59cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 なし

第107図 弥生時代の土坑 (D 25)・時代不詳の土坑 (D 13・D 14 D 24)

D26



- D26 土層説明
1. 褐色土層 (10YR4/4) 砂主体。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) シルト質土含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) シルト質土・地山砂多く含む。

【D26号土坑】

検出位置 7え4グリット
 重複関係 西側は調査区外
 規模 (長径×短径×深さ)
 120×<60>×61cm
 平面形 隅丸長方形
 出土遺物 なし

第108図 時代不詳の土坑 (D26)

第59表 土坑出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
D9 1	弥生土器 台付甕	— 7.0 <4.1>	内外 甕部ミガキ 台部ハケナデ ミガキ	底部3/4残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	
D9 2	弥生土器 壺	— 5.7 <3.3>	内外 ミガキ→赤色塗彩(一部黒色化) ミガキ→赤色塗彩・底部ミガキ	底部完形 淡い赤色塗彩 地の色10Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 3	弥生土器 壺	— (11.0) <2.1>	内外 剥離・摩耗のため判別できず。 ハケナデ・底部ナデ	底部1/3残存(剥離・摩耗) 10Y R7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 4	弥生土器 壺	— (9.8) <3.2>	内外 ナデ ミガキ・底部ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R7/2(明褐灰)	緻密。1mm以下の白色粒子・ 赤色粒子少量含む。	
D9 5	弥生土器 壺	— 5.8 <6.1>	内外 ハケナデ ナデ→ミガキ	底部完形 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子少量含 む。外面の磨耗著しい。	
D9 6	弥生土器 甕	13.1 <12.1>	内外文 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口唇部縄文を施した後、指頭による押捺 が施される。 頸部4本1組とする櫛描簾状文(等間隔め) を施す。 胴部3~4本1組とする櫛描波状文を施す。	口縁部1/2残存 5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子含む。	
D9 7	弥生土器 甕	— (5.8) <9.1>	内外 ミガキ ナデ→ミガキ	底部1/2残存 10Y R6/2(灰黄褐)	緻密。	
D25 1	弥生土器 甕	14.4 <14.2>	内外文 ミガキ 胴下部ミガキ 頸部11本1組とする櫛描簾状文を2条(2 連止め)。 口縁部・胴部8本~16本を単位とする櫛 描斜走平行線文?	口縁部2/3残存 7.5Y R6/4(にぶい橙)	緻密。	
D25 2	弥生土器 高杯	— 13.0 <9.0>	内外 横ナデ ミガキ	脚部完形 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子多く含 む。	

1. 古墳時代の土坑

古墳時代の土器片を出土する土坑10基をまとめてみた。D3・D5は長方形ないし楕円形である。他は円形基調、径100cm前後、深さ30cm、(D11は63cm)と全般に深いものである。これらの土坑は6ヶ2グリットにまとまっており、形態のはっきりしない掘立柱建物址があるが堅穴住居址はなく、住居址群の中間に存在している。

2. 弥生時代の土坑

8基の弥生時代までの土器を出土する土坑をまとめた。しかし、たまたま古墳時代の土器片を含まなかった可能性もあるため、その帰属は不確実である。D9号土坑は多数の礫と弥生時代中期の土器、軽石製凹石、剥片石器を出土している。隅丸長方形を呈し底面は平坦である。D20・D25は隅丸長方形で底面が平坦である。D2からは弥生時代後期末の甕と土師器高杯が出土する。

第4節 溝址

1) M1号溝址 (第109図、第60表、図版六十六・六十七)

3う5グリットから3お9グリットにかけて検出された。古墳時代後期のH19・F2・3に切られ、弥生時代中期のH45・H50を切る。ほぼ直線で全長19.5m、幅1.2~2.1m、深さ18cmを測る。溝底の高低は10cmほど北に低くなる。

掲載遺物は弥生式土器鉢(1)、甕(2~4・6)、台付甕(7)、壺(5・9)、軽石製凹石(10)、扁平片刃石斧(8)がある。これらは弥生時代中期の土器群である。

2) M2号溝址 (第110図、第60表、図版六十七)

3い6グリットから3い9グリットにかけて湾曲して検出された。F1・F6・D9・D20に切られる。全長約13m、幅1.15~1.5m、深さ16~23cmを測る。溝底の高低は10cm前後北に低い。

掲載遺物は弥生式土器甕(1~4・6~15)、壺(7~18)、剥片(19)がある。

3) M3号溝址 (第111図、第60表、図版六十七)

3か9グリットから3き10グリットにかけて湾曲した形態で検出された。古墳時代後期のH17・35に切られる。重複のため全容はつかめない。残長約9.5m、幅2.7m~1.3m、深さ13~22cmを測る。溝底の高低は北に9cmほど低い。出土遺物は弥生式土器の外面赤色塗彩された小型壺(1)である。

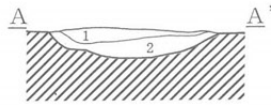
4) M4号溝址 (第112図、第60表、図版六十七)

4け6グリットから4こ9グリットかけてほぼ南北に直線的に検出されている。溝幅は1mほどの浅い溝である。出土遺物には弥生式土器の壺(2)、古墳時代後期の土師器杯(1)が出土している。

第60表 溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
M1 1	弥生土器 鉢	(20.2) (8.2) 8.4	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/5残存 赤色塗彩 地の色 7.5Y R8/2(灰白)	緻密。口縁部に2コの穿孔あり。焼成後穿孔。	
M1 2	弥生土器 甕?	(25.0) — <12.0>	内 ハケナデ→横位ミガキ 外 ハケナデ 文 5本1組とする櫛描斜走文	口縁部1/2残存 2.5Y 7/2(灰黄)	緻密。	
M1 3	弥生土器 甕	18.2 — <16.9>	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→ミガキ 外 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 文 口唇部縄文。 頸部8本1組とする櫛描波状文。 胴部6~8本1組とする櫛描斜状文(羽状、右廻り)	口縁部3/4残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子含む。	
M1 4	弥生土器 甕	15.2 — <10.5>	内 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ→ミガキ 外 口縁部横ナデ・胴部ナデ 文 口唇部縄文。口縁部・胴部6~7本を1組とする櫛描波状文。口縁部に等間隔に4コ、ボタン状の貼付文。胴部中央にも同様の貼付文(何かかわからない)	口縁部完形(摩耗) 2.5Y R7/4(淡赤橙)	1mmの白色粒子含む。	3お9G
M1 5	弥生土器 壺	— 9.6 <15.4>	内 ハケナデ 外 ナデ→ミガキ	底部完形(内面剥離) 10Y R8/3(浅黄橙)	緻密。1mmの黒色粒子含む。	
M1 6	弥生土器 甕	— (6.2) <4.1>	内 ナデ→ミガキ 外 ナデ→ミガキ	底部1/4残存 7.5Y R4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子少量含む。	
M1 7	弥生土器 台付甕	— (7.4) <5.2>	内 甕部ナデ→ミガキ 脚部ハケナデ→ミガキ 外 ナデ→ミガキ	底部1/3残存(摩耗) 7.5Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	
8	欠番					
M1 9	弥生土器 壺	— — <11.5>	内 横位ハケナデ 外 胴部中央横位ミガキ→胴上半部縦位ミガキ(わずかに赤色塗彩残る) 文 胴部中央に縄文	胴部破片 7.5Y R6/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子含む。	検出

第4節 溝址

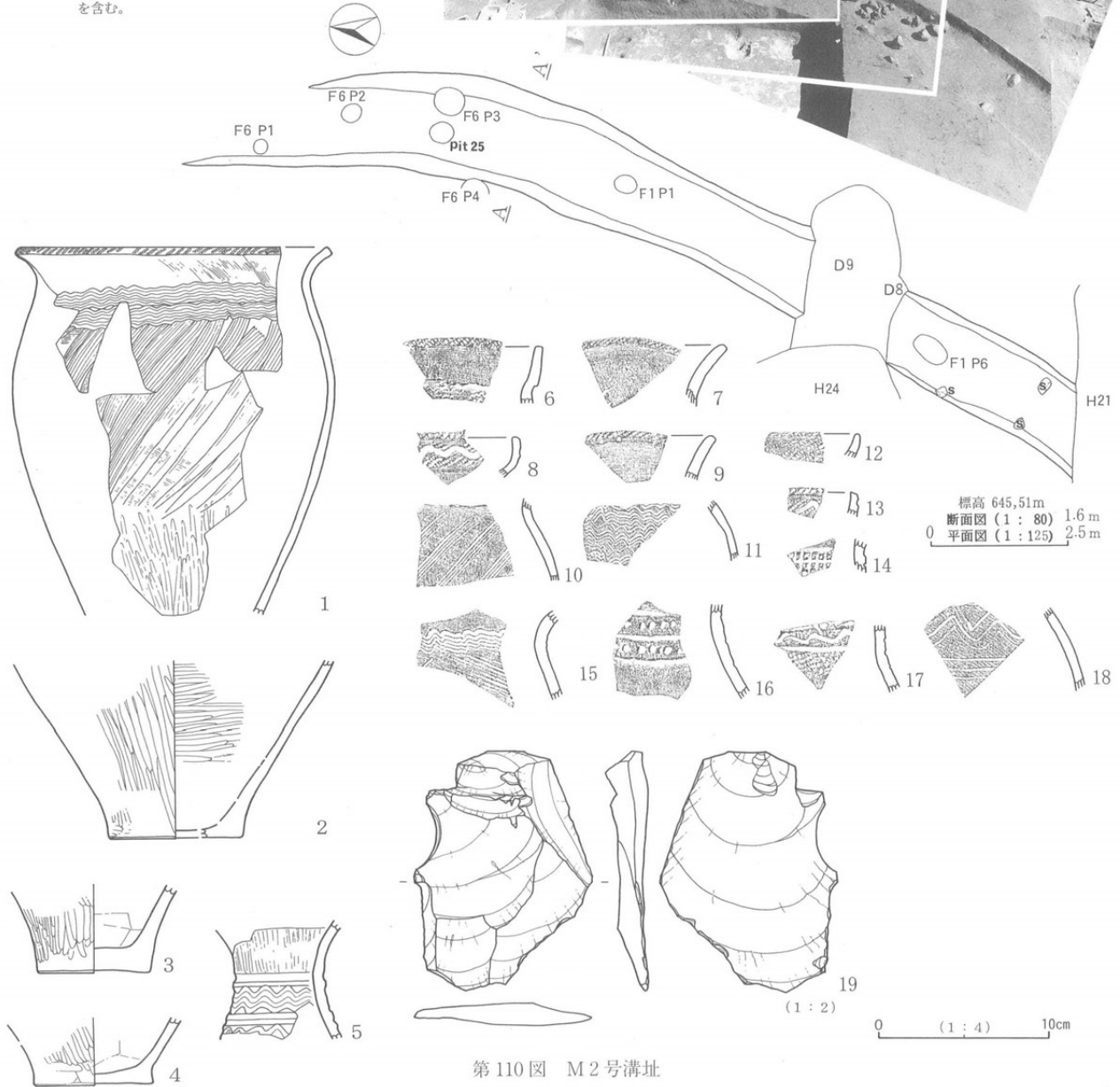


M2土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質。
2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質。暗褐色土 (10YR3/3) を含む。



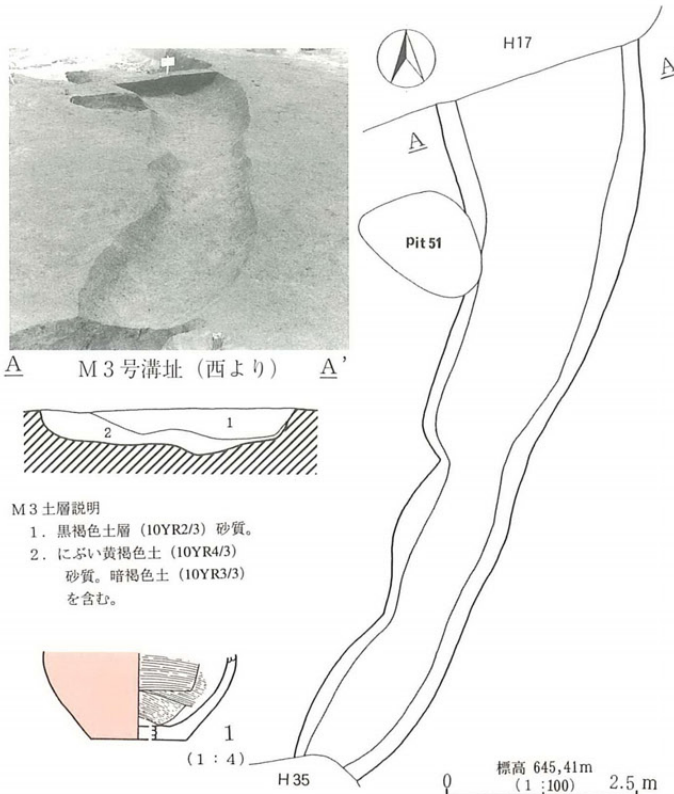
M2号溝址 (西より)



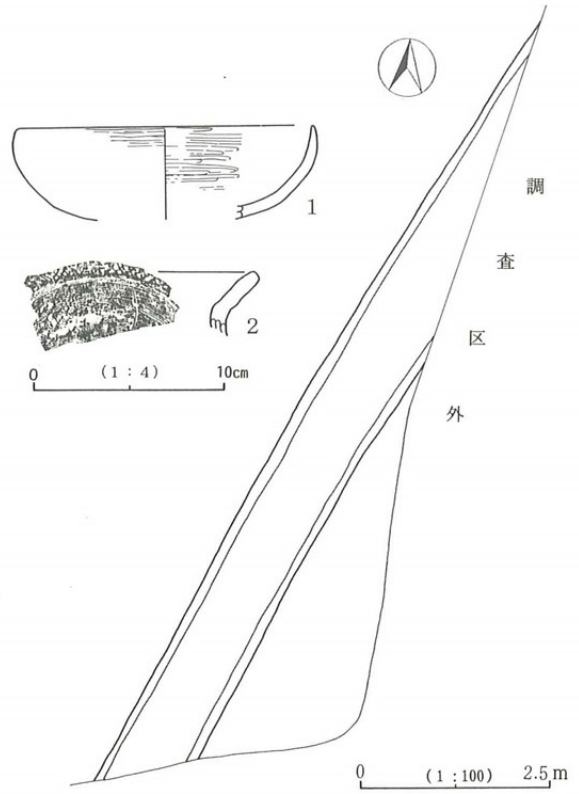
第110図 M2号溝址

第60表 溝址出土遺物一覧表 (1)

M2 1	弥生土器 甕	(18.4) — 21.3	内外 文	口縁部横ナデ・胴部ハケナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ・胴下半部 縦位ミガキ 口唇部縄文 頸部6本1組とする櫛描波状文を2条 胴部6本1組とする櫛描斜走文	口縁部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	
M2 2	弥生土器 甕	(7.8) — <10.2>	内外	横位ミガキ 縦位ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子含む。	
M2 3	弥生土器 甕	(6.6) — <5.1>	内外	ヘラナデ→ミガキ 縦位ミガキ	底部2/3残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	



第111図 M3号溝址



第112図 M4号溝址

M3土層説明
 1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質。
 2. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質。暗褐色土 (10YR3/3) を含む。

第60表 溝址出土遺物一覧表(2)

M2 4	弥生土器 甕	7.0 -<3.8>	内外 ミガキ ミガキ	底部完形 7.5Y R8/4(浅黄橙)	緻密。1mm以下の赤色粒子・ 黒色粒子・白色粒子含む。
M2 5	弥生土器 壺	- <6.9>	内外 文 ナデ・口縁部ミガキ 口縁部ミガキ 4本1組とする櫛描波状文とヘラ描横走 平行線文で区切る。	破片 10Y R8/2(灰白)	1mm以下の白色粒子多量含 む。
M3 1	弥生土器 壺	(5.0) -<4.5>	内外 ハケナデ ミガキ→赤色塗彩	底部約1/2残存(摩滅) 外面 濃い赤色塗彩 地の色 10Y R8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。
M4 1	土師器 杯	(16.0) -<4.8>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/5残存 2.5Y R7/6(橙)	赤色粒子含む。 内外面共付着物あり。

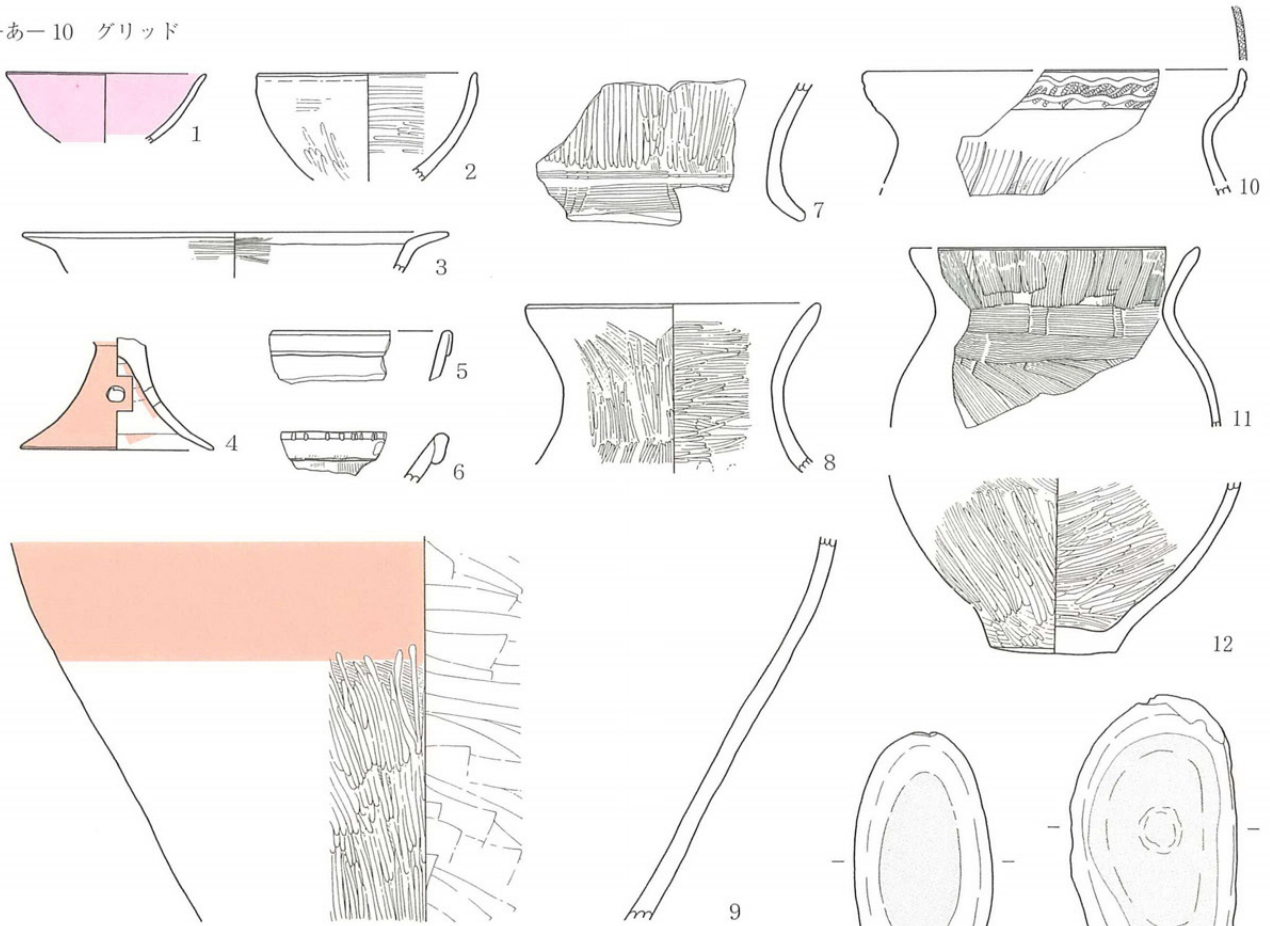
第5節 グリッド・検出面・表採遺物

(第113・114・115・116図、第61表、図版六十七・六十八・六十九)

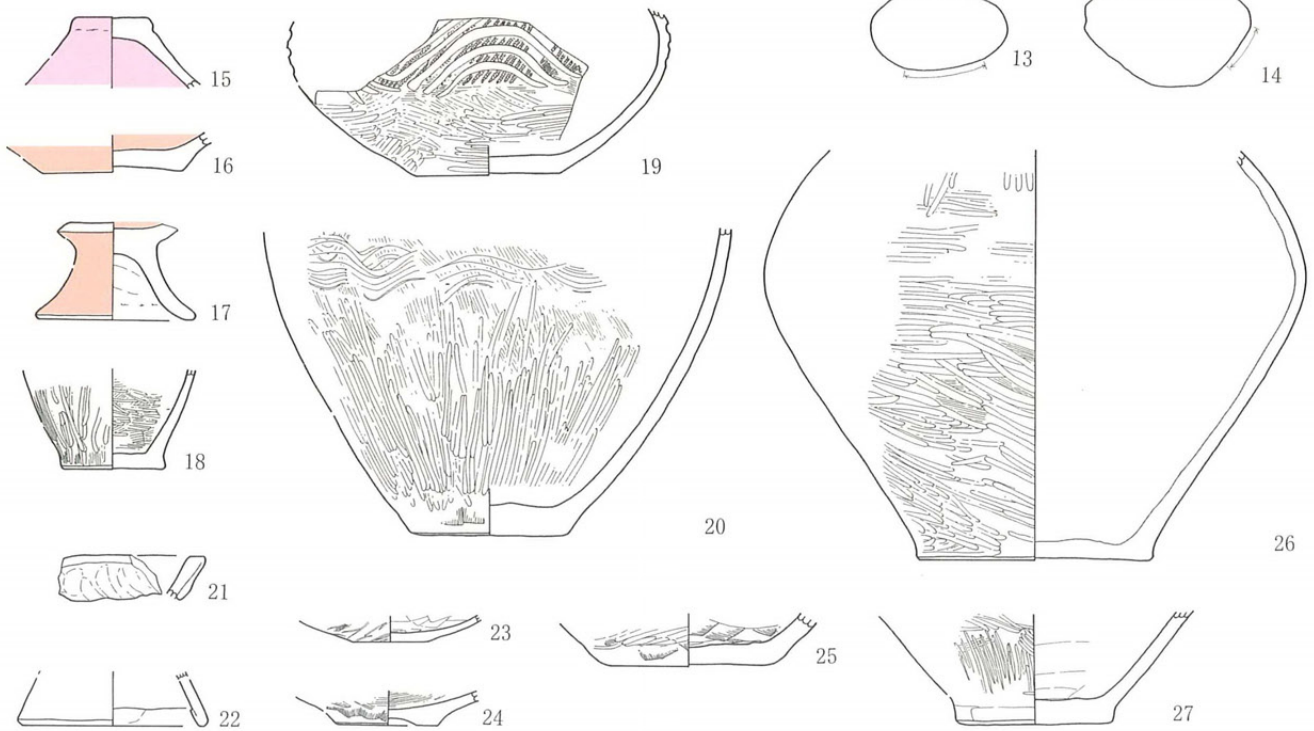
第61表 グリッド・検出面・表採出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 椀	(10.6) -<3.6>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/3残存 淡い赤色塗彩10R4/8(赤)	0.5mm以下の白色粒子を少 量含む。	7あ10G
2	弥生土器 椀	11.6 -<5.5>	内外 ミガキ ミガキ	口縁部1/3残存 10Y R8/3(浅黄橙)	0.5mm以下の白色粒子を多 く含む。 赤色塗彩色変か	7あ10G
3	弥生土器 高杯	(22.4) -<2.1>	内外 横ナデ→ミガキ 横ナデ→ミガキ	口縁部1/6残存	1mm以下の白色粒子含む。 内面に赤色塗彩の痕跡あり。	7あ10G

7-あ-10 グリッド

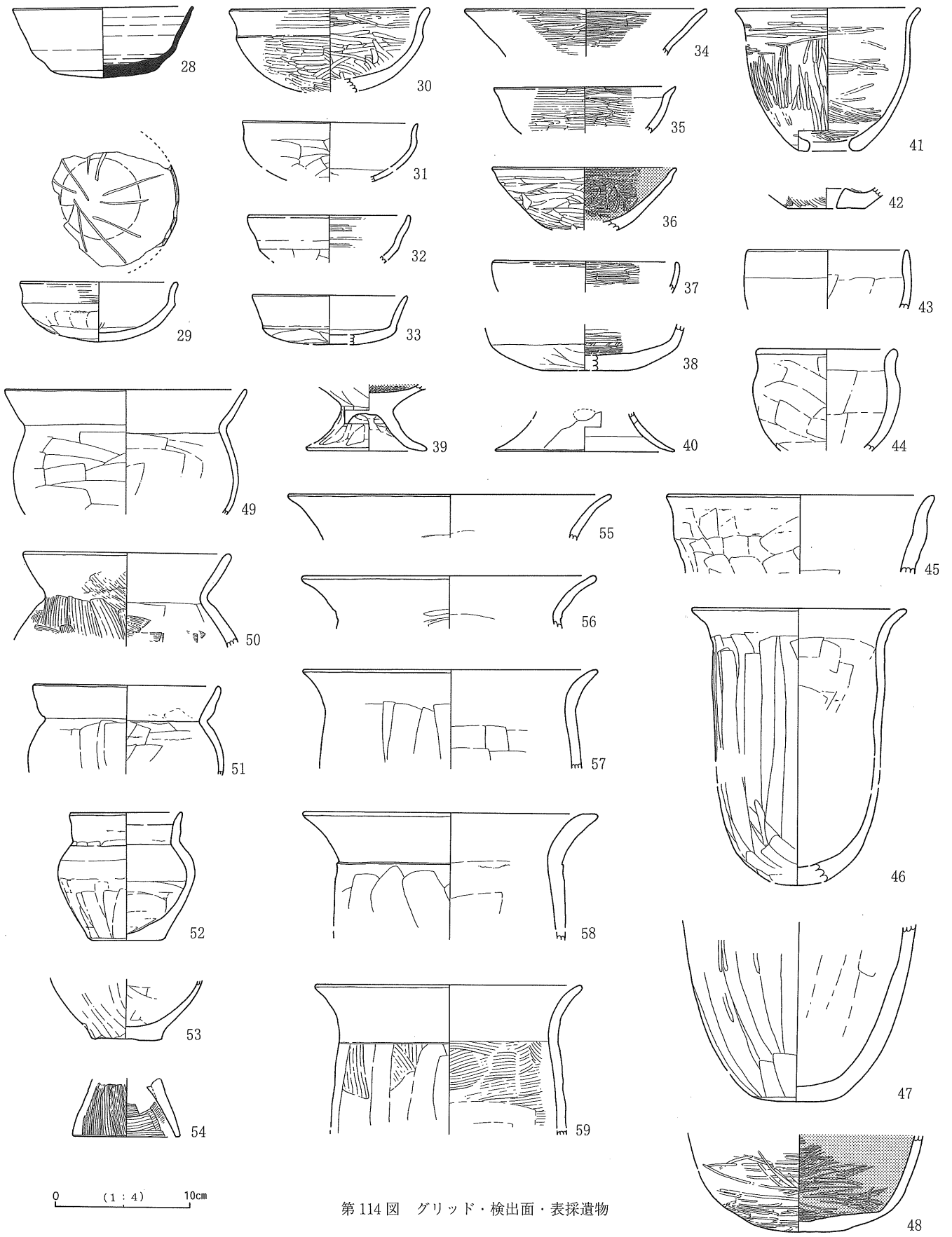


その他のグリッド・検出面・表採

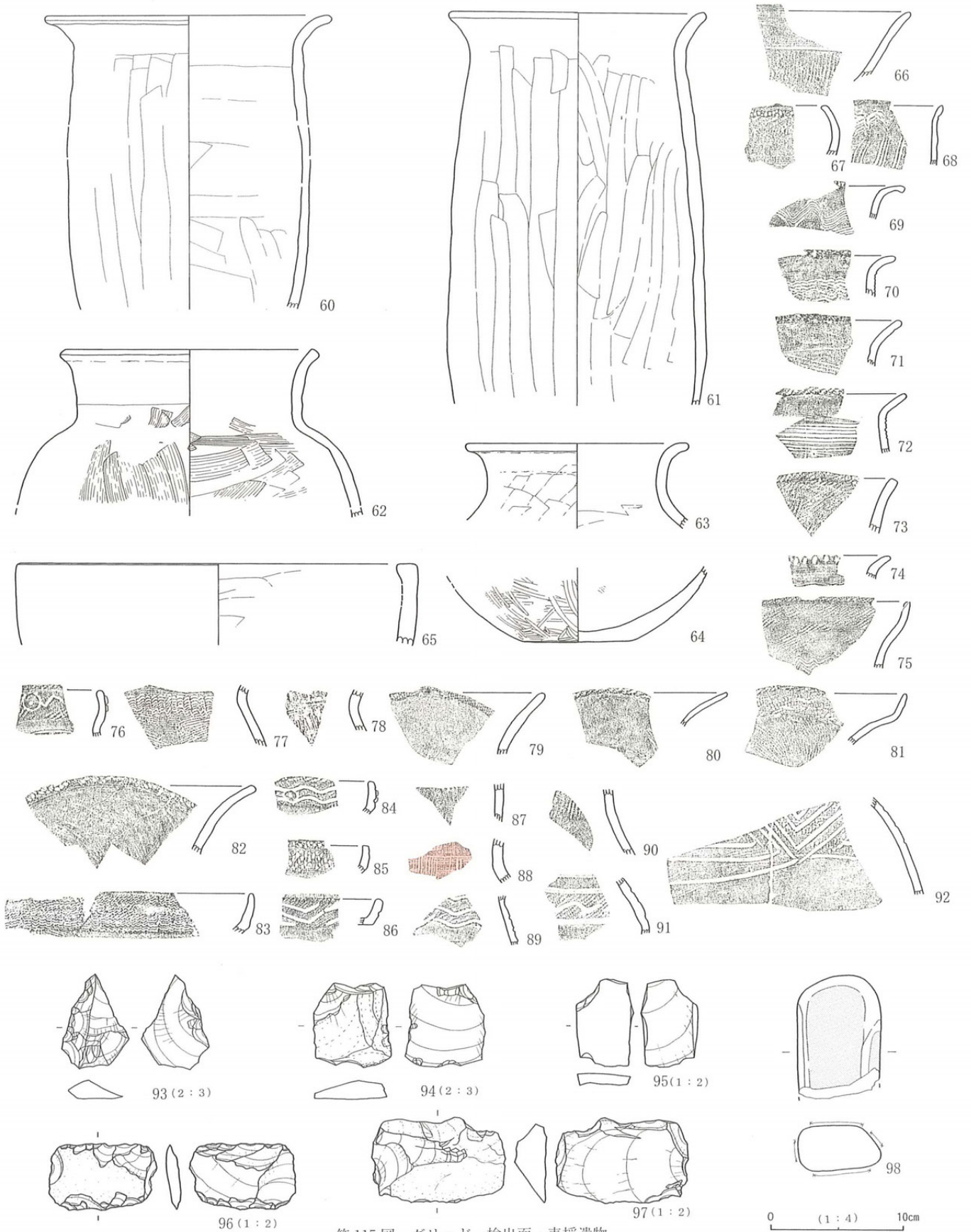


第113図 グリッド・検出面・表採遺物

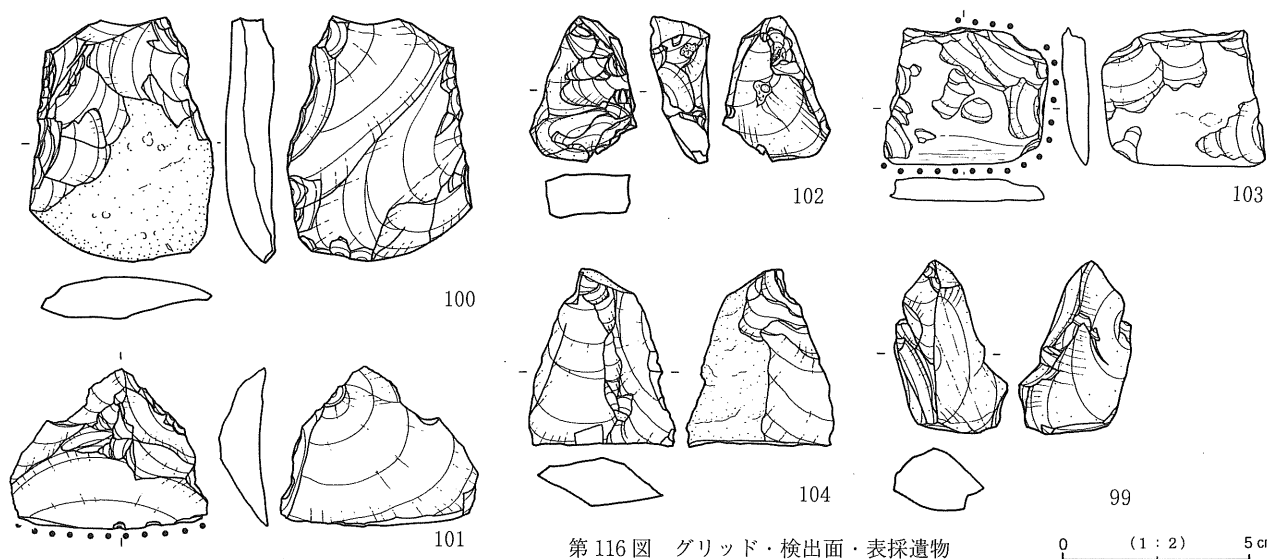
0 (1:4) 10cm



第 114 図 グリッド・検出面・表採遺物



第115図 グリッド・検出面・表採遺物



第116図 グリッド・検出面・表採遺物

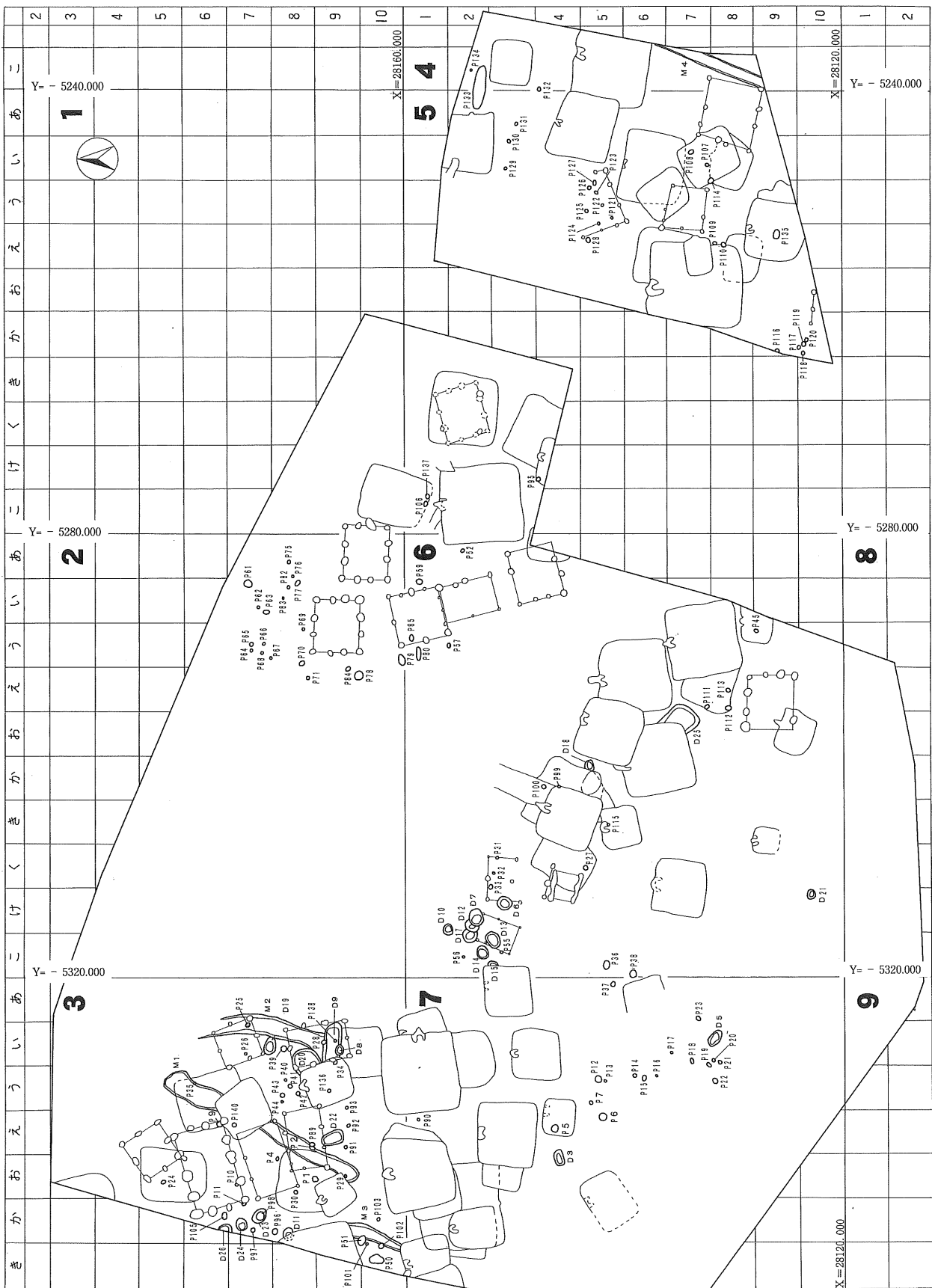
第61表 グリッド・検出面・表採出土遺物一覧表(2)

4	弥生土器 高杯	(10.2) <5.8>	内外 脚柱部ナデ→裾部横ナデ ミガキ	底部1/6残存 外面 濃い赤色塗彩10R4/8 (赤) 内面 赤色顔料付着	緻密。 脚部に3コの透しあり(焼成 前、ヘラによる穿孔)。	7あ10G
5	土師器 壺	(2.7)	内外 ハケ状工具による横ナデ→横ナデ 横ナデ	破片 5Y R 6/4(にぶい橙)	0.5mm以下の白色粒子を少 量含む。	7あ10G
6	土師器 壺	(2.2)	内外文 横位ミガキ 口唇部横ナデ・口縁部ハケナデ 口唇部ヘラによる刻み	破片 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	7あ10G
7	弥生土器 壺	(7.2)	内外文 口縁部横位ミガキ 口縁部ハケナデ→縦位ミガキ 頸部に櫛描簾状文(単位不明)	破片 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	7あ10G
8	土師器 壺	(15.6) <8.8>	内外 横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ	口縁部1/2残存 5Y R 6/4(にぶい橙)	緻密。 1mm以下の白色粒子含む。	7あ10G
9	弥生土器 壺	()	内外 ヘラナデ ミガキ→胴部赤色塗彩	破片 濃い赤色塗彩 地の色 7.5Y R 6/2(灰褐)		7あ10G
10	弥生土器 甕	(20.2) <6.5>	内外文 横位ミガキ 口縁～頸部横ナデ 胴部ハケナデ 口唇部縄文 口縁部縄文を地文としてヘラ描波状文を 2条施す。 胴部5本1組とする櫛描文を施す。	1/9残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	緻密。	7あ10G
11	弥生土器 甕	(15.4) <9.3>	内外文 ミガキ ミガキ 4～12本を単位とする櫛描文	口縁部1/3残存 外面口縁部に赤色顔料付着	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	7あ10G
12	弥生土器 甕	(6.7) <9.1>	内外文 ミガキ ミガキ 櫛描斜走文	底部完形 2.5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	7あ10G
13	欠番					
14	欠番					
15	弥生土器 蓋	(4.2) <3.7>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ?→赤色塗彩	天井完形 淡い赤色塗彩7.5R4/4(にぶい 赤) 地の色 7.5Y R 8/1(灰白)	1mm以下の白色粒子含む。	5く1G
16	弥生土器 鉢	(7.4) <1.9>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	底部完形 濃い赤色塗彩7.5R3/4(暗赤) 地の色 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	7う8G
17	弥生土器 高杯	(8.4) <5.0>	内外 杯部ミガキ→赤色塗彩 脚部ナデ ミガキ→赤色塗彩	底部1/4残存 濃い赤色塗彩10R3/6(赤) 地の色 7.5Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 転用して器台か。	6こ4G

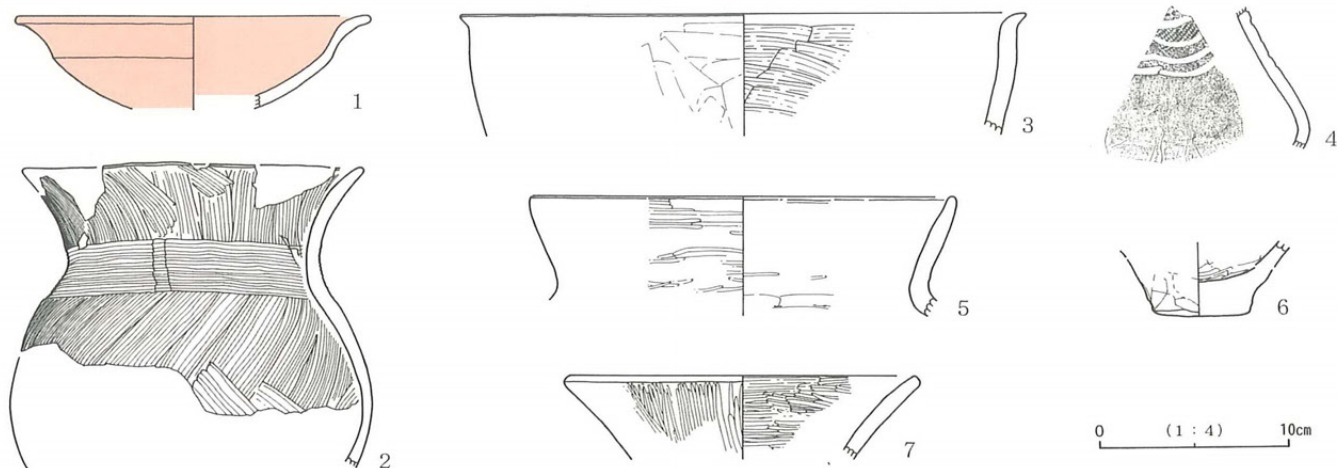
第61表 グリッド・表採出土遺物一覧表

18	弥生土器 甕	— 5.4 <5.2>	内外 ハケナデ→横位ミガキ (ハケ)ナデ→縦位ミガキ	底部完形。 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 外面に赤色顔料が付着する が範囲わからない。	検出
19	弥生土器 壺	— 7.5 <8.4>	内外 ハケナデ ハケナデ→ミガキ・底部ヘラナデ 縄文を地文としヘラ描平行連続波状文	底部完形 10Y R 7/4(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。 赤色顔料が所々観察できる が、範囲はわからない。	6え8G
20	弥生土器 甕	— 8.2 <15.9>	内外 横位ミガキ ハケナデ→縦位ミガキ 櫛描波状文(単位不明)	底部2/3残存 5Y R 6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	5く4G
21	土師器 壺	— —	内外 ナデ 横ナデ→指頭おさえ	破片 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	検出
22	土師器 (不明) 脚部	(10.0) — <3.8>	内外 ナデ ナデ	口縁部1/16残存 10Y R 7/2(にぶい黄橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子少量含む。	検出
23	土師器 壺	— 4.0 <1.3>	内外 ヘラナデ ケズリ→ミガキ	底部2/3残存 2.5Y R 6/6(橙)	1mm以下の赤色粒子少量含 む。	検出
24	土師器 甕?	— 5.4 <1.8>	内外 ミガキ ハケナデ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子含む。	検出
25	弥生土器 壺?	— (8.1) <2.7>	内外 ハケナデ・ナデ ハケナデ	底部1/2残存 10Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	検出
26	弥生土器 壺	— (12.4) <21.2>	内外 全面剥離しており判別できず。 (ハケ)ナデ→ミガキ	底部1/2残存(内面剥離) 10Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。	5あ4G
27	弥生土器 壺	— 8.4 <5.7>	内外 ナデ ミガキ	底部完形 7.5Y R 8/3(浅黄橙)	緻密。1mmの白色粒子含む。	検出
28	須恵器 杯	(13.6) (7.8) 5.2	内外 ロクロナデ→底部切り離し→ナデ ロクロナデ→底部切り離し→ナデ	口縁部1/4残存 10Y R 8/1(灰白)	1mm以下の黒色粒子含む。 小石含む。	検出
29	土師器 杯	(11.8) — 4.4	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ・暗文風ミ ガキを施す。 外 体~底部ナデ→ヘラケズリ→口縁部横 ナデ→横位ミガキ	口縁部1/5残存 7.5Y R 6/2(灰褐)	緻密。1mm以下の赤色粒 子・黒色粒子・白色粒子含む。	検出
30	土師器 杯	(15.0) — <6.1>	内外 ミガキ ミガキ	口縁部1/3残存 5Y R 6/3(にぶい橙)	緻密。	検出
31	土師器 杯	(13.2) — <4.4>	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→体部~底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	1mmの赤色粒子含む。	検出
32	土師器 杯	(6.2) — <3.5>	内外 横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	口縁部1/10残存 7.5Y R 6/3(にぶい褐)	緻密。	5え10G
33	土師器 杯	(11.6) — <3.6>	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 5Y R 8/4(淡橙)	緻密。	7う8G
34	土師器 杯	(16.6) — <3.4>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/3残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 含む。	検出
35	土師器 杯	(13.6) — <3.4>	内外 ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。	検出
36	土師器 杯	(13.8) — <4.6>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→体~底部ミガキ	口縁部1/2残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R 7/1(灰白)	緻密。	検出
37	土師器 杯	(14.0) — <2.3>	内外 横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/5残存(外面摩耗) 5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	検出
38	土師器 鉢	— (6.2) <3.5>	内外 横位ミガキ 口縁部横ナデ・体~底部ミガキ	底部1/2残存 5Y R 6/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子含む。	検出
39	土師器 高杯	— 9.0 <6.9>	内外 杯部ミガキ・脚部横ナデ→ナデ 杯部ケズリ・脚部横ナデ→脚部ヘラナ デ	底部7/8残存 7.5Y R 8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	検出
40	土師器 高杯	— (13.4) <2.9>	内外 ロクロナデ→脚柱部ヘラケズリ ロクロナデ→焼成前に透し穿孔	底部1/6残存 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	緻密。	5あ8G
41	土師器 甌	(14.0) 4.7 10.6	内外 ミガキ ミガキ	底部完形 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。1mm以下の白色粒子 含む。	検出
42	土師器 甌	— (5.8) <1.6>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。 焼成前に一孔穿孔。	検出

43	土師器 椀	(12.2) — <4.3>	内 口縁部横ナデ→体部ヘラナデ 外 体部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/5残存 2.5Y R7/6(橙)	白色粒子少量含む。	2い9G
44	土師器 鉢	(10.7) — <7.5>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部(ヘラ)ナデ	口縁部1/4残存(摩耗) 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子 含む。	検出
45	土師器 甌	(20.0) — <5.8>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ	口縁部2/3残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	緻密。1mmの赤色粒子・黒 色粒子含む。	検出
46	土師器 甕	(16.2) — <20.1>	内 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ 外 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子・白色粒子 含む。	検出
47	土師器 甕	— 6.7 <13.2>	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 7.5Y R7/3(にぶい橙)	砂質。1mmの白色粒子含む。	検出
48	土師器 鉢	— 7.3 <7.2>	内 ミガキ→黒色処理 外 ヘラケズリ→ミガキ	底部完形 内 N2/0(黒) 外 7.5Y R8/3(浅黄橙)	1mmの赤色粒子含む。	検出
49	土師器 甕	(18.0) — <9.2>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 5Y R8/4(淡橙)	1～2mmの赤色粒子含む。	5あ3G
50	土師器 壺	(15.5) — <6.9>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ(一部ハケ) 外 口縁部横ナデ・胴部ハケナデ?	口縁部1/8残存 2.5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子少量含む。	検出
51	土師器 壺	(14.0) — <6.5>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部ナデ	口縁部1/4残存 2.5Y R5/6(明赤褐)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子少量含む。	検出
52	土師器 甕	(8.4) (5.8) 9.4	内 胴～底部ナデ→口縁～胴上半部横ナデ →ミガキ 外 口縁部横ナデ→頸～底部ナデ→ミガキ	口縁部1/2残存 2.5Y R7/6(橙)	1mmの黒色粒子・赤色粒子・ 白色粒子含む。	検出
53	土師器 壺	— 5.2 <4.5>	内 ナデ 外 ナデ(ヘラ?)	底部完形 10Y R8/3(浅黄橙)	4mm以下の赤色粒子多量含 む。	検出
54	土師器 台付甕	— (8.0) <4.3>	内 ナデ→ハケナデ 外 ハケナデ	底部1/4残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	検出
55	土師器 甕	(24.2) — <3.4>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部(ヘラケズリ?)	口縁部1/10残存 7.5Y R8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	検出
56	土師器 甕	(22.0) — <3.9>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R8/4(淡橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	検出
57	土師器 甕	(22.0) — <7.3>	内 口縁部横ナデ→胴部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R8/3(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子多量含む。	検出
58	土師器 甕	(22.0) — <9.3>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ	口縁部1/3残存 10Y R7/1(灰白)	緻密。1mm以下の白色粒子 少量含む。	検出
59	土師器 甕	(20.0) — <11.0>	内 胴部ハケナデ→一部ヘラナデ→口縁部 横ナデ 外 胴部ハケナデ→ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5Y R7/4(にぶい橙)	2mm以下の白色粒子・赤色 粒子多量含む。	検出
60	土師器 甕	(21.2) — <22.0>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 2.5Y R6/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子含む。小石含む。	検出
61	土師器 甕	(21.2) — <29.4>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ	口縁部1/5残存 7.5Y R8/4(浅黄橙) 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	検出
62	土師器 壺	(19.4) — <12.4>	内 口縁部横ナデ→胴部(ハケとヘラ)ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部ナデ(一部ハケナデ)	口縁部1/8残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・1mm の赤色粒子を含む。	検出
63	土師器 甕	(16.8) — <6.3>	内 口縁部横ナデ→胴部(ヘラ)ナデ 外 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/2(明褐灰)	1mm以下の白色粒子含む。	検出
64	土師器 甕? 壺?	— (8.2) <5.5>	内 全面剥離 外 ミガキ	底部1/2残存(内面剥離) 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。	検出
65	土師質 (不明)	(30.2) — <6.1>	内 ナデ 外 ナデ	口縁部1/12残存 5Y R8/4(淡橙)	黒色粒子・赤色粒子含む。	検出



第117図 川原端遺跡土坑・単独ピット全体図(1:500)



第118図 単独ピット出土遺物

第6節 単独ピット (第117・118図、第62表)

本調査域からは123個の単独ピットが検出された。単独ピットは7カ所に集中している。

第62表 単独ピット出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	弥生土器 高杯	(18.8) — <4.9>	内外 ミガキ→赤色塗彩 ミガキ→赤色塗彩	口縁部1/3残存 濃い赤色塗彩 地の色 10Y R 8/3(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	P 17
2	弥生土器 甕	(18.1) — <16.2>	内文 横位ミガキ、外 ? 頸部16本1組とする櫛描簾状文(2連止め) 口縁部・胴部8~12本1組とする櫛描斜走文	口縁部1/3残存 7.5Y R 5/2(灰褐)	緻密。	P 20
3	土師質土器 鍋	(30) — <6.4>	内外 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ 口縁部横ナデ→(ヘラ)ナデ	破片 7.5Y R 4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	P 38
4	欠番					
5	土師器 壺	(22.6) — <6.3>	内外 口縁部横ナデ→胴部ナデ・口縁部ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 10Y R 7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	P 108
6	土師器 甕	— 5.1 <3.9>	内外 ナデ ナデ	底部完形 5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子含む。 底部に木葉痕あり。	P 108
7	弥生土器 壺	(18.8) — <4.4>	内外 横位ミガキ 縦位ミガキ	口縁部1/5残存 5Y R 7/6(橙)	砂質。1mmの白色粒子・黒 色粒子・石英を多く含む。	P 133

第V章 総括

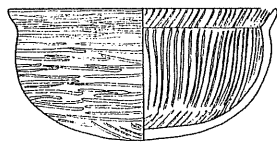
第1節 古墳時代

古墳時代の住居址は、H 1～H 7・H 9～H 16・H 18～H 36・H 38・H 40・H 43・H 49・H 54～H 58・H 61の45棟である。これらはみてきたように古墳時代後期という時代が当てられる。また掘立柱建物址の20棟も弥生時代の遺構を切っており、古墳時代の堅穴住居址4棟と重複し、切っている。柱穴に混入した土器は古墳時代後期より新しい遺物がみられないことから、古墳時代に帰属する。

1. 土師器杯の分類

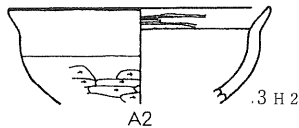
まず古墳時代後期の土器を、1999 小林『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』-第2節 古墳時代 1 土器様相-の分類に沿って、川原端遺跡の古墳時代後期の土器について分類してみた。一部、川原端遺跡に合わせて変更している。

A類



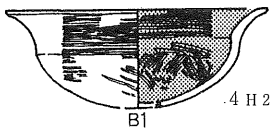
A 1. 丸底の底部から体部が内湾しながら立ち上がり、短い口縁部が内稜をなして強く外反する。

(破片はあるが実測資料なし。『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』より転載。)

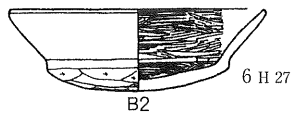


A 2. A 1の口縁部がやや長く、緩やかに外反する。

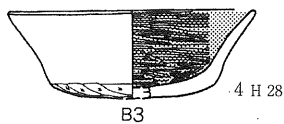
B類 丸底の底部から口縁部が稜をなして長く外反する。



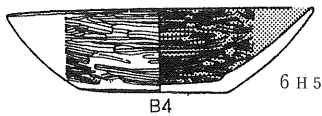
B 1. A 2の口縁部が更に長くなり、口縁部と体部の境に稜を形成して外反するもの。その位置が上位にある。



B 2. 体部下が浅く、口縁部と体部の境に稜を形成して口縁が外反するもの。

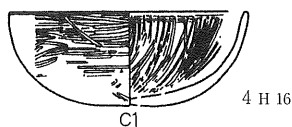


B 3. B 2の口縁部と体部の境の段や凹が省略されたもの。B 1・B 2に施されていた外面のヘラミガキ調整も省略化される様になる。

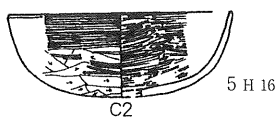


B 4. 口縁が直線的または外湾的に伸び、内面の稜が明らかに下にあるもの。腰部にあまり丸みを持たず、逆台形となる。

C類 丸底で素縁のもの。

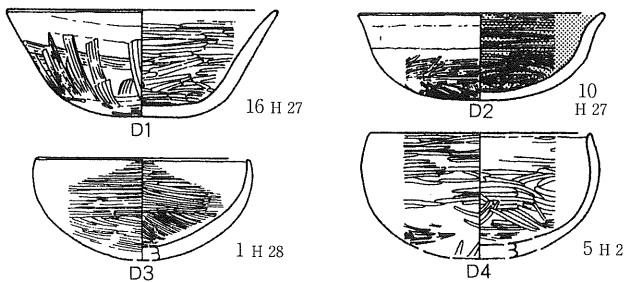


C 1. 丸底から口縁部がそのまま内湾して立ちあがるもの。内外面ミガキ調整される。



C 2. 外面のミガキ調整が省略される。

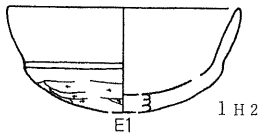
D類 底部が半球形に深いもの。



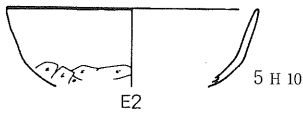
- D 1. 半球状で、口縁部が素直に開くもの。
- D 2. 半球状で、口縁部が外反するもの。
- D 3. 半球状で、口縁部が直立するもの。
- D 4. 半球状で、口縁部が内湾するもの。

E・Fは須恵器模倣杯で、内面ナデ調整、まれに暗文様のミガキが施される。一般に器肉が薄く、胎土が緻密（黒色処理されたものもある。）、外面は口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ調整。

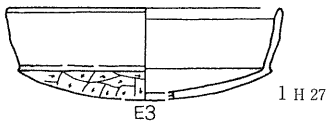
E類



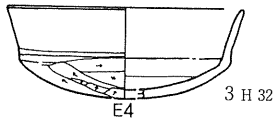
- E 1. 須恵器杯蓋の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有するもの。



- E 2. 須恵器杯蓋の模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有さず、稜を有するもの。

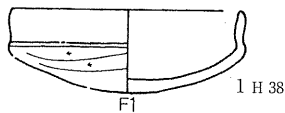


- E 3. 所謂有段口縁杯。

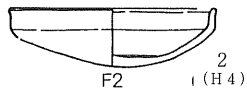


- E 4. E 1 同様の形態を呈し、橙色で陶質と表現できる様な焼成が施されたもの。概して、小型で、器壁が薄い特徴を有する。

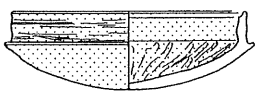
F類



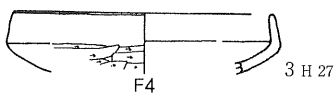
- F 1. 須恵器杯身の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有するもので、口縁部が直立するもの。



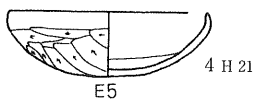
- F 2. 須恵器杯身の模倣、あるいは模倣を原形とするものの内、体部と口縁部の境の段を有さず、稜を有するもので口縁部が直立するもの。



- F 3. F 1 の口縁部が内傾するもの。
(実測資料なし。『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』より転載。)

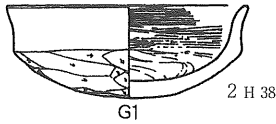


- F 4. F 2 の口縁部が内傾するもの。

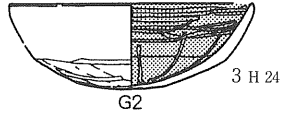


- E 5. 丸底で、口縁部が弱く内傾するもので、口縁部と体部の境が明瞭なもの。E 4 と同質な橙色陶質なものを含む。口径・器高が小さくなる。

G類 須恵器の杯身を模倣したもので内面ミガキ調整・黒色処理されるもの。

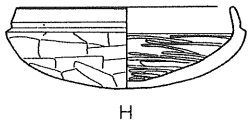


G 1. 厚手で、丸底から外稜をなして口縁が外傾する。外稜が上位にある。内面ミガキ、黒色処理するもの。外面は口縁部横ナデ底部ヘラケズリ、ミガキ調整。



G 2. 外稜の位置下がり、ミガキ調整が雑または施されなくなる。

H類 須恵器の杯蓋を模倣したもので、厚手で内面ミガキ調整されるもの。



H. 厚手で、丸底から外稜をなして口縁部が直立する。
(実測資料なし。『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』より転載)

I類



I. 平底から口縁部が直線的に外傾して開くもの。

第119図 古墳時代後期土師器杯分類図

この土師器杯の分類、また甕・須恵器などとの組み合わせから各住居址の遺物についてみると、主な形態変化を捉えることができる。

I期 杯A、C、D系、有段口縁壺、小型丸底、杯の底部と体部の境に稜を有する高杯などで構成される中期の土器様相が残る。

T K 208号窯式期の須恵器

須恵器杯身・蓋模倣のE・F形態の土師器が組成に加わる。

土師器 杯A 1がA 2に変化。須恵器模倣高杯は杯Gが乗る。

甕の長胴化。

II期 杯A 2がB 1・B 2に変化、有段口縁杯E 3が加わる。

有段口縁壺は存在しない。

甕は長胴が進み、体部の中央付近に最大径を有する。

M T 15やT K 10号窯式期須恵器伴出。

小型丸底は今期で消滅。

III期 杯B系はB 3・B 4に変化し、E・F系の杯が増加する。E 4・E 5が組成に加わる。

高杯は長脚化の後単脚に転じる。

甕は頭初において顕著なハケ目調整、体部過半部で内屈するものが存在。

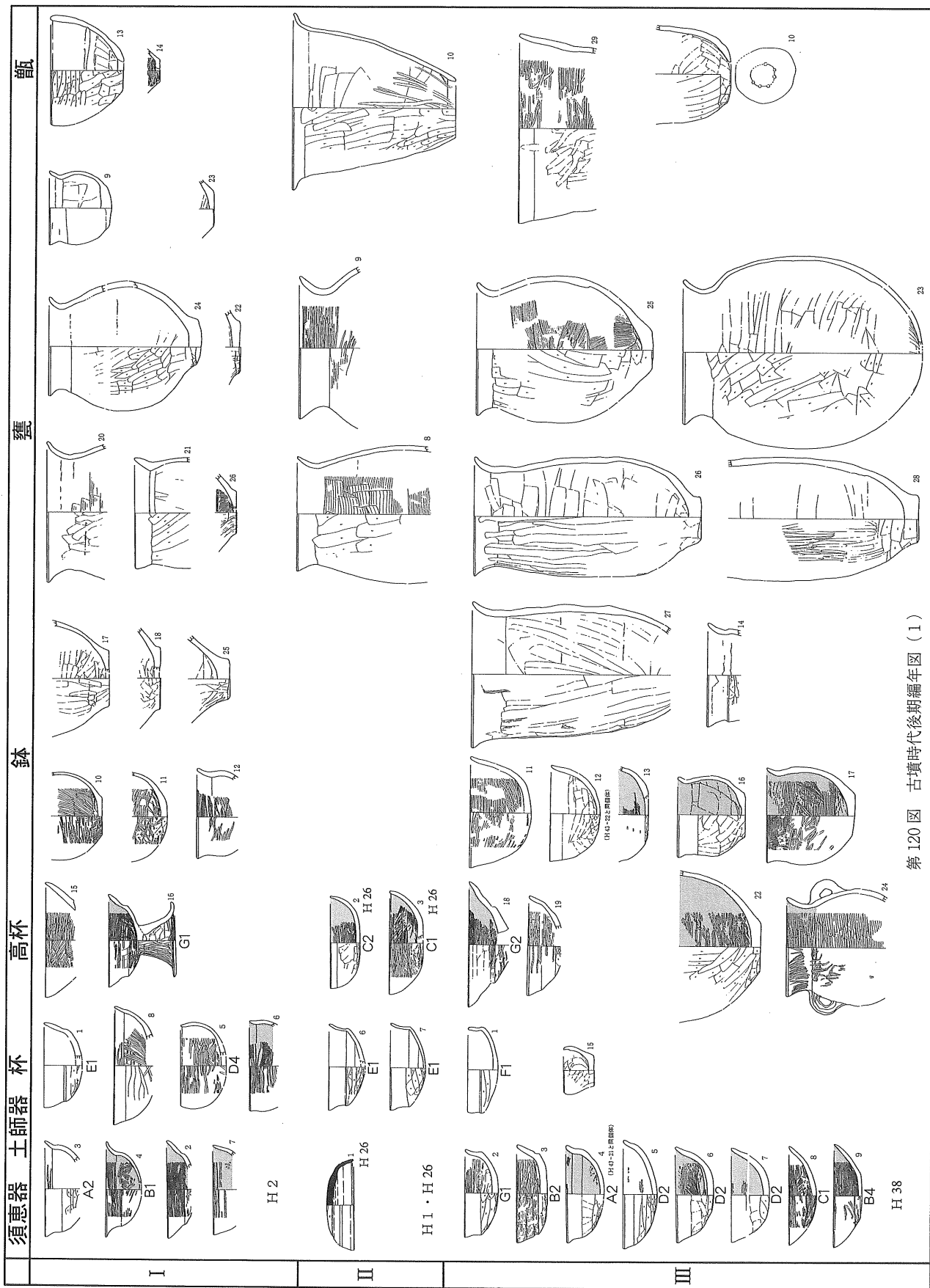
これら以外の甕は最大径を口縁部に有する。甗は多孔のものが出現。

M T 85・T K 43・T K 209号窯式期が伴出。

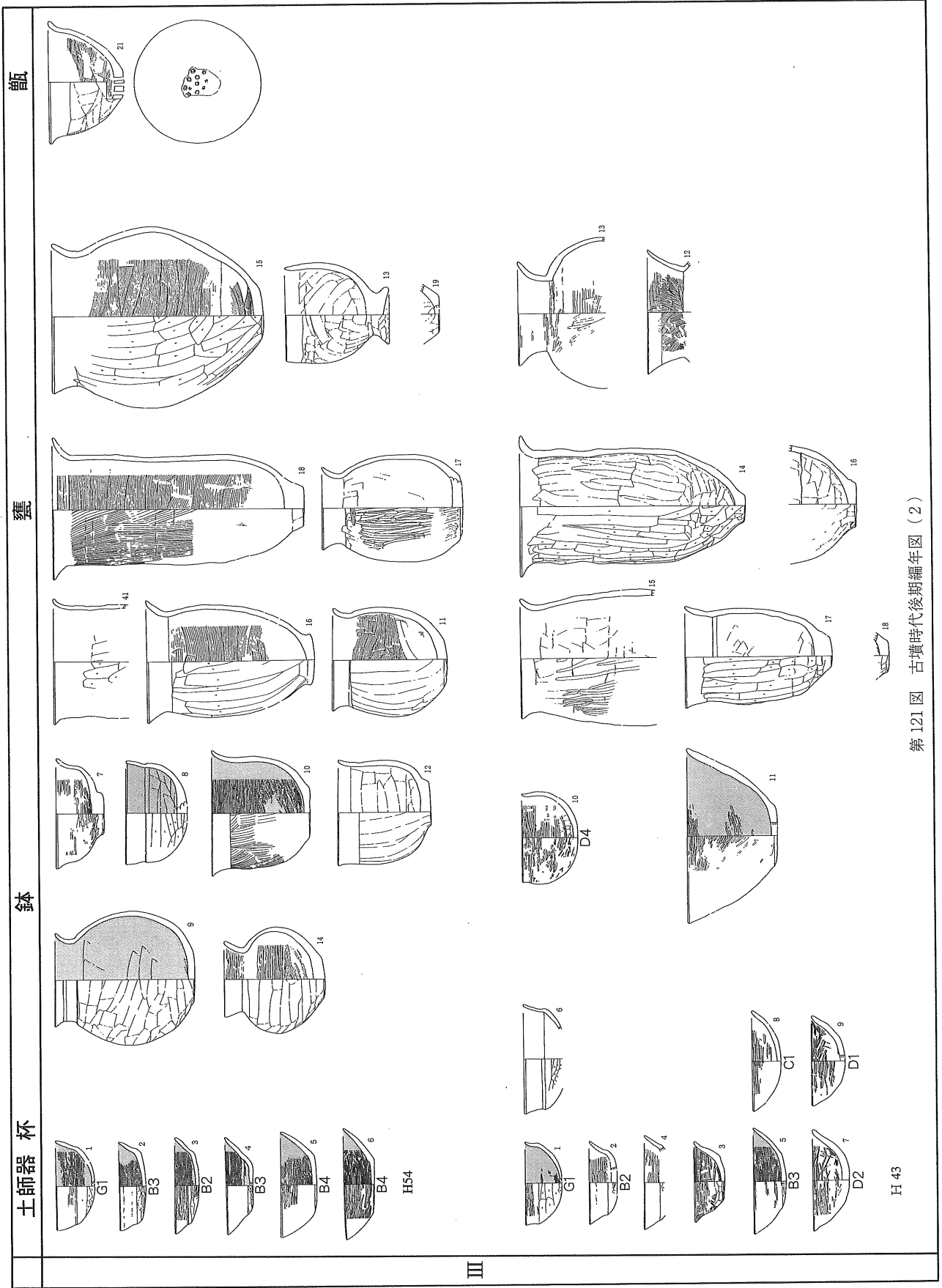
IV期 B系の杯は姿を消し、E系・D系の杯が主体となる。新たにI形態が認められる。

高杯は短脚で半球状の杯部を有し小型化する。

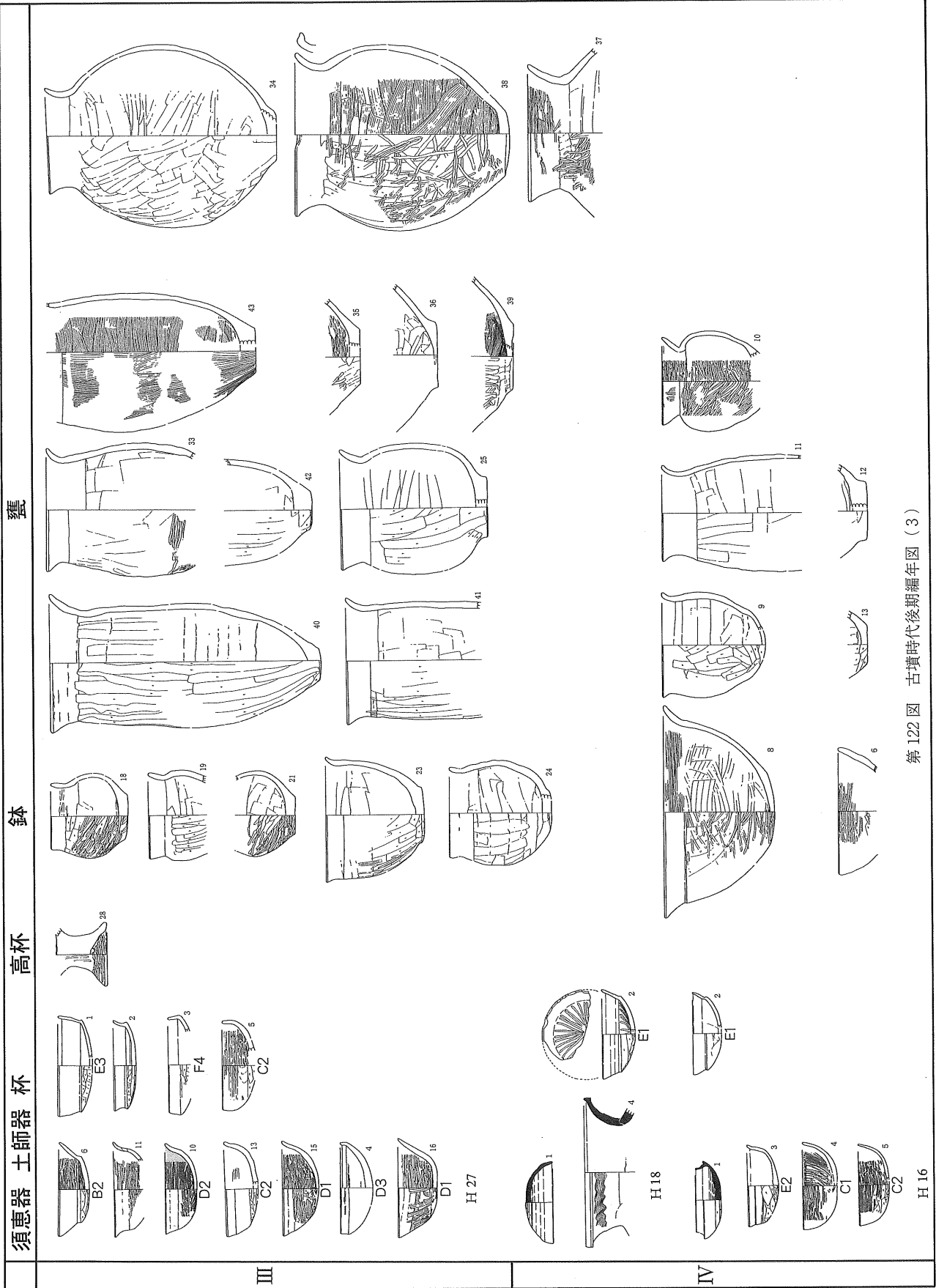
甕は卵形の体部を呈するものが一時期認められ、武蔵甕が出現する。



第120図 古墳時代後期編年図(1)



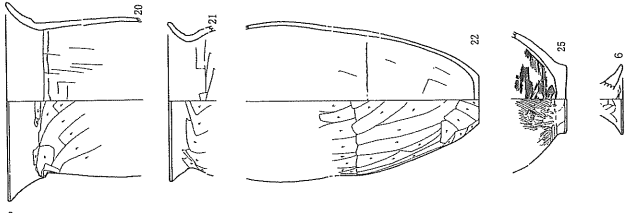
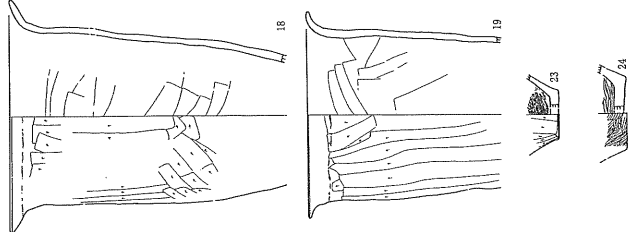
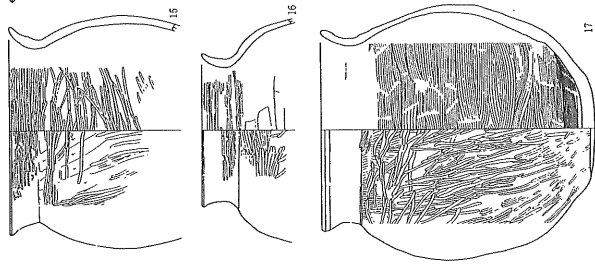
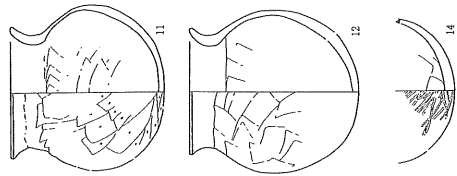
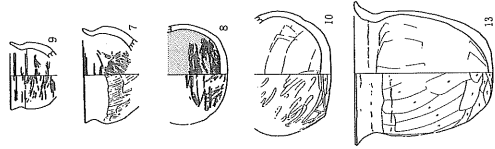
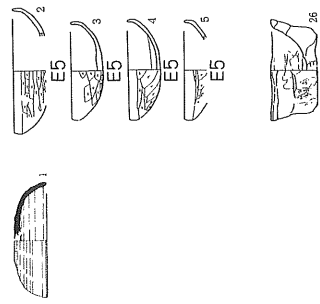
第 121 図 古墳時代後期編年図 (2)



第122圖 古墳時代後期編年圖(3)

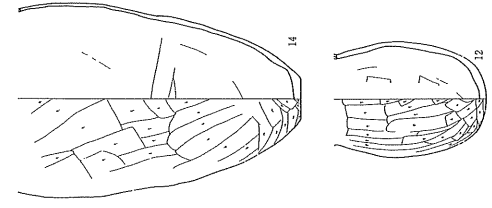
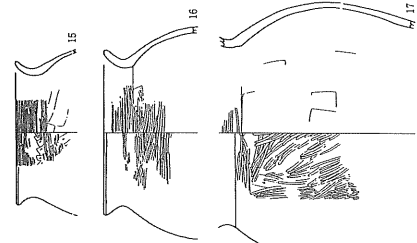
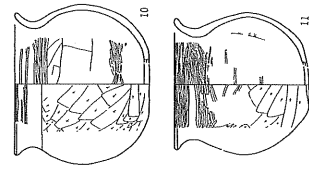
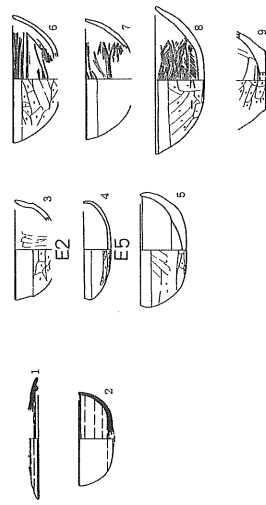
須恵器 土師器 杯

甕



H 21

IV



H 7

第123図 古墳時代後期編年区(4)

2. 竪穴住居址

土器分類に従って川原端遺跡の各住居址の時代を分けてみると4期にわたる区分が観察された。

I期	H 2・H 6・H40・H42	4棟
II期	H 1・H30	2棟
III期	H 3・H25・H34・H38・H54・H55 H12・H19・H23・H24・H28・H31・H33・H43・H49・H58・H61・H62	18棟
IV期前半	H 4・H14・H16・H18・H26・H27・H29・H32・H35・H36・H56	11棟
IV期後半	H 7・H10・H11・H15・H21・H13・H22	7棟
細別不可能	H 5・H 9・H20	3棟

この住居址の変遷を図化して示したものがものが第124図である。I・II期（6C前半代）において、約80mほど離れて1棟～2棟の竪穴住居址が営まれ、III期（6C後半）に至るとその周囲と中間の3ブロックに棟数を増やして18棟ある。しかし同時期に何棟存在したかということになると再検討が必要である。

IV期（7C頃）は後半と前半に分けられ、引き続きほぼ同数の竪穴住居址が存在している。中間地点の竪穴住居址群（H54・H55・H25・H26・H27・H29）ではH55・H54を同じIII期にしてあるが1mと近接しているため同一期ではあり得ないだろうが、土器からは時間の大差を感じない。いくらかH55が甕などに古い要素があるが直接比較できる土器を持っていないことから異なる人の住む竪穴で、H55→H54への直接移動もあり得ないであろう。また焼失して、すぐその後IV期のH26・H27を構築するはずもないのである。連続した竪穴住居址の構築ではなく時間を経ての構築が推定される。従ってIII期においてすぐに棟数が増えたというのではなく、同一時期の棟数は少ないものと推測される。IV期もほぼ同数の竪穴が営まれ、古墳時代の終わりを最後にこの集落は土に埋もれてしまった。

3. 掘立柱建物址

20棟の掘立柱建物址が検出されたが、すべて側柱式である。

(桁行き×梁行き)

2間×1間	F 7 (長方形)・F 8 (長方形)・F 10 (方形)・F 12 (長方形)
(面積)	10.4m ² 8.2m ² 5.3m ² 15m ²
2間×2間	F 5 (方形)・F 6 (方形)・F 1 9 (方形)・F 2 0 (方形)
	14.7m ² 12.3m ² 13.2m ² 19.7m ²
3間×1間	F 2 (長方形)・F 3 (長方形)
	17.5m ² 23.6m ²
3間×2間	F 1 (長方形)
	18.3m ²
3間×3間	F 9 (長方形)・F 11(長方形)・F 13(長方形)・F 15(長方形)・F 16(長方形)・F 18(長方形)
	19.6m ² 26.3 m ² 18.9m ² 28.4m ² 17.6m ² 23.6m ²
4間×3間	F 4
	33.2m ²

以上のように規模から分けることができる。ここで注目されるのは、3間×3間の掘立柱建物址の存在である。1987 堤『前田遺跡』において、古代の掘立柱建物址の分類がなされているがこの形態の分類がなされていない。前田遺跡の掘立柱建物址は8C第一四半期から竪穴住居址とほぼ同数の掘立柱建物址の存在を推測している。竪穴住居址12軒と掘立柱建物址14棟で構成され、その掘立柱建物址の内訳は、2間×2間の総柱1棟、1間×1間が2棟、3間×2間、2間×1間などが10棟としている。これ以後奈良～平安時代も当然3間×3間の掘立柱建物址はでてこない。川原端遺跡の掘立柱建物址は、前述したIII期（6C後半）の竪穴住居址を切ったり、切られたりであること、古墳時代以降の新しい土器片を出土していないことなどから古墳時代後期に所属するとすれば、この正方形に近いが桁方向にやや長い長方形の掘立柱建物址、また2間×2間の掘立柱建物址が、古墳時代後期の掘立柱建物址として注目される。

これらの掘立柱建物址はブロックを作り、竪穴住居址とは隣接するものの離れた位置にある。第124図に示したよ

うに数棟ずつブロックをなしている。竪穴居住域と掘立柱建物址群との空間が分けられていたようである。

また、奈良・平安時代を通して、掘立柱建物址と竪穴住居址がほぼ同数といわれているが、本遺跡では掘立柱建物址が約半数であるということは、古墳時代後期においては掘立柱建物址と竪穴住居址の関係が、まだ竪穴住居址に主体があったためといえるのではなかろうか。



第124図 古墳時代後期集落変遷図

第2節 弥生時代末～古墳時代初頭

この期の住居址はH51の1棟が検出された。南北496cm、東西383cmの隅丸長方形である。中央に炉であろう焼土が検出された。出土する土器は弥生時代の櫛描波状文を施す甕と赤色塗彩された杯と鉢がある。中でも無彩のミガキ調整の杯や高杯の脚が長く外反して広がるもの、ハケ目を残すが脚が共伴している。これらの土器は2000 鳥羽『更埴条理遺跡・屋代遺跡群－総論編－』の土器編年の古墳1期（3C後半）に該当する。遺構には伴わないが、H1・H10号住居址からは有段口縁壺、S字口縁甕、ハケ目の甕が出土している。また7あ10グリットにもまともって、この期の土器が出土している。これらの土器も3C後半から4C前半であることから、検出数は1棟であるが、他にも遺構の存在あったようである。

第3節 弥生時代後期

弥生時代後期はH37・H57の2棟が検出された。隅丸長方形を呈する住居址で炉は北側支柱穴間にある。2棟とも遺物が少なく実測資料は赤色塗彩の高杯のみである。高杯は杯部中位で稜を持って外反するものと、小型の杯口縁部が直線的に開くものである。従って細かな検討はできないが後期でも新しい段階のものである。弥生時代末のH51との時間差が短い住居址であろう。

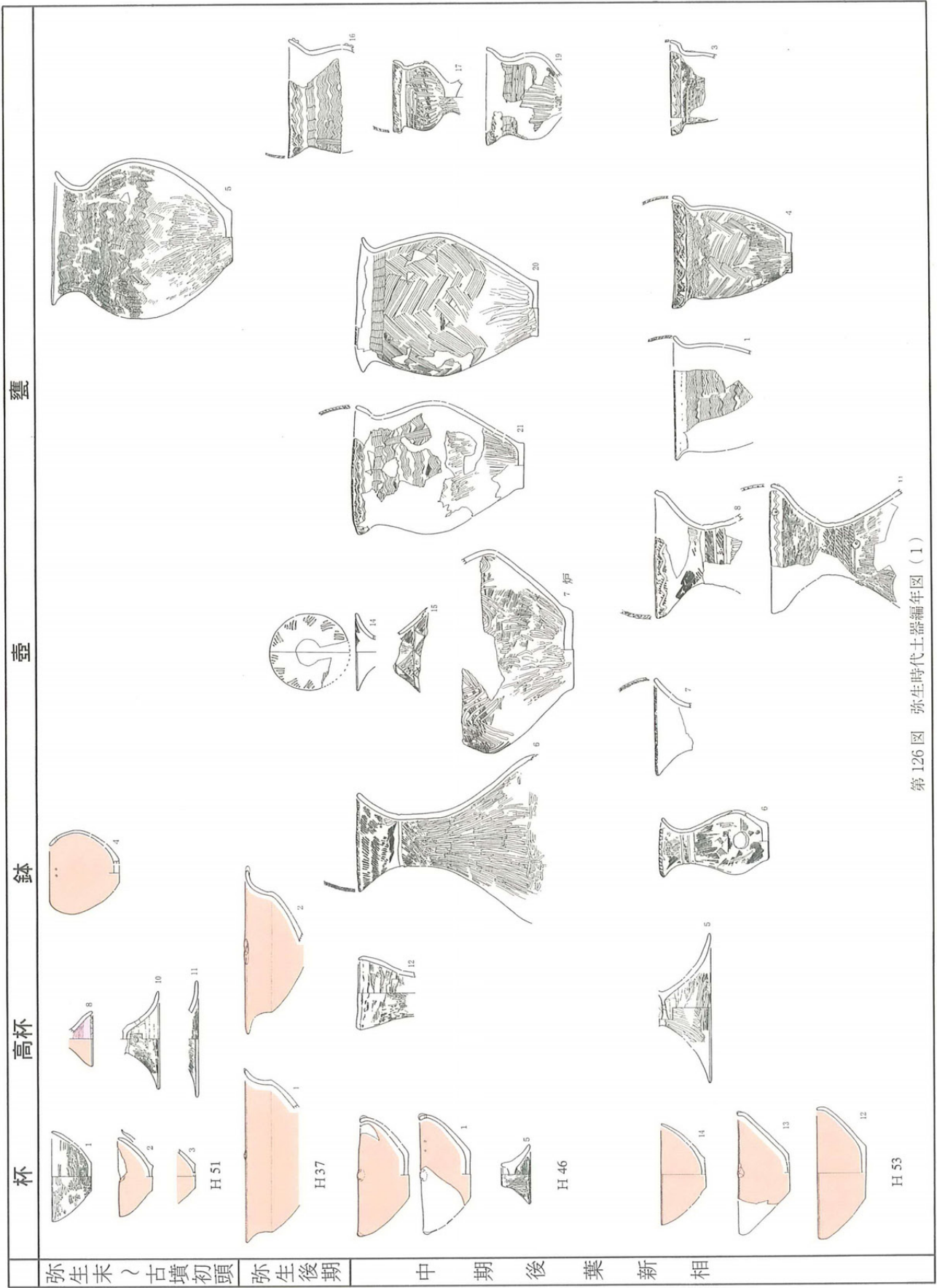
第4節 弥生時代中期

H17・H44・H45・H46・H47・H48・H50・H52・H53・H59の10棟が検出された。住居址形態は長方形に近いH45・H46・H52と隅丸長方形のH44・H48と方形に近いH50・H53・H59がある。土器の施文は壺型土器では頸部に縄文、ヘラ描沈線、口唇端部縄文を施し、胴部上部にはミガキで文様を施さない。また後期にみられるような濃い赤色塗彩の壺がない。甕形土器は口唇部に縄文、または押奈、または刻みを施し、胴部は櫛描波状文、櫛描斜走文を施すものである。これらは、弥生時代中期後半に位置づけられる資料である。これらは直接の重複関係がないのほぼ同時期に存在した住居址であろう。1999『シンポジウム長野県の弥生土器』など参照するとH46・H53などは塗彩の杯が多く、壺の頸部の文様の省略、受け口口縁壺の外稜の省略などの新相が窺える。H45では甕形土器の頸部への施文が意識されておらず古相を示している。

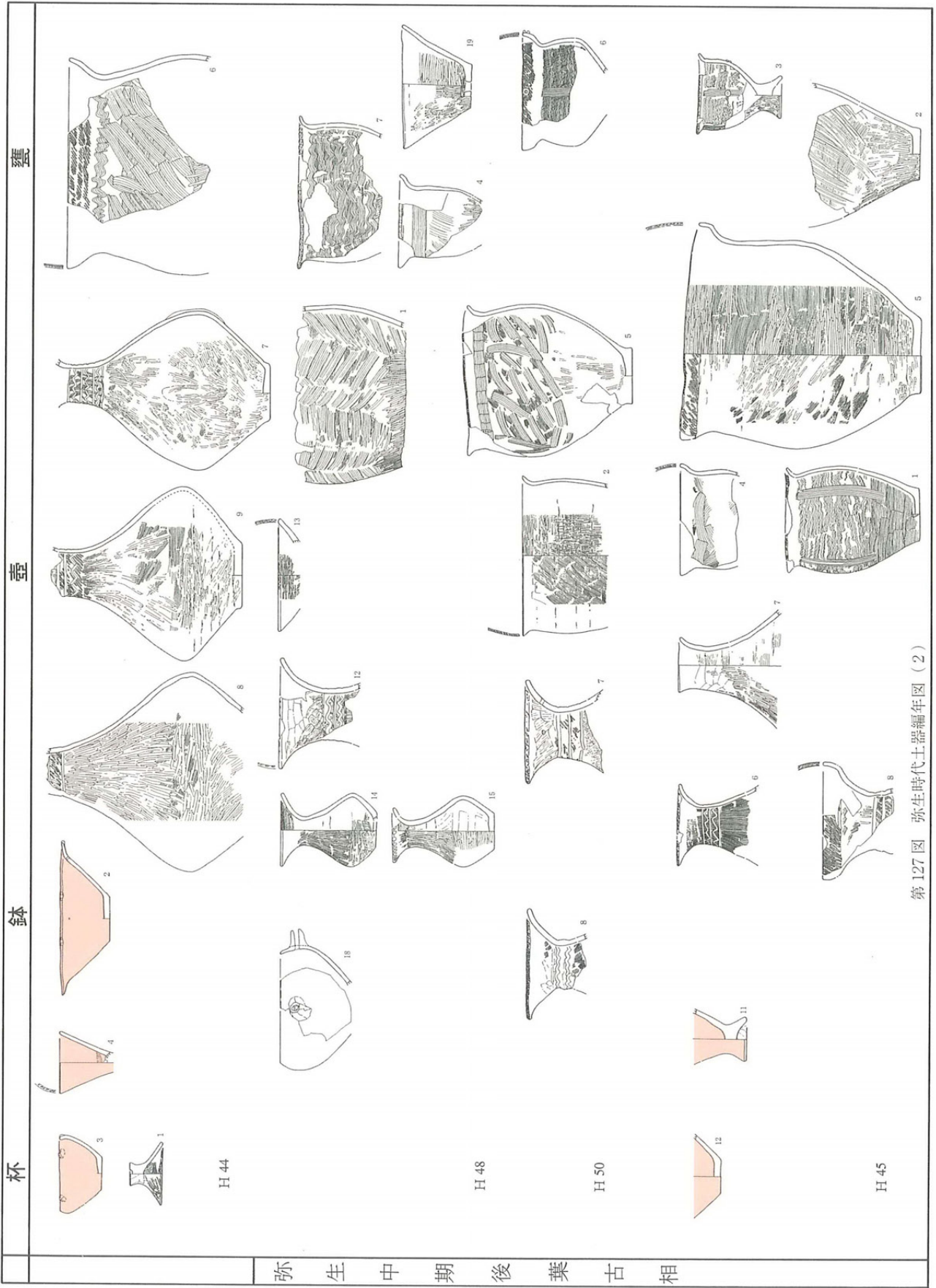
弥生時代中期の土器群はほぼ近い時期の土器でありながら、大きさ・文様・器形がすべてことになっており、量産体制の古墳時代後期以降の土器との差異を感じる。



第125図 弥生時代集落変遷図



第126图 弥生时代土器編年图(1)



第 127 图 弥生時代土器編年图 (2)

第5節 まとめ

本調査において、竪穴住居址62棟、掘立柱建物址20棟、土坑26基、溝址4本、123個の単独ピットが検出された。湯川の右岸に隣接し、河岸段丘上にある。遺構の構築土層は、湯川の堆積物である砂・礫のによって構成されている。また調査区の北東が低湿地になって湧水していることから、本遺跡は河岸段丘上の幅の狭い自然堤防上の遺跡であり、一方では湯川の浸食受け、南西地点では2段の河岸段丘を構成している。本遺跡の竪穴住居址61棟は時期不明の3棟を除いて、遺構・遺物などから3期に大別され、弥生時代中期・後期後半と弥生時代末～古墳時代初頭・古墳時代後期である。

以上川原端の遺構・遺物についてみたが、狭い河岸段丘上という限定され地域で、弥生時代中期から古墳時代後期の集落変遷がたどれる良好な資料である。古墳時代後期においても連綿と集落が営まれたというわけではなく中間に抜けている土器様相のあることから、一旦途絶えて、また構築されたと推測される。弥生時代中期後半、集落が途絶えて弥生時代後期後半ないし弥生時代末～古墳時代（3C後半～4C前半）、またしばらく時間を経て古墳時代後期（6C～7C代）と大きく3時代の人々の足跡を記録した。

引用参考文献

- 1971 田辺昭三『須恵器大成』角川書店
- 1978 (財)大阪文化財センター『陶邑Ⅲ』
- 1981 中村浩『和泉陶邑窯の研究』柏書房
- 1987 御代田町教育委員会『前田遺跡』
- 1990 愛知県埋蔵文化財センター『第10集 廻間遺跡』
- 1991 雄山閣『古墳時代の研究第6巻 土師器と須恵器』
- 1994 小諸市教育委員会『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原』
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書『松原遺跡』
- 1999 長野県考古学会弥生部会編『長野県の弥生土器』
- 1999 佐久市教育委員会『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
- 2000 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54『更埴条理遺跡・屋代遺跡群―総論編』

付表 遺構一覧表

第 63 表 竪穴住居址一覧表 (1)

遺構名	検出位置	規模(m) 南北×東西×深さ	平面形	カマド・炉	火処位置	時代	長軸方位	備考
H 1	5え6	—×4.74×0.24	長方形	—	—	古墳	N-9°-E	H 9・H 10・F 19 に切られる。
H 2	5い6	5.38×5.96×0~0.33	方形	カマド	北壁中央	〃	N-10°-E	H 3・H 4・F 19 に切られる。
H 3	5う6	4.10×3.42×0.18	不整長方形	カマド	東壁中央	〃	N-57°-E	プラン不明確、残存状態よくない。
H 4	5い7	5.12×4.0×0.08	長方形	カマド	東壁中央	〃	N-61°-E	H 2・H 5 を切る。F 15 に切られる。 袖が単独ピットで片方なし。
H 5	5い8	3.54×4.37×0.08	不整隅丸長方形	カマド	北壁中央	〃	N-15°-E	H 4・F 15 に切られる。 プラン不明確、残存状態よくない。
H 6	5う9	—×—×0.17	—	カマド	東壁	〃	N-90°-E	H 7 に切られる。 袖が片方なし。南側調査区外。
H 7	5う9	5.08×5.18×0.25	方形	カマド	北壁中央	〃	N-7°-E	H 6・H 8 を切る。P 136 に切られる。 南東隅調査区外。
H 8	5え8	(3.60)×4.22×0.04	不整長方形	—	—	不明	N-4°-E	H 7・H 10・P 110 に切られる。 プラン不明確。
H 9	5え7	2.15×2.82×11.5	長方形	カマド	東壁	古墳	N-82°-E	プラン不明確。
H 10	5え6	8.32×7.00×0.32	長方形	カマド	北壁	〃	N-0°	H 9 に切られる。H 1・H 8 を切る。 北西隅調査区外。
H 11	5あ4	4.92×5.66×0.12	不整長方形	カマド	北壁中央	〃	N-9°-E	
H 12	7お5	3.32×—×0~0.11	長方形	カマド	北壁	〃	N-30°-W	プラン不明確。残存状態よくない。 カマドの焼土範囲のみ残る。
H 13	7う4	2.68×2.92×0	方形	カマド	北壁のやや東より	〃	N-3°-E	P 5 に切られる。
H 14	7う2	5.04×5.48×0.13	方形	カマド	北壁中央	〃	N-0°	H 31・H 40 を切る。
H 15	7か2	4.86×3.50×0.06	長方形	カマド	北壁中央	〃	N-1°-W	H 30・H 40・H 42 を切る。
H 16	3え10	5.54×6.12×0.3	方形	カマド	北壁中央	〃	N-4°-W	H 30・H 40・H 47 を切る。
H 17	3か8	6.18×—×0.12	隅丸長方形	—	—	弥生	N-26°-W	M 3・B 11 を切る。 西側調査区外。
H 18	3お9	3.04×2.80×0.21	方形	カマド	北壁中央	古墳	N-33°-W	H 50・M 1 を切る。
H 19	3う7	3.97×4.20×0.39	方形	カマド	北壁中央	〃	N-34°-W	F 3・F 4 に切られる。 M 1・H 45 を切る。
H 20	7い3	4.27×4.02×—	方形	カマド	北壁中央	〃	N-2°-E	床面なく堀方の状態で検出。
H 21	7い1	6.20×6.60×0.38	方形	カマド	東壁中央	〃	N-98°-W	東壁石組になっている。
H 22	7き1	—×—×0.20	—	—	—	〃	N-18°-W	H 35 を切る。 大半が調査区外、南東隅のみ調査。
H 23	6こ2	4.08×4.20×0~0.08	方形	カマド	北壁中央	〃	N-0°	
H 24	3う8	3.82×3.47×0.73	方形	カマド	北壁のやや東より	〃	N-20°-W	D 25・H 52 を切る。F 1・F 2 に切られる。
H 25	6き5	3.00×3.23×0.31	方形	カマド	北壁中央	〃	N-8°-W	H 60・P 115 を切る。
H 26	6お5	5.12×5.28×0.56	方形	カマド	北壁中央	〃	N-18°-E	H 54・H 55 を切る。
H 27	6い7	6.12×6.22×0.35	方形	カマド	北壁中央	〃	N-9°-W	H 54・H 59 を切る。
H 28	6い8	2.72×—×0.28	隅丸長方形	カマド	北壁	〃	N-4°-W	東側調査区外。
H 29	6か4	4.73×4.64×0.42	方形	カマド	北壁中央	〃	N-17°-E	H 51・H 53・H 60 を切る。H 25 に切られる。
H 30	7お1	4.00×3.90×0.19	方形	—	—	〃	N-12°-W	H 15・H 16 に切られる。H 40 を切る。
H 31	7お2	3.26×—×0.14	—	—	—	〃	N-10°-E	H 14 に切られる。
H 32	6く6	4.27×4.52×0.25	方形	カマド	北壁中央	〃	N-7°-E	

第63表 竪穴住居址一覧表(2)

遺構名	検出位置	規模(m) 南北×東西×深さ	平面形	カマド・炉	火処位置	時代	長軸方位	備 考
H 33	6き9	2.28×2.27×0~0.23	方形	カマド	北壁	古墳	N-10°-E	南側が削られる。
H 34	6え9	2.91×3.52×0.15	不整長方形	カマド	北壁のやや東より	〃	N-25°-E	F 13を切る。 煙道が長い。
H 35	7き1	4.05×—×0.11	方形	カマド	北壁	〃	N-13°-W	H 40・H 42を切る。H 22に切られる。
H 36	7あ6	3.34×—×0.30	—	—	—	〃	N-14°-W	西側は削平され、規模・プラン不明。
H 37	2け10	5.76×4.60×0.17	隅丸長方形	—	—	弥生	N-15°-E	南側カクラン・溝・P 106に切られる・P 137を切る。
H 38	5け1	7.10×6.76×0.31	方形	カマド	北壁中央	古墳	N-2°-W	カクラン溝入る。
H 39	5こ3	3.96×2.52×0.15	隅丸長方形	—	—	不明	N-7°-E	東側・南側は調査区外。
H 40	7お1	7.00×7.12×0.12	方形	—	—	古墳	N-7°-W	H 14・H 15・H 16・H 30・H 31・H 35に切られる。 H 42を切る。重複激しく、プランの把握困難。
H 41	欠番							
H 42	7き2	—×—×0.12	—	—	—	古墳	N-1°-E	H 15・H 35・H 40に切られる。
H 43	5き1	5.94×6.04×0.23	隅丸方形	—	—	弥生	N-8°-E	H 16を切る。
H 44	3お3	—×—×0.32	—	—	—	〃	N-6°-W	北側・西側は調査区外。
H 45	3う6	5.62×4.71×0.24	隅丸長方形	炉	中央	〃	N-14°-W	H 19・F 4・F 6・M 1に切られる。
H 46	3お5	5.57×4.36×0.27	隅丸長方形	炉	中央	〃	N-4°-E	F 4・F 5に切られる。
H 47	3え10	(4.24)×—×0.12	—	—	—	〃	N-15°-E	H 16に切られる。
H 48	7い2	—×4.64×0.34	隅丸長方形	炉	中央	〃	N-0°	H 21・H 49に切られる。
H 49	7あ1	3.87×4.04×0.40	方形	カマド	北壁やや東より	古墳	N-18°-W	H 21に切られる。H 48を切る。
H 50	3え8	(5.2)×(5.0)×0.23	(隅丸方形)	炉	南東	弥生	N-10°-E	H 18・M 1・カクランに切られる。
H 51	6き4	4.96×3.83×0.20	隅丸長方形	炉	中央	〃	N-32°-E	H 29・F 10・F 11に切られる。
H 52	3い9	—×4.20×0.21	—	炉	(中央)	〃	N-4°-W	H 21・H 24・F 1・D 9に切られる。
H 53	6か4	—×6.17×0.11	—	—	—	〃	N-28°-E	H 29・H 60・カクランに切られる。
H 54	6う5	5.91×6.02×0.34	隅丸方形	カマド	北壁中央	古墳	N-6°-W	H 26・H 27に切られる。 煙道が長い。
H 55	6お6	5.96×5.81×0.35	隅丸方形	カマド	北壁中央	〃	N-9°-W	H 26に切られる。H 25を切る。 煙道が長い。
H 56	5く4	—×3.98×0.14	—	カマド	北壁中央	〃	N-10°-E	P 95に切られる。 南は調査区外。
H 57	5き3	—×5.80×0.14	—	炉	中央北より	弥生	N-25°-E	H 56に切られる。 南は調査区外。
H 58	4け5	6.68×—×0.08	—	カマド	北壁	古墳	N-10°-E	H 11に切られる。 東は調査区外。
H 59	6え7	4.27×—×0.12	(隅丸方形)	炉	中央	弥生	N-17°-E	H 27・P 111・P 112・P 113に切られる。
H 60	6か5	—×—×0.13	—	—	—	不明	N-42°-W	H 24・H 29・カクランに切られる。 H 53を切る。 プラン、規模不明確。残存状態悪い。
H 61	5あ2	—×4.7×0.24	—	—	—	古墳	N-2°-W	カクランに切られる。 北は調査区外。
H 62	4け3	3.42×3.88×0~0.03	方形	—	—	〃	N-7°-E	真中に柱穴1つあり、西のはしに小さい柱穴があり、間仕切りあり。

第 64 表 掘立柱建物址一覧表

遺構名	様式	検出位置	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行×柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模 (cm)		備考
								径	深さ	
F 1	側柱式	3い8	3×2	5.20×3.52	1.60～1.88	1.76	N-11°-W	40～65	26～46	南北棟 H 24・H 52・D 9・D 20・M 2を切る。
F 2	側柱式	3え8	3×1	5.36×3.28	1.60～1.92	3.28	N-93°-W	26～51	12～53	H 50・D 22・M 1を切る。
F 3	側柱式	3お7	3×1	6.20×3.80	1.80～2.04	(1.90)	N-73°-W	20～48	17～50	東西棟 H 19・H 50・M 1を切る。
F 4	側柱式	3え6	4×3	7.36×4.52	0.96～2.72	1.28～2.04	N-70°-W	54～117	13～86	H 19・H 45・F 5・P 9・P 10・P 11を切る。
F 5	側柱式	3え5	2×2	4.00×3.68	1.92～2.04	1.80～1.88	N-53°-W	58～90	34～48	H 46を切る。F 4に切られる。
F 6	側柱式	3い7	2×2	3.52×3.52	1.72～1.80	1.28～2.24	N-23°-W	24～56	30～68	H 45・M 2を切る。
F 7	側柱式	6く3	2×1	3.84×3.00	1.92～1.96	3.00	N-90°	37～47	14～33	P 2・P 3の位置が定位置にない。
F 8	側柱式	6こ3	2×1	3.20×2.56	2.56	2.32	N-29°-E	7～13	11～22	北側に付属ピットP 5・P 6あり。
F 9	側柱式	2い9	3×3	4.72×4.16	1.36～1.72	1.20～1.60	N-90°	58～74	27～53	
F 10	側柱式 (溝持ち)	6く4	3×1	新2.52×2.80 旧2.40×2.24	1.04～1.48 1.00～1.44	2.80 2.24	N-15°-E N-12°-E	282～300	44～50	北側に柱穴列あり。建て替えられたか? H 51を切る。
F 11	側柱式	6あ3	3×3	4.70×5.60	1.70～3.00	1.20～1.50	N-76°-W	36～60	20～29	H 39に切られる。
F 12	側柱式	6い2	2×1	4.72×3.20	1.92～2.40	0.88～3.20	N-13°-W	36～65	17～29	南北棟。F 20を切る。
F 13	側柱式	6え9	3×3	4.60×4.12	1.36～1.76	1.16～1.56	N-90°-E	60～78	23～31	H 34に切られる。
F 14	側柱式	2あ10	3×3	4.76×3.92	1.44～1.68	1.12～1.48	N-88°-W	52～71	16～46	カクランにより一部切られる。
F 15	側柱式	5あ8	3×2	5.80×4.92	1.28～2.62	2.24・2.68	N-80°-W	46～65	17～40	東側はM 4に切られる。
F 16	側柱式	5く2	3×3	4.56×3.88	1.44～1.60	1.20～1.36	N-74°-E	36～74	17～37	H 43に切られる。
F 17	—	5か10	—×<2>	2.76×—	1.32～1.44	—	N-11°-E	42～48	21～27	南側は調査区外。
F 18	側柱式	5う5	3×3	5.36×4.24	1.52～1.96	1.00～1.84	N-64°-E	29～64	11～26	北東側はプラン確認不可能。
F 19	側柱式	5う7	2×2	3.52×3.76	1.24～2.28	1.68・2.08	N-2°-E	30～55	13～36	H 1・H 2・H 3を切る。
F 20	側柱式	6う1	2×2	4.40×4.48	5.94	1.08・2.40	N-13°-W	28～58	7～18	F 12に切られる。

第 65 表 土坑一覧表

遺構名	検出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	備考 (重複関係)	遺構名	検出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	備考 (重複関係)
D 2	欠番				D 15	6こ3	86×—×29	楕円形	H 23に切られる。
D 3	7え4	128×75×33	隅丸方形		D 16	欠番			
D 4	欠番				D 17	6こ2	106×96×30	円形	D 12に切られる。
D 5	7い8	158×70×25	長楕円形		D 18	6か5	104×80×14	隅丸 長方形	
D 6	6け3	128×121×35	円形		D 19	3い8	134×87×33	楕円形	
D 7	6け2	132×116×36	円形	D 12を切る。	D 20	3い8	239×<160>×35	隅丸方形	H 24に切られる。
D 8	3い9	92×66×21	楕円形	D 9を切る。	D 21	6け10	86×68×22	楕円形 (不整)	
D 9	3い9	<290>×166×31	隅丸 長方形	H 24・D 8に切られる。 H 52・M 2を切る。	D 22	3え9	197×107×39	隅丸 長方形	
D 10	6け2	92×84×28	円形		D 23	3か7	130×114×77	円形 (不整)	
D 11	3か8	96×90×63	円形	H 17を切る。	D 24	3か7	109×94×59	隅丸 長方形	
D 12	6け2	94×63×35	楕円形 (不整)	D 7に切られる。 D 17を切る。	D 25	6お7	262×<159>×43	隅丸 長方形	H 55に切られる。
D 13	6こ3	143×107×22	楕円形		D 26	3か6	120×<60>×61	隅丸 長方形	調査区外で切られる。

第66表 単独ピット一覧表(1)

遺構名	検出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 1	3お9	57×56×20	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3) 2 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3)	弥生甕片、壺片
P 2	3え8	52×41×22	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3) 2 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3)	弥生壺片
P 3	欠番				
P 4	3お8	30×29×25	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3) 炭化物粒含む。	
P 5	7え4	70×60×24	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2) 粉状の炭を多く含む。	弥生塗彩壺片、甕片 H 13 を切る。
P 6	7え5	78×64×11	楕円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生壺片、甕片 古墳椀片、壺片、杯片
P 7	7う5	60×56×30	円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生壺片
P 8	欠番				
P 9	3え6	46×34×21	楕円形	1 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3) 焼土・炭化物粒子含む。	弥生壺片、古墳甕片
P 10	3お7	44×26×23	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 11	3か7	42×21×27	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 12	7う5	62×56×28.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	古墳椀片 (内黒)
P 13	7う5	30×30×12.5	円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生壺片
P 14	7う6	39×38×16	円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 15	7う6	46×43×10.5	楕円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 16	7う6	28×26×54.5	円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 17	7い7	28×25×18.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	弥生高杯片 2
P 18	7い7	42×33×19.5	楕円形	1 焼土層 2 にぶい黄褐色土層 (10 Y R 5 / 3)	
P 19	7い7	56×41×15.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2)	弥生塗彩杯片、壺片
P 20	7い8	55×46×25.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2)	土器多く含む。 弥生甕片、壺片、塗彩片
P 21	7い8	48×42×34.5	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	
P 22	7う8	52×48×20	円形	1 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生甕片、壺片、塗彩片 古墳甕片、壺片、杯片
P 23	7あ7	52×46×14	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	
P 24	3お5	38×36×35	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 2) シルト質土	弥生壺片
P 25	3い7	40×40×11.5	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 2)	
P 26	3い7	40×37×39.5	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3) 2 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 2) 3 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3)	
P 27	6く5	45×38×50	楕円形	1 黒色土層 (10 Y R 2 / 1) シルトブロック少量混入。 2 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2) ローム粒子・シルト粒子混入。 3 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3) 砂多量に混入。	
P 28	3い9	46×44×9	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 2)	弥生壺片、古墳甕片
P 29	3お9	36×32×13	楕円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2) 焼土・炭化物含む。	
P 30	3お8	35×31×27.5	楕円形 (不整)	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 31	6く3	41×32×32	〃	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 1) 砂多く含む。	
P 32	6く3	35×-×28	円形		
P 33	6く3	42×40×23	円形	1 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3) 柱痕。 2 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2)	
P 34	3い9	37×37×73	円形	〃	
P 35	3う6	<19>×<7>×11	—	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 36	6こ5	72×61×28	楕円形 (不整)	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	古墳壺片
P 37	7あ5	46×42×25	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 38	6こ6	68×67×60	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生壺片、古墳甕片
P 39	3い8	41×42×48.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 2) ・暗褐色土 (10 Y R 3 / 3) 細ブロック含む。	弥生甕片

第66表 単独ピット一覧表(2)

遺構名	検出位置	規模 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 40	3う8	25×21×16	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 41	3う8	39×38×36.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 42	3う8	45×34×41.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 43	3う8	38×38×36.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 44	3う8	24×20×23.5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3)	
P 45	6う9	50×45×53	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/2)	H 28 を切る。
P 46 ~ P 49	欠番				
P 50	3き10	124×68×22	楕円形 (不整)	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/2) 2. 明褐色土層 (7.5 Y R 5/8) 焼けている。 3. 暗褐色土層 (10 Y R 3/4) 地山の砂質土主体。	
P 51	3か10	82×64×14	楕円形 (不整)	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/2) 2. 暗褐色土層 (10 Y R 3/4) 地山の砂質土主体。	
P 52	6あ2	25×24×15	円形	1. にぶい黄褐色土層 (10 Y R 5/3)	
P 53・ P 54	欠番				
P 55	6こ3	39×32×39	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2/3) 砂多量・シルト含む。	
P 56	6こ2	28×28×33	円形	1. 黄褐色(10 Y R 5/6)・黒褐色(10 Y R 3/1)の混在土層	
P 57	6う2	50×44×22	円形	1. 黄褐色(10 Y R 5/6)・黒褐色(10 Y R 3/1)の混在土層	
P 58	欠番				
P 59	6い1	58×48×29	楕円形	1. 黄褐色(10 Y R 5/6)・黒褐色(10 Y R 3/1)の混在土層	
P 60	欠番				
P 61	2い7	74×54×18	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 62	2い7	20×18×13	円形	1. 褐灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 63	2い7	59×45×12	楕円形	1. 褐灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 64	2う7	34×32×30	円形	1. 褐灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 65	2う7	40×37×29	楕円形	1. 褐灰色土層 (10 Y R 4/1)	
P 66	2う7	27×24×-	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 67	2う8	27×23×7	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 68	2う7	27×24×6	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 69	2う8	36×30×-	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 5/2)	
P 70	2う8	52×51×12	円形 (不整)	1. 黒褐色(10 Y R 2/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 71	2え8	41×35×10	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 2/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 72 ~ P 74	欠番				
P 75	2あ8	33×31×12	円形	1. 灰黄褐色(10 Y R 4/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 76	2あ8	24×22×13	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 77	2い8	56×35×13	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/2)	
P 78	2え10	73×51×16	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 79	2う10	108×30×34	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 80	6う1	136×36×38	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/2)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 81	欠番				
P 82	2い8	28×26×13	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 83	2い8	24×22×23	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3/1)	
P 84	2え9	52×41×26	楕円形 (不整)	1. にぶい黄褐色土層 (10 Y R 5/3)	
P 85	6う1	51×40×21	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4/2)	
P 86 ~ P 88	欠番				

第66表 単独ピット一覧表(3)

遺構名	検出位置	規模(c m) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 89	3え8	—	—	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/2)	弥生壺片、塗彩片
P 90	7え1	29×29×18	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)	
P 91	3え9	37×36×16.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/2) 2. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)	
P 92	3え9	39×37×19.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)	
P 93	3う9	37×31×30.5	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)	
P 94	欠番				
P 95	5け4	47×45×20.5	円形	1. にぶい黄褐色土層(10 Y R 5/3)	
P 96	3か8	50×40×17	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/2)	
P 97	3か7	38×30×95	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/2)	
P 98	3か7	38×28×34	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/2)	D 23に切られる。
P 99	6か4	31×31×22	円形	1. 黒色土層(10 Y R 2/1)	H 53を切る。
P 100	6か4	45×35×17	円形	1. 黒色土層(10 Y R 2/1)	弥生小壺片、甕片 H 53を切る。
P 101	3き10	38×32×28	楕円形	1. 暗褐色土層(10 Y R 3/3)	破片
P 102	3き10	51×41×44	楕円形	1. 暗褐色土層(10 Y R 3/3)	弥生塗彩壺片
P 103	3か10	43×36×18	楕円形	1. 暗褐色土層(10 Y R 3/3)	
P 104	欠番				
P 105	3か6	68×52×57	楕円形	1. 褐色土層(10 Y R 4/4)砂主体。 2. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)シルト質土。 3. 黒褐色土層(10 Y R 3/2)シルト質土に地山の砂多く含む。	
P 106	5こ1	—	—	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	H 37に切られる。
P 107	5い7	30×27×11.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	弥生壺片 古墳甕片、杯
P 108	5い7	44×44×11.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	弥生破片 古墳甕片、壺片、杯片 H 4と重複
P 109	5え8	37×35×14.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	古墳杯底部 H 10を切る。
P 110	5え8	33×33×95	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)黄色のシルトブロック含む。	弥生小甕片 古墳 杯片、埴片
P 111	6え7	47×47×25	円形 (不整)	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)砂を多く含む。	H 59を切る。
P 112	6え8	42×39×—	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)底面石多い。	H 59を切る。
P 113	6え8	46×45×19	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 2/3)砂多量。	H 59を切る。
P 114	5う8	50×42×51	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)小礫・砂を含む。 2. 黒褐色土層(10 Y R 2/2)小礫を含む。	弥生壺片、甕片、古墳甕片 H 4を切る。
P 115	6き5	32×28×27	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)地山ローム粒子混入。 2. 黄褐色土層(10 Y R 5/8)砂主体、貼り床か、しまりなし。	H 25に切られる。
P 116	5か9	32×24×26	円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	西側調査区外
P 117	5か10	38×37×20	円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 118	5か10	38×35×21.5	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	
P 119	5か10	48×47×21	円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	
P 120	5か10	36×30×27	楕円形	1. 黒褐色土層(10 Y R 3/1)	
P 121	5う5	51×47×21.5	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	弥生壺胴部
P 122	5う5	31×29×21.5	円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 123	5う5	42×36×24	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 124	5え5	55×41×12	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 125	5う5	44×38×35	円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	弥生壺底部他、甕片、塗彩片 古墳壺底部
P 126	5う5	38×29×16	楕円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 127	5う5	52×52×40.5	円形	1. 黒褐色(10 Y R 3/1)・黄褐色(10 Y R 5/6)の混在土層	
P 128	5え5	52×52×17	円形	1. にぶい黄褐色土層(10 Y R 5/3)	
P 129	5い3	30×30×26	円形	1. 灰黄褐色土層(10 Y R 4/2)	

第66表 単独ピット一覧表(4)

遺構名	検出位置	規模 (c m) 長径×短径×深さ	平面形	覆 土	出土遺物・備考
P 130	5い3	28×28×20	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 131	5あ3	30×22×23	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 132	5あ4	35×34×30	円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	
P 133	5あ2	39.6×84×52	楕円形	1. 灰黄褐色土層 (10 Y R 4 / 2)	弥生壺片、甕片、塗彩杯 古墳壺片、甕片、台付甕 溝持ち掘立柱建物址の一部
P 134	4こ2	33×31×34.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1)	
P 135	5え9	55×55×19.5	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 1) しまりややあり。白色のシルト層含む。	H 7 を切る。
P 136	欠番				
P 137	5こ1	48×42×24	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 3 / 2) 2. 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 4)	H 37 に切られる。
P 138	3い9	32×16×33.5	楕円形	1. 暗褐色土層 (10 Y R 3 / 3) シルト層土含む。	
P 139	3お7	32×27×18	楕円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	
P 140	3え7	28×27×35	円形	1. 黒褐色土層 (10 Y R 2 / 3)	H 19 を切る。

付編

川原端遺跡から出土した炭化材・炭化物の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

川原端遺跡は、千曲川支流の湯川右岸段丘上に位置する。今回の発掘調査により、弥生時代中期および古墳時代の竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑、ピットなどの遺構が検出されている。このうち、竪穴住居址の中にはいわゆる火災住居址も認められ、住居構築材などの一部と考えられる炭化材や炭化物などが出土している。

今回の分析調査では、これらの炭化材および炭化物の同定を行い、当時の用材などに関する資料を得る。

1. 資料

資料は出土した炭化材・炭化物 6 点（資料番号 1～6）である。各資料の詳細は、同定結果とともに表 1 に記した。

2. 方法

木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表 1 に示す。資料番号 2 は炭化物でなく、火山弾であった。炭化材は、針葉樹 1 種類（カラマツまたはトウヒ属）と広葉樹 2 種（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を、以下に記す。

・カラマツまたはトウヒ属 (*Larix kaempferi* (Lamb) Carriere or *Picea*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織の水平壁および末端壁には数珠状に肥厚が認められる。分野壁孔は窓状でないことは確認できたが、保存が悪く詳細は不明。また放射仮道管の有縁壁孔も観察できなかった。放射組織は単列、1～20細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Carris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1～3 列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

資料は脆い。環孔材で、孔圏部は 1～3 列、孔圏外への移行は観察できなかった。小道管は、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

表 1 樹種同定結果

番号	遺構	種別	樹種
1	H 9 号住居址Ⅲ区	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
2	H32号住居址	火山弾	
3	H54号住居址Ⅰ区	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	H54号住居址	炭化材	クリ
5	H54号住居址堀方	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
6	M 2	炭化材	カラマツまたはトウヒ属

4. 考察

各住居址から出土した炭化材は、落葉広葉樹のクヌギ節、3点とクリ1点であった。この結果から、本遺跡では落葉広葉樹（特にクヌギ節）を中心とした用材が行われていたことが推定される。佐久市内では、これまでも下芝宮遺跡、下聖端遺跡などの遺跡で、住居構築材と考えられる炭化材の樹種同定が行われており、コナラ節が多い結果が得られている。（バリノ・サーヴェイ株式会社、1992など）。クヌギ節とコナラ節は、現在の植生などを考慮すれば、クヌギとコナラの可能性がある。なお、これらはともに二次林の構成種であるが、川沿いの沖積地など土壌水分が多い所ではクヌギが多くなり、乾燥している場所ではコナラが多くなる。（宮脇、1977）とされている。このことから、クヌギ節とコナラ節の違いは、周辺植生の違いを反映している可能性がある。

住居構築材にクヌギ節、コナラ節が多い結果は、御代田町や小諸市でも確認されている。（バリノ・サーヴェイ株式会社、1988 a, 1988 b, 1989 a, 1989 b, 1994 a, 1994 b, 1995など）。この結果から、本地域周辺ではクヌギ節やコナラ節を主とする二次林が広い範囲で見られ、そこから住居構築材となる木材を得ていたことが推定される。また、クヌギ節やコナラ節の木材は比較的強度が高いことから、このような材質が考慮されていた可能性もある。

なお、M2から出土した炭化材（資料番号6）の樹種は、針葉樹のカラマツまたはトウヒ属であったが、いずれも現在本遺跡周辺で植林以外に生育が認められない種類である。そのため、最も近い生育地である浅間山や妙義山周辺から運ばれてきた可能性がある。一方、寄山遺跡では、約1.4万年前の浅間山活動期（軽石流期）に堆積した軽石流堆積物中にトウヒ属の立木が認められており、最終氷期には佐久盆地にもトウヒ属が生育していたことが明らかとなっている。軽石流堆積物は、湯川上流域にも分布していることから（荒巻、1993）、軽石流堆積物中から洗い出されたトウヒ属などの木材が利用された可能性もある。今後、放射性炭素年代測定を行うなどして検証したい点である。

なおH32号住居址から出土した炭化物（資料番号2）は、火山弾であった。本遺跡の立地を考慮すれば浅間山起源の火山噴出物と考えられるが、いずれの噴火に由来するか不明である。

引用文献

荒巻重雄（1993）浅間火山地質図．地質調査所．

宮脇 昭編（1977）日本の植生．535P．，学研．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1988 a）鋳物師屋遺跡出土炭化材の同定．小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集「鋳物師屋遺跡群 鋳物師屋一長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書」，P 116-117，小諸市教育委員会．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1988 b）十二遺跡出土炭化材の樹種同定．「鋳物師屋遺跡群十二遺跡」P．393-399，御代田町教育委員会．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1989 a）広畑遺跡出土炭化材の同定．「広畑遺跡」p35-40，御代田町教育委員会．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1989 b）根岸遺跡出土の炭化材同定．「鋳物師屋遺跡群根岸遺跡発掘調査報告書」p 291-293，御代田町教育委員会．

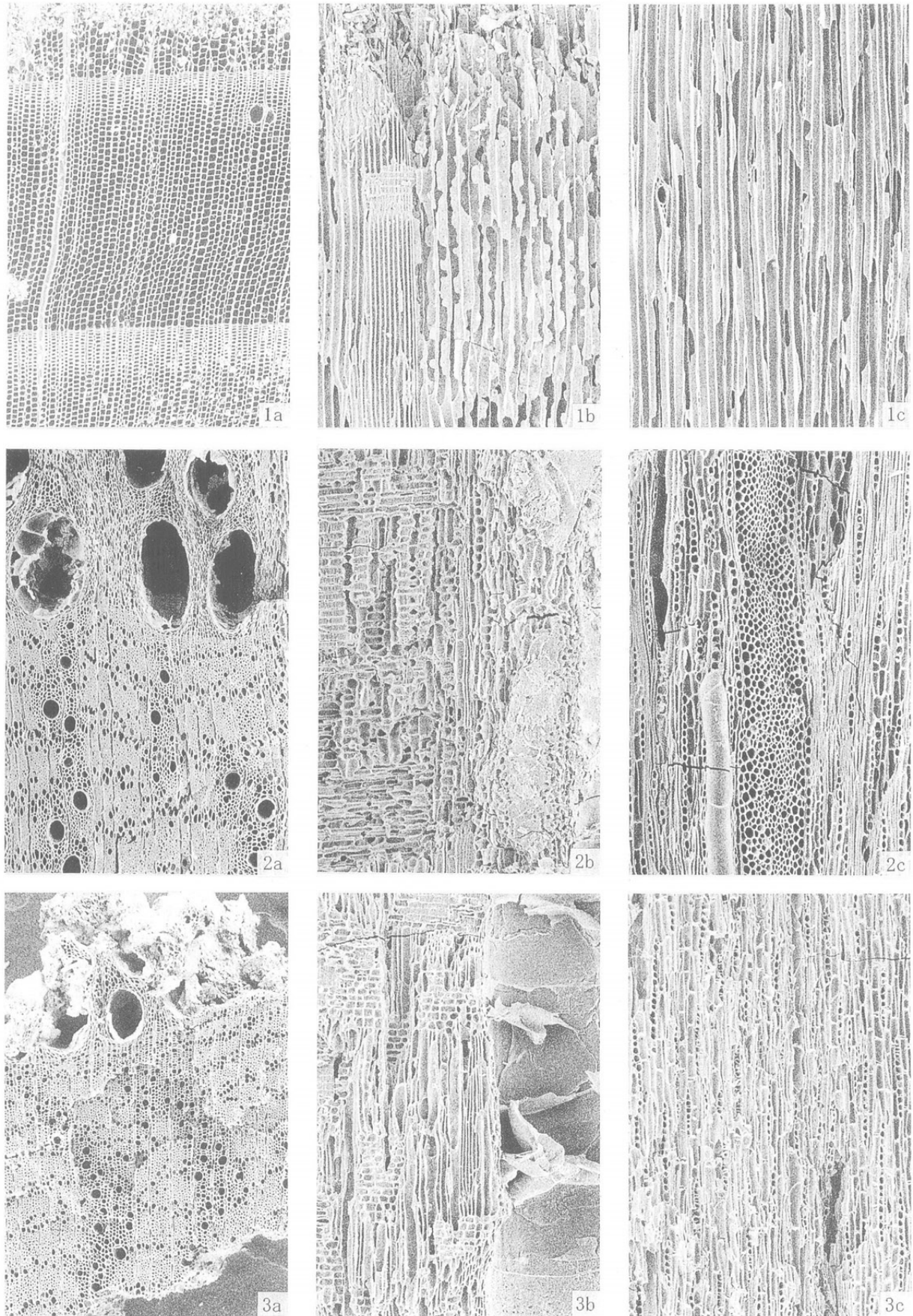
バリノ・サーヴェイ株式会社（1992）下芝宮遺跡・下聖端遺跡炭化材同定報告．「国道141号線関係遺跡」p 355-391 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1994 a）過去の食物利用について「東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原」p613-624，小諸市教育委員会．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1994 b）大塚原における平安時代の住居構築材．「大塚原遺跡群 大塚原（第2次）」p 81-84，小諸市教育委員会．

バリノ・サーヴェイ株式会社（1995）第1号住居址出土の炭化材樹種．「三子塚遺跡群 十石坂上遺跡」p 12-13 小諸市教育委員会．

図版1 炭化材



- 1. カラマツまたはトウヒ属 (試料番号6)
 - 2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (試料番号1)
 - 3. クリ (試料番号4)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

川原端遺跡出土の獣骨

宮崎 重雄

川原端遺跡は長野県佐久市大字鳴瀬字川原端にあり、弥生時代中期と古墳時代の集落跡である。平成8年8月～10月に行われた発掘調査で、竪穴住居址・溝などからニホンシカと野ウサギの歯や骨が出土した。

ここで比較に用いた現生種は、ともに足尾山地産で、ニホンシカがオスの成獣、ノウサギは性別不明の亜成獣で、計測値を（ ）の中に示した。

1. 2号竪穴住居址（古墳時代）

IV区堀方から出土したニホンシカ（*Cervus nippon*）の右下顎第2後臼歯と第3後臼歯である。歯の大きさは、第2後臼歯の歯冠近遠心径が $22.4 + \text{mm}$ （ 17.3 mm ）、歯冠高が頰側で 22.2 mm である。舌側の補錘がよく発達していて、その高さは 4.6 mm である。第3後臼歯は中葉・後葉の近遠心径が 17.2 mm （ 13.6 mm ）、歯冠高は頰側で 21.2 mm である。中葉・後葉間の基部に高さ 2.2 mm の補錘が観察される。咬耗は第3後臼歯後葉におよんでいて、咬頭部にわずかの咬耗がみられる。このことから年齢は2才程度と推測される。

各計測値は現生種よりもかなり大きい個体であることを示している。

2. 16号竪穴住居址（古墳時代）

※No 1

①ニホンシカの角の破片で、10数片に細片化しているが、直径は 23.2 mm 以上あり、オスの成獣であることがわかる。保存がきわめて不良で、加工痕などの存否は確認されていない。

②ノウサギの左橈骨近位半片である。焼かれた骨で、食稜残滓の一部とも考えられる。熱によって歪みが生じ、骨幹部が緩く湾曲している。全長は $35.1 + \text{mm}$ （ 75.8 mm ）あり、近位横径・近位前後径はそれぞれ 6.5 mm （ 7.4 mm ）、 4.5 mm （ 4.8 mm ）である。熱による骨の収縮を考えに入れても、現生種と比べてかなり小さい。

※1区

6片に分離しているニホンシカの歯片で、左下顎第2後臼歯と思われる。最大歯冠高 19.2 mm あるが、咬頭先端部が咬耗していることにより、年齢は1から5才程度と推定される。

3. 55号竪穴住居址（古墳時代）No 1

カマド跡から出土した7片の細焼骨で、肢骨である。ニホンシカのものであろうが、確証はない。火熱による亀裂が目立つ。

4. 59号住居址（弥生時代）炉跡

住居址中央部の炉跡から出土した4片の焼骨である。細骨片化しすぎていて動物種等の詳細は不詳である。

5. F15

ニホンシカの左第3後臼歯の舌側半が残存したものである。咬耗が進み、歯冠高が 12.8 mm と低く、老獣であることを示している。前歯と中葉の基部に高さ 6.7 mm の大きな補錘があり、中葉と後葉の間にも痕跡的なものがある。また、後葉遠心面には痕跡的なタロニドが観察される。

歯冠近遠心径は 24.4 mm （ 21.4 mm ）で、現生シカよりはるかに大きい。

6. 2号溝

①ニホンシカの右舌顎第2後臼歯と第3後臼歯である。第2後臼歯は歯冠舌側半と頰側片の2片である。咬耗はすでに始まっていて、最大歯冠高は 21.8 mm である。

第3後臼歯は完存し、未咬耗である。歯冠近遠心径は最大で 25.1 mm （ 21.5 mm ）、同頰舌径は 12.0 mm 、 10.3 mm 、歯冠高は 20.3 mm である。現生種のオスよりはるかに大きい。

咬耗の状態から、年齢は1.5才ほどが推定される。

②ニホンシカの左下顎第2後臼歯と第3後臼歯である。第2後臼歯は咬耗を受けていることはわかるが、7片に細片化していて詳細は不明である。第3後臼歯は未咬耗で前葉・中葉近遠心径が 19.0 mm （ 17.4 mm ）で歯冠高は 22.6 mm である。推定年齢は1.5才前後である。①と②は同一個体の場合も考えられるが、歯冠高や肉眼的印象に違いのあるこ

とから、別個体の可能性が高い。

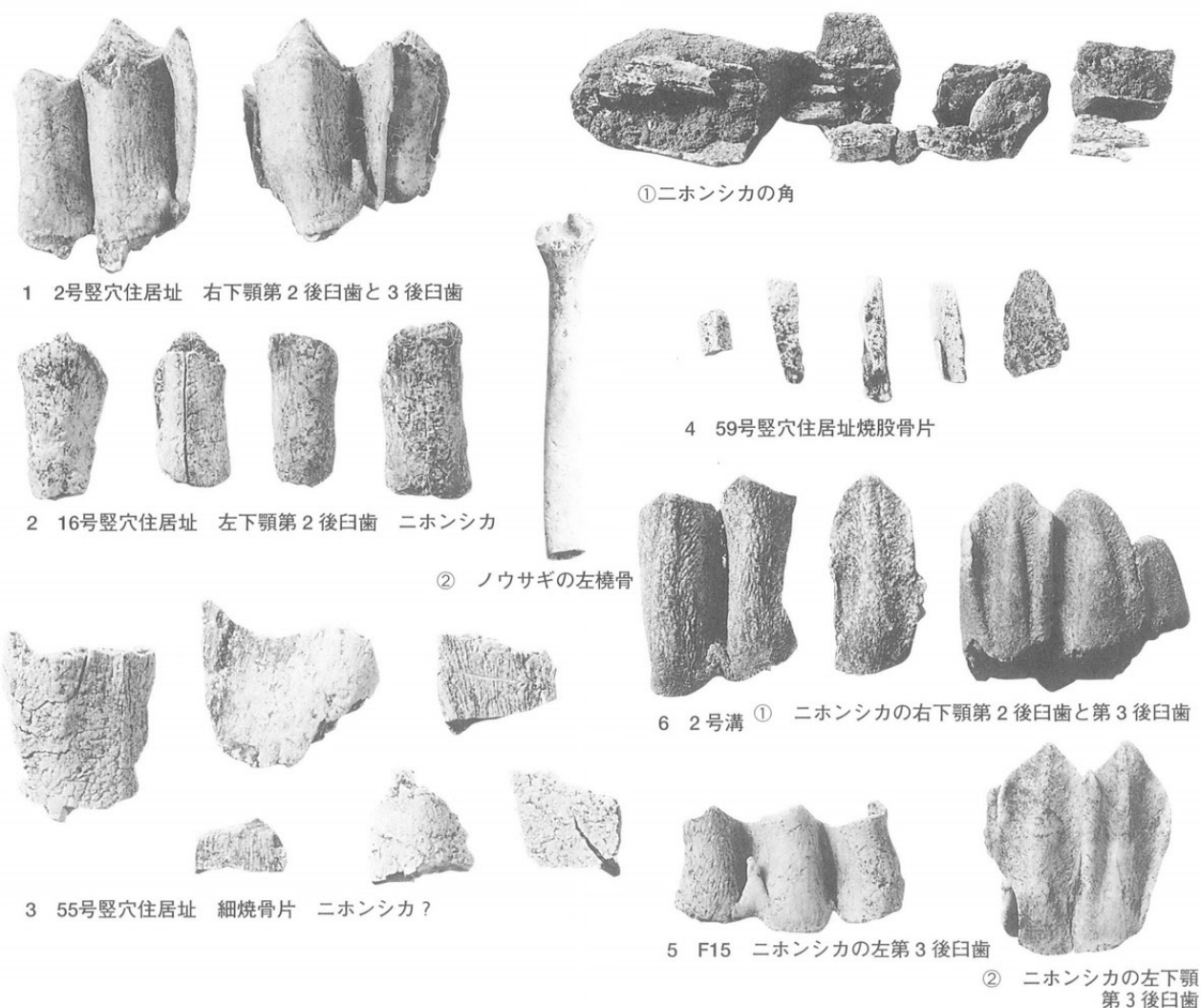
まとめ

- (1) 出土した獣骨はニホンシカとノウサギである。
- (2) ニホンシカについて
 - ・いずれも現生足尾産オスよりも大きい個体である。
 - ・1例 (F15) を除き1~2才程度の若い個体である。
 - ・検出された歯は下顎第2後臼歯・第3後臼歯に限られている。上顎臼歯やその他の下顎の歯が出土しない理由は不明である。
- (3) ノウサギは現生足尾産ノウサギより小さい個体である。
- (4) ニホンシカ?とノウサギの焼肢骨片の出土があり、食稜残滓の可能性もある。

参考文献

大泰司紀之 (1980) 遺跡出土のニホンシカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法. 考古学と自然科学, 13, 51-72

Schmid, E (1972) Atlas Of Animal Bones. Elsevier Publishing Company. 159P.





H1号住居址（北より）



H2号住居址（西より）



H2号住居址カマド（東より）



H2号住居址カマド（南より）



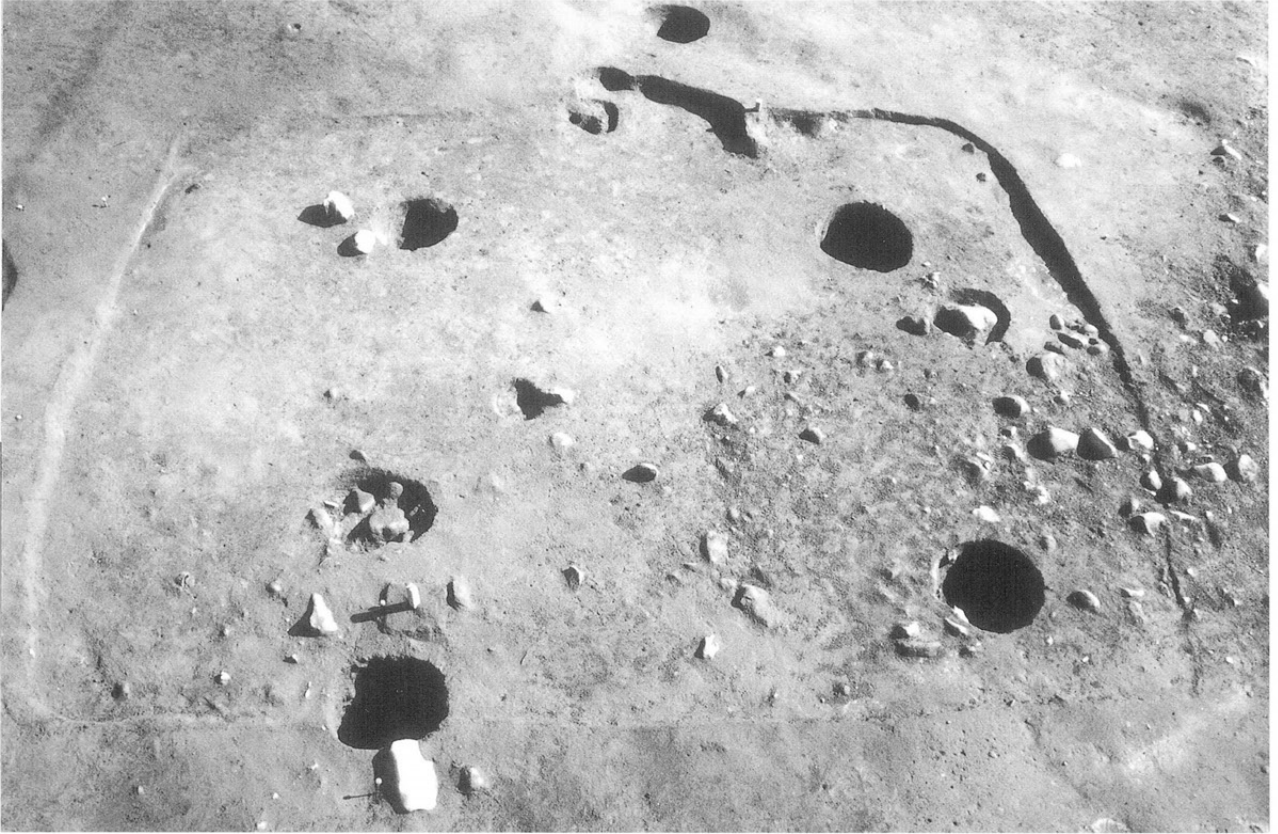
H2号住居址堀方（北より）



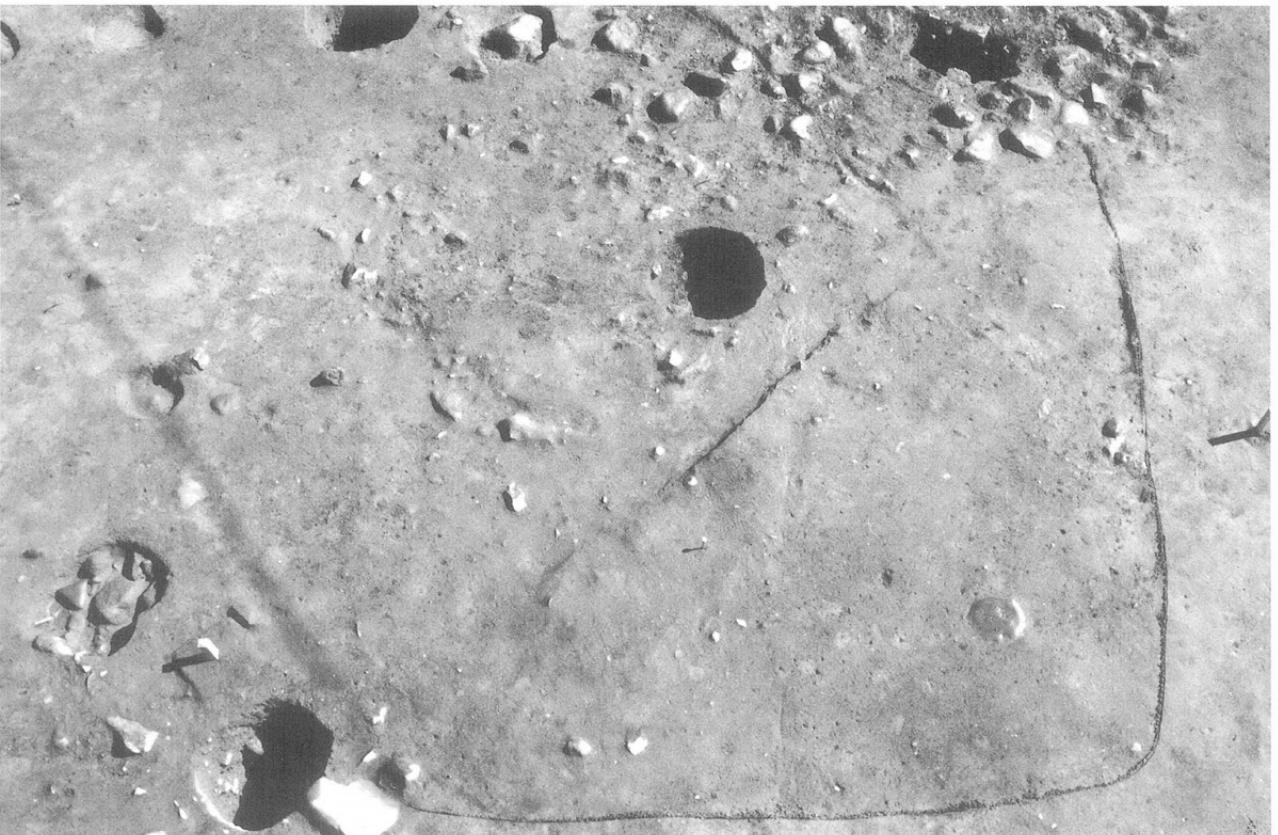
H3号住居址カマド堀方（西より）



H3号住居址（南より）



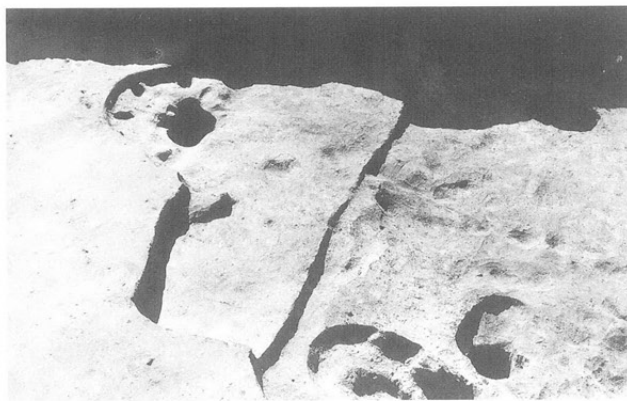
H4号住居址（西より）



H5号住居址（南より）



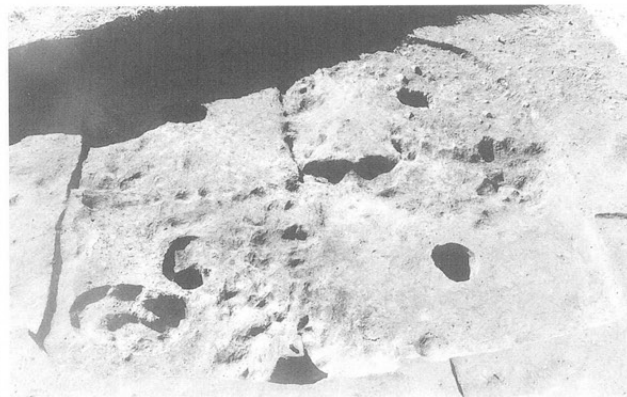
H 6 号住居址 (北より)



H 6 号住居址掘方 (北より)



H 6 号住居址 (西より)



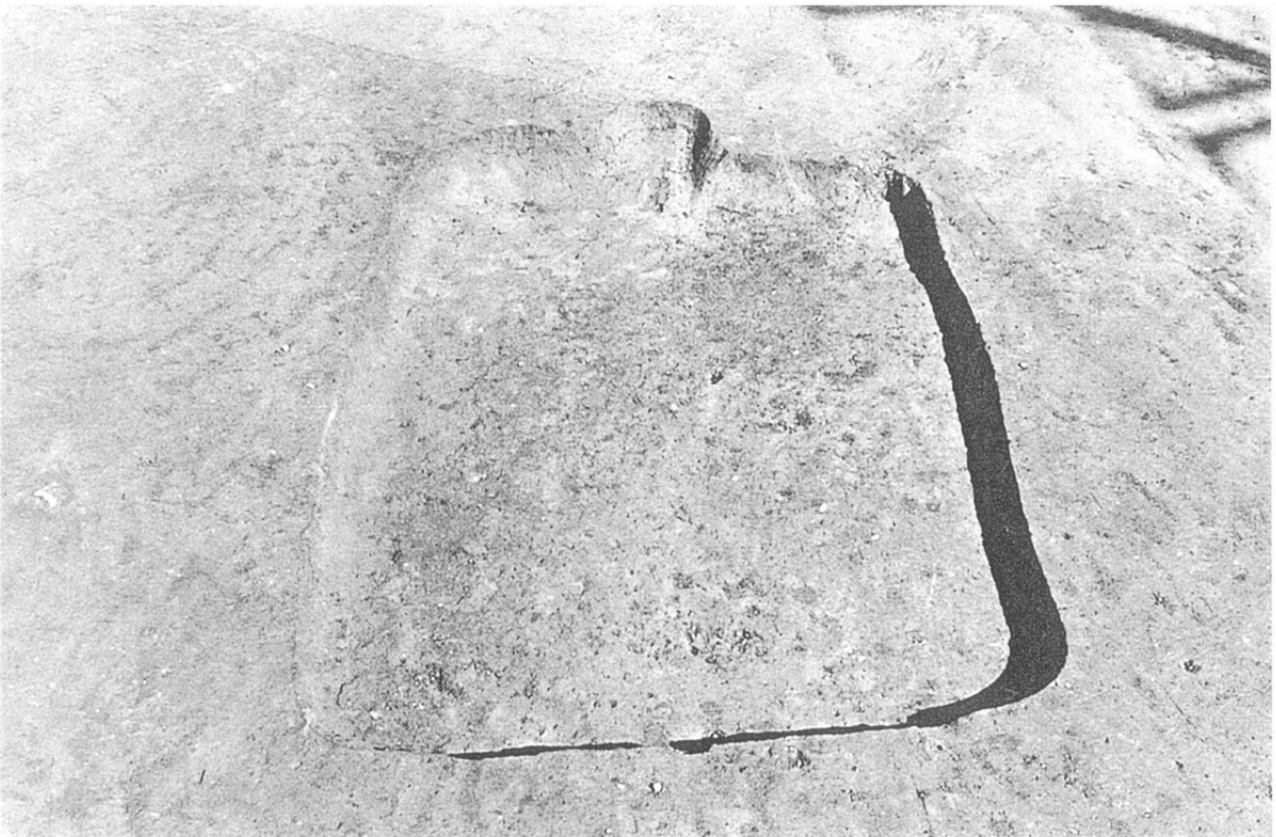
H 7 号住居址掘方 (北より)



H 7 号住居址 (北より)



H 8号住居址（北より）



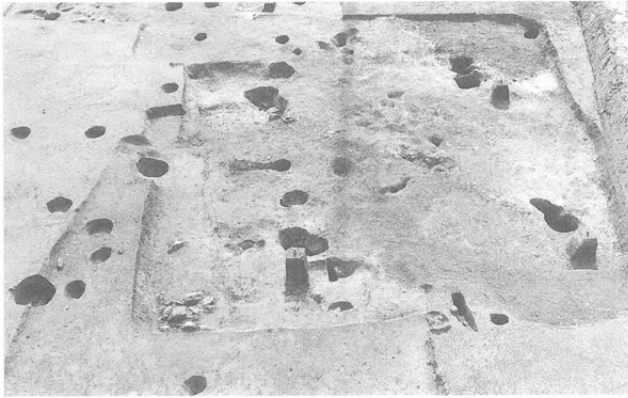
H 9号住居址（西より）



H 8号住居址（南より）



H 9号住居址カマド堀方（西より）



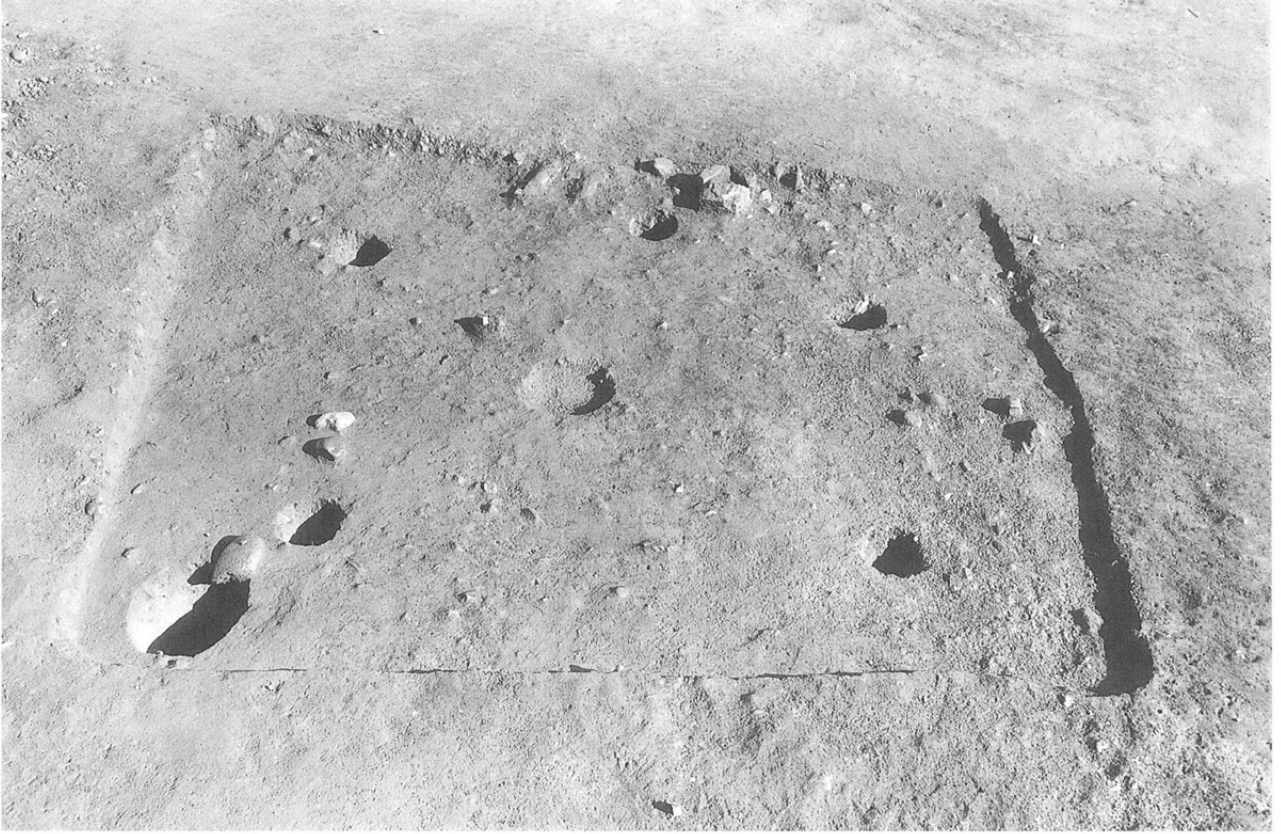
H 10号住居址堀方（北より）



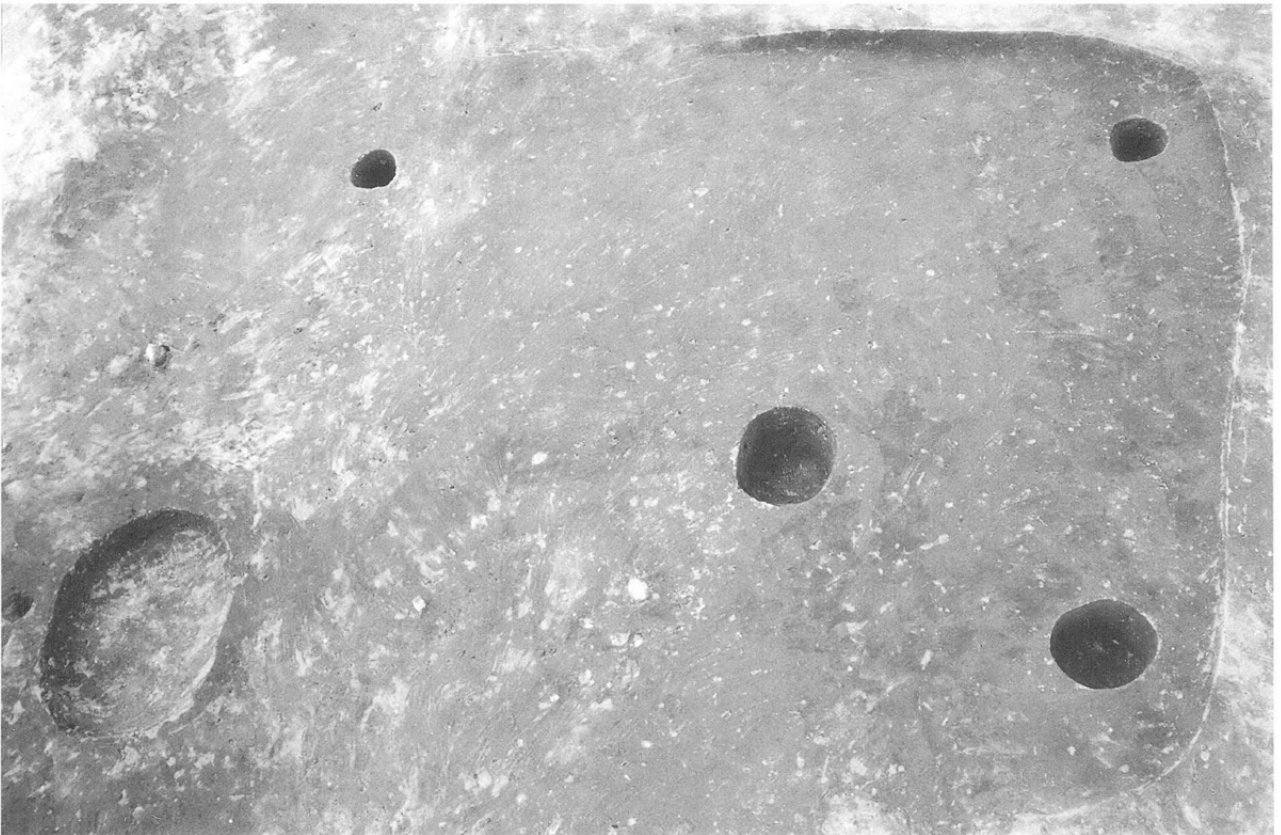
H 10号住居址カマド（南より）



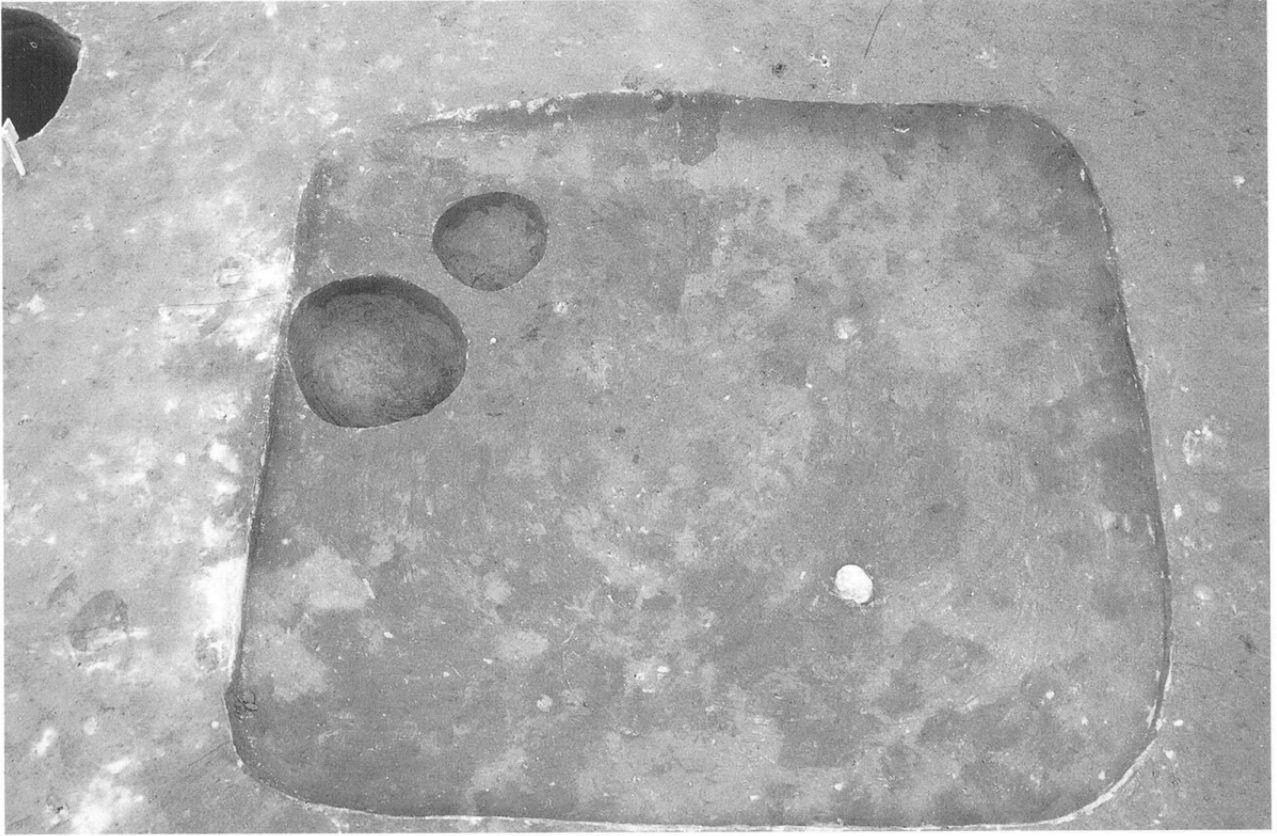
H 10号住居址カマド（北より）



H 11号住居址 (南より)



H 12号住居址 (南より)



H 13号住居址（南より）



H 14号住居址（東より）